

洗足こども短期大学 幼児教育保育科
2019年度 シラバス一覧

科目授業名	ページ
教育原理	1
保育原理Ⅰ/保育原理	3
保育者論	5
教育心理学	7
発達心理学Ⅰ/子どもの理解と援助	9
子どもの保健1/子どもの保健	11
子どもの保健(演習)/子どもの健康と安全	13
子どもの保健2	15
子どもの食と栄養	17
乳児保育Ⅰ	19
障害児保育Ⅰ/特別支援と保育Ⅰ	21
障害児保育Ⅱ	23
保育内容・健康/保育内容(健康)	25
保育内容・人間関係/保育内容(人間関係)	27
保育内容・環境/保育内容(環境)	29
保育内容・言葉/保育内容(言葉)	31
保育内容・総論	33
教育課程論	35
カウンセリング論	37
保育・教職実践演習(幼稚園)	39
社会福祉	41
児童家庭福祉/子ども家庭福祉	43
家庭支援論	45
相談援助	47
保育相談支援	49
社会的養護	51
社会的養護内容	53
造形表現Ⅰ/造形表現(表現)	55
保育内容・造形的表現	58
幼児音楽Ⅰ	61
幼児音楽Ⅱ	64
ピアノⅠ	67
ピアノⅠ再履修	70
ピアノⅡ	73
合唱	76

洗足こども短期大学 幼児教育保育科
2019年度 シラバス一覧

科目授業名	ページ
基礎表現/幼児教育の方法と技術	79
総合表現(ぐりとぐら)	82
演技実習	85
体育(乳幼児体育を含む)/子どもの健康と運動遊び	87
保育者のための文章表現1A	90
教育実習指導Ⅰ/基礎実習指導	93
教育実習指導Ⅱ/教育実習Ⅰ(事前事後の指導を含)	95
教育実習指導Ⅲ	97
保育所実習Ⅰ	99
保育実習指導Ⅰ(保育所)	101
保育所実習Ⅱ	103
保育実習指導Ⅱ(保育所)	105
児童福祉施設実習Ⅰ	107
保育実習指導Ⅰ(施設)	109
情報機器の操作	111
英語(外国語コミュニケーション)	113
健康・スポーツ	116
保健体育	119
法学(日本国憲法)	121
ビジネス講座(秘書検定対策)	123
ウインド・バンド1	125
ウインド・バンド2	128
ミュージカル	131
特別研究(ゼミ)黒須	133
特別研究(ゼミ)クリス	136
特別研究(ゼミ)谷上	139
特別研究(ゼミ)井上	142
特別研究(ゼミ)和気	145
特別研究(ゼミ)古田	148
特別研究(ゼミ)秋山	151
パイプオルガン1	154
パイプオルガン2	157

科目名	教育原理	授業コード	YK4115**	科目コード	YK4115
担当教員	柳井 郁子・長島 万里子				
授業形態	講義	配当学年	1	期間	半 期
単位数	2	科目分類	専門必修	幼稚園教諭	必 修
				保育士資格	必 修

1. 主題・到達目標

〈主題〉教育とは何か、学校とは、そして学ぶとはどういうことかを考える。また、教育学は何を課題としてきたかについても学ぶ。

〈到達目標〉教育と教育学についてその概念・思想・歴史について理解する。
 保育者として現代の教育をめぐる諸課題について自ら考え、自分の意見をもち議論できるようになる。

2. 授業概要

基本的に講義形式だが、教育実践例の検討等については映像資料を活用し、議論の機会を設ける予定である。学校や保育の現場における授業実践、及び家庭や地域社会における教育の方法・内容・制度についても取り上げ、さまざまな教育の場における現代的課題について考える。保育者になるためには教育や子どもに対する多様な見方・考え方を理解し、自らも保育観・子ども観について常に考え続けることが必要である。そのため、グループ学習やディスカッションを多く取り入れる。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

広範な学習内容になる。教育関係の図書資料をできるだけ多く読み、新聞やテレビ等、毎日の報道からも材料を得て、意欲的に学習を発展すること。また、授業で紹介する参考図書については、できるだけ多く読むこと。
 次回の授業の予習として、該当箇所を読んでくること。また、授業後には配付資料を熟読し、授業で学んだことに基づき自分の気づきや意見をまとめておくこと。家庭での学習は2時間程度が想定される。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点＜授業内の課題・レポート・授業への参加姿勢等＞（評価の50%）
 第15回目の授業時間内に実施する確認テストによる内容の理解度（評価の50%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：

『やさしい教育原理』＜第三版＞田嶋一・中野新之祐・福田須美子・狩野浩二著（有斐閣）2016年

参考文献：

『幼稚園教育要領解説』＜最新版＞文部科学省（フレーベル館）

『保育所保育指針解説書』＜最新版＞厚生労働省（フレーベル館）

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』＜最新版＞内閣府・文部科学省・厚生労働省（フレーベル館）

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

毎時間の授業の要点や関連学習等を記録したノートを作成し、配布プリントを整理保存すること。
 随時学生からの発言を求め、積極的な参加を期待する。

授業計画	
	【前期】
1	ガイダンス（授業のねらい、進め方及び授業の受け方についての説明）
2	教育とは何か
3	教育と子ども家庭福祉
4	学校とは何か
5	子どもとは何か
6	子ども観の歴史的変容
7	教育の歴史①近代公教育制度の成立
8	教育の歴史②戦後の学校教育
9	子どもの権利
10	教育の思想
11	教育の制度
12	教育実践の可能性①保育の実践例を考察する
13	教育実践の可能性②学校教育の実践例を考察する
14	生涯学習社会における教育と私たちの課題
15	確認テストとまとめ

科目名	保育原理Ⅰ/保育原理		授業コード	YK5017**	科目コード	YK5017
担当教員	金 允貞・高橋 優子					
授業形態	講義	配当学年	1		期間	半 期
単位数	2	科目分類	専門必修		幼稚園教諭	必 修
					保育士資格	必 修

1. 主題・到達目標

<主題>

保育の意義・目的・制度・基礎理論・方法、保育者の在り方を学ぶ

<到達目標>

- ①保育の意義及び目的を理解する。
- ②保育に関する法規と制度を理解する。
- ③保育の思想や歴史を知る。
- ④保育の現状と課題を理解する。
- ⑤保育の運営、地域との連携、安全への対応を理解する。
- ⑥保育者の在り方を知る。

2. 授業概要

- ・現代の保育の考え方や方法がどのような根拠を持っているのか様々な視点から探求する。
- ・幼児教育・保育の意義および基本、目標、方法、内容、特性について「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」をもとに解説する。
- ・幼稚園、保育所等の映像や資料を通し子ども理解を深め、保育者に求められる在り方について話し合う。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

近所にある幼稚園や保育所などに興味を持って調べたり、日常の生活の場で出会う子どもの姿に興味や関心を持って観察する。新聞等の報道にも関心を持って生活して欲しい。また、授業内で指示される内容について予習し、授業中に紹介される保育に関する文献を図書館で借りて復習を行う。予習・復習は90分程度が想定される。

4. 成績評価の方法及び基準

15回目の授業内テストによる内容の理解度（評価の50%）

課題提出（評価の20%）

出欠状況・授業に取り組む意欲（評価の30%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

- ①『保育原理』神蔵幸子・宮川萬寿美・中川秋美（編）（青踏社）
- ②『幼稚園教育要領解説』＜最新版＞ 文部科学省 （フレーベル館）
- ③『保育所保育指針解説書』＜最新版＞ 厚生労働省 （フレーベル館）
- ④『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』＜最新版＞ 内閣府・文部科学省・厚生労働省（フレーベル館）

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業や課題に積極的に取り組むこと。

授業計画	
	【前期】
1	ガイダンス：授業内容全体の説明 保育を学ぶということ
2	保育の意義及び目的・社会的責任 ・予習：「保育」という言葉の語源、歴史について調べる ・復習：児童憲章を読む
3	子ども観・保育観及び子どもの理解 ・予習：子どもの姿を観察する ・復習：興味をもった保育思想家・保育実践家について調べる
4	保育の場を支える法規 児童憲章・学校教育法・児童福祉法 ・予習：児童憲章について調べる
5	保育の場と制度：保育所・幼稚園・認定こども園 ・予習：自分が住んでいる地域の保育制度について調べる
6	幼稚園・保育所・認定こども園の目的 ・復習：幼稚園・保育所・認定こども園の目的について整理する
7	幼稚園・保育所・認定こども園の保育の基本と目標 ・復習：幼稚園・保育所・認定こども園の保育の基本と目標について整理する
8	保育の内容 養護と教育・領域の変遷・領域を考え方 予習：幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の保育の内容を読み比べる。
9	保育の方法 環境を通じて行う保育・遊びを通した総合的な指導 予習：倉橋惣三の『育ての心（上）』を読んでくる。
10	保育の計画と評価 全体的な計画と指導計画のつながり。子どもの理解に基づく保育の過程とその循環
11	子どもの育ち・学びの連続性 「幼児教育」と「小学校教育」の違いとつながり 予習：自分が卒園した幼稚園・保育所の保育室と小学校の教室の環境図を描く 復習：「小1プロブレム」に関する記事を調べる
12	保育の現状と課題 日本ならびに諸外国の保育政策・制度と課題 ・予習：教科書第14章を読む ・復習：子どもや育児、保育に関する新聞記事を調べて読む
13	子育て・家庭支援 ・予習：子育て支援の現状と課題 関連機関・地域との連携 ・予習：園で行われている地域支援の具体的な内容を調べる
14	養護と教育を一体的に行う保育者の在り方 子ども理解と援助、安全と安心の対応、協同と連携 ・予習：テキスト第11章「保育者の在り方」を読む ・復習：保育者を目指す現在の「私」自身の在り方について見つめ直す
15	授業内容全体のまとめ及びテスト・解説

科目名	保育者論	授業コード	YK4323**	科目コード	YK4323
担当教員	柳井 郁子・金 允貞				
授業形態	講義	配当学年	1	期間	半 期
単位数	2	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	必修
				保育士資格	必修

1. 主題・到達目標

〈主題〉

・保育者の仕事は、子どもの気持ちや発達を理解し、子どもの育ちを援助する仕事である。保育者を志す学生として「保育者になる」とはどのようなことか、保育者とはどのような職業であるか、保育者に求められる専門性とは何かを学ぶ。

〈到達目標〉

- ①保育者としての役割を担うために必要な資質を理解する
- ②保育者としての役割を担うために必要な考え方を理解する
- ③保育者としての役割を担うために必要な学びとは何かを理解する
- ④保育者の専門性について理解する

2. 授業概要

「保育者の役割」「保育者の仕事」「保育者の専門性」「保育者の協働」「保育者の成長」について、事例を多く取り上げながら学ぶ。そのうえで、「保育者になる」とはということかを、実際の保育場面と関連づけながら考察していく。授業を通じて、自らがどのような保育者をめざすのか具体的なイメージをもち、それぞれが今後の課題を意識化できるように、ミニレポートやコメントシートを作成し、それをを用いたディスカッションの機会を多く設ける。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

今回の授業の予習として、該当箇所を読んでおくこと。また、授業後には配付資料を熟読し、授業で学んだことに基づき自分の気づきや意見をまとめておくこと。家庭での学習は2時間程度が想定される。

4. 成績評価の方法及び基準

第15回目の授業時間内に実施する確認テストによる内容の理解度（評価の50%）

平常点＜課題、授業内のディスカッションへの積極性、授業への参加姿勢等＞（評価の50%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

『保育者論』 汐見稔幸・大豆生田啓友編（ミネルヴァ書房） 第2版 2016年

『幼稚園教育要領解説』＜最新版＞文部科学省（フレーベル館）

『保育所保育指針解説書』＜最新版＞厚生労働省（フレーベル館）

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』＜最新版＞内閣府・文部科学省・厚生労働省（フレーベル館）

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

毎時間の授業の要点や関連学習等を記録したノートを作成し、配布プリントを整理保存すること。

授業内で行うディスカッションには積極的に参加すること。

授業計画	
	【後期】
1	ガイダンス（授業の受け方、「保育者になる」ということ）
2	保育者とは（保育者の制度的位置づけ、幼稚園教諭免許と保育士資格）
3	保育者の一日
4	保育者の仕事①－子どもの思いや育ちを理解する
5	保育者の仕事②－子どもと一緒に心と体を動かす
6	保育者の仕事③－文化や自然との出会いをつなぐ
7	保育者の仕事④－家庭への支援
8	保育者の専門性①保育者の専門性とは何か
9	保育者の専門性②計画に基づく実践と振り返り
10	保育者の専門性③事例の考察
11	保育者の連携と協働
12	保育者の役割と倫理
13	保育者にとっての学び
14	保育者の専門性の向上とキャリア形成
15	確認テストとまとめ

科目名	教育心理学	授業コード	YK4137**	科目コード	YK4137
担当教員	坪井 葉子・山本 有紀・岡本 かおり				
授業形態	講義	配当学年	1	期間	半 期
単位数	2	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	必修
				保育士資格	必修

1. 主題・到達目標

【主題】乳幼児期の心身の発達過程と特徴、学びの過程と特性を学ぶ。発達に即した指導・援助の基本的な考え方を理学する。

【到達目標】・乳幼児期を中心に子どもの心身の発達過程とその特徴を理解する。

- ・乳幼児の発達、学習と教育に関わる心理学の基礎的知識を習得する。
- ・乳幼児の発達に必要な他者との相互的関わり、養育者や保育者に求められる役割を理解する。
- ・生涯発達の観点から各時期と各領域での発達を理解する。
- ・乳幼児の発達における初期経験や環境との相互作用の重要性を理解する。
- ・保育現場における様々な子どもの実態に応じた子どもの主体性を育むような適切な働きかけを知る。
- ・発達や学びの過程の知識と保育における援助や指導とを結びつけて考えようとすることができる。

2. 授業概要

- ・保育と教育心理学のつながりを理解し、身体・運動、知覚・認知、思考・言語、社会性などの領域での子どもの発達を学ぶ。
- ・他者との相互的なかわりでの基本的信頼感の獲得、社会的相互作用、生涯発達と初期経験の重要性といった保育実践に関わる心理学の基礎知識を身につける。
- ・子どもの主体的な学習行動を支える教育、援助、また、個人差と個性、適応・不適応など心身の発達を踏まえた援助や指導といった、学習支援、保育援助の基礎理論と実際を学ぶ。
- ・幼児教育の動向と保育者に求められる役割を学ぶ。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

詳細は授業時に担当教員より指示する。次回の授業内容に関わるテキストの該当章を、授業毎に指示をするので、読んで予習をすること。また、授業で出てきたキーワードをテキスト巻末の用語解説を使って復習をし、自分なりに毎回の授業を振り返りながら、子どもへの援助や指導についての考えをまとめる復習をすること。予習と復習を合わせて90分を確保すること。

4. 成績評価の方法及び基準

筆記試験による内容の理解度もしくはレポート内容の充実度（評価の50%）

平常点＜授業内の提出物および授業への参加姿勢＞（評価の50%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：

『教育心理学 保育者をめざす人へ』 樹村房 2004年

授業内で、適宜資料を配布する。

尚、テキストは、後期開講科目「子どもの理解と援助」でも適宜使用する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

将来、保育者や養育者となったとき、大人の関わりが子どもに大きく影響を及ぼすことを意識し、主体的に講義に臨むこと。保育における心理学の基礎的知識を習得することが望まれるため、予習や復習をしっかり行い、用語や授業内容を身につけること。

授業計画	
	【前期】
1	オリエンテーション、保育と教育心理学
2	発達と教育①発達理論、外的内的要因の相互作用、初期経験と環境の重要性
3	発達と教育②生涯発達、発達段階、発達課題
4	発達と教育③身体・運動発達
5	発達と教育④知覚・認知発達
6	発達と教育⑤思考・言語発達
7	人との相互的にかかわりと子どもの発達①基本的信頼感、愛着
8	人との相互的にかかわりと子どもの発達②感情と自我
9	人との相互的にかかわりと子どもの発達③遊びと仲間関係（社会性）
10	学習①学習理論（条件付け、洞察学習、観察学習）
11	学習②主体的な学習活動を支える教育、援助（動機づけ、無力感、集団、学習評価）
12	学習③心身の発達を踏まえた援助や指導（レディネス、発達の最近接領域の理論）
13	個人差や個性とその援助 知能、気質・性格
14	適応・不適応とその支援 適応、精神的健康と障害
15	幼児教育の動向、保育者に求められる役割、資質、能力 全授業内容のまとめ、学習内容の理解度確認のための筆記試験および解説

科目名	発達心理学Ⅰ/子どもの理解と援助			授業コード	YE4148**	科目コード	YE4148
担当教員	坪井 葉子・山本 有紀・岡本 かおり						
授業形態	演習	配当学年	1	期間	半 期		
単位数	1	科目分類	専門必修	幼稚園教諭	必修	保育士資格	必修

1. 主題・到達目標

【主題】 ・ 子どもの生活や遊び、活動における心身の発達と学びの過程、およびその援助について学ぶ。

【到達目標】 ・ 個々の子どもの実態に応じた発達や学びの把握の意義と実際について理解する。

- ・ 発達援助のための保育者の視点や態度の基本を身につける。
- ・ 観察や記録、振り返りを中心とした子どもの理解についての具体的方法を知る。
- ・ 保育の場での子どもとの関わりにおいて、学んだ知識を自ら実践できる。
- ・ 発達援助のための家庭とのつながりや保育者同士の対話の重要性を理解する。

2. 授業概要

- ・ 保育における子どもの理解の意義について理解し、子どもとの関わりでの保育者の視点や態度の基本を学ぶ。
- ・ 子どもの生活や遊び、体験や学びの過程についての理解を深め、子どもを取り巻く環境の重要性について多面的に学ぶ。
- ・ 子どもの理解のための観察や記録、振り返りについての具体的方法を学ぶ。
- ・ 個々の子どもの心身の発達に応じた援助や、家庭との連携、保育者間の対話による子ども理解の深まり、就学に向けた発達の連続性を意識した援助について学ぶ。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

授業で子どもに関する事例を多く扱うため、テキストの該当章や、担当教員が配布した資料を読み、予習をしてください。また、授業後は、学んだことをどのように保育実践に活かしていけるのか、自分なりに考えをまとめてください。テキストや配布資料を読み返すとともに、紹介した参考文献から考えを広げていくような復習をおこなってください。予習と復習のさらに詳細な方法は、担当教員の指示に従うこと。尚、子どもの映像についてのレポート、実習日誌や実習でのエピソードを元に考える課題などを予定している。予習復習、課題の作成のための文献検索、資料収集と作成に90分を想定している。

4. 成績評価の方法及び基準

筆記試験による内容の理解度もしくはレポート内容の充実度（評価の50%）

平常点＜授業内の提出物および授業への参加姿勢＞（評価の50%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：

『新しい保育講座3 子どもの理解と援助』 ミネルヴァ書房 高嶋景子、砂上史子 編著 2019年

授業内で、適宜資料を配布する。

また、前期開講科目、教育心理学の指定テキスト『教育心理学 保育者をめざす人へ』 樹村房 2004年を適宜使用する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

子どもの発達や学びの過程に関して、前期の開講科目、教育心理学で学んだ基礎知識を応用するため、よく復習しておくこと。演習科目として、子どもを理解するための基本的な視点や態度を学び、子どもの理解に基づく保育実践や発達援助に関して自ら具体的に考える姿勢をもつことを望む。

授業計画

	【後期】
1	オリエンテーション、子どもの実態に応じた発達や学びの把握① 保育における子ども理解の意義、保育者の姿勢
2	子どもの実態に応じた発達や学びの把握② 子どもの理解に基づく養護及び教育の一体的展開、子どもへの共感的理解と関わり
3	子どもを理解する視点① 子どもの生活や遊びについての発達の観点、子どもの体験と学びの過程
4	子どもを理解する視点② 発達と学習の視点からの環境の理解、人的環境としての保育者と子どもの発達
5	子どもを理解する視点③ 子ども相互の関わりと関係づくり、葛藤やつまずき
6	子どもを理解する視点④ 保育における個と集団、集団における経験と育ち
7	子どもを理解する視点⑤ 保育の環境の理解と構成、環境の変化と移行
8	子どもを理解する具体的方法① 保育における観察と記録、保育の場で子どもを“見る”とは
9	子どもを理解する具体的方法② 保育における観察と記録、保育記録の具体例
10	子どもを理解する具体的方法③ 記録に基づく省察・評価、子どもの理解を深めるための職員間の対話と具体的方法
11	子どもを理解する具体的方法④ 家庭との情報共有
12	子どもの理解に基づく発達援助① 発達の課題に応じた援助と関わり
13	子どもの理解に基づく発達援助② 特別な配慮を要する子どもの理解と援助
14	子どもの理解に基づく発達援助③ 発達の連続性と就学への支援
15	保育実践における子どもの理解と援助の視点や態度、具体的方法についてのまとめ、学習到達度確認のための筆記試験および解説

科目名	子どもの保健 1/子どもの保健			授業コード	YK4728**	科目コード	YK4728
担当教員	堀 純子・向笠 京子						
授業形態	講義	配当学年	1	期間	半 期		
単位数	2	科目分類	専門必修	幼稚園教諭	-	保育士資格	必修

1. 主題・到達目標

主題：保育内容の領域「健康」を理解するため、幼児期の健康に関する基礎的な知識と考え方を学ぶ。

到達目標：

- ・子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解し、保育者が行う保健活動の基礎知識を身につける。
- ・子どもの健康に影響を及ぼす基本的な生活習慣や運動遊び、安全の現状を知り、その必要性を理解する。
- ・主体的かつ対話的な学びを通して、身につけた保健活動に関する知識を実践に生かし、保育者として適切な判断や対応に結びつけることができるまでの深い理解を目指す。

2. 授業概要

「保育内容（健康）」で学ぶ内容や実践例と照らし合わせながら、子どもの心身の健康について考え、子どもの健康増進を図る保健活動の意義を理解する。さらに保健活動をおこなうための基礎知識として、「子どもの保健に関する現状」「身体発育」「運動機能の発達」「精神発達」「生理機能の発達」「健康と安全」について学ぶ。これらの知識を踏まえて、日々の保育の中で保育者がどのような目的でどのような保健活動を行っているか具体例に触れながら理解を深める。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

- ・授業内容について、毎回、テキスト該当箇所をよく読んで復習し、宿題は次回までに必ず取り組む（想定必要時間は復習30分、宿題60分程度）。・配布プリントについては、空欄のないように各自で完成させる（提出あり）。・新たにおこっている健康問題や様々な意見について報道などから情報収集し、自分の考えを構築する習慣をつける。（保健の分野は特に変化が大きいので、自らも新しい情報に敏感になること。）

4. 成績評価の方法及び基準

授業内確認テストによる内容の理解度（評価の50%）

平常点（評価の25%）

授業への参加姿勢（評価の25%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：『子育て支援における保健相談マニュアル』 田中哲郎監修（日本小児医事出版社）

参考文献：

- 『新しい時代の子どもの保健』 衛藤 隆他 編集（日本小児医事出版社）
- 『心とからだを育む子どもの保健Ⅰ』 高内正子 編著（保育出版社）
- 『保育者養成シリーズ「子どもの保健Ⅰ」』 林邦雄 監修（一藝社）
- 『最新保育保健の基礎知識』 巷野悟郎 監修（日本小児医事出版社） 他、授業時にも紹介する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

- ・テキストと前回までの配布プリントを毎回持参する。
- ・配布プリントをまとめて各自で管理する。
- ・提出物は期限厳守。
- ・暗記だけにならないように、よく考えながら理解することを心がける。

授業計画	
	【前期】
1	ガイダンス・子どもの保健の意義 (自分の健康観を確認し、子どもの心身の健康への影響因子を考え、子どもの保健の意義を知る)
2	健康の概念と健康指標 (健康の定義を確認した上でヘルスプロモーションの考え方を理解し、健康指標を確認した上で、子どもの健康についての特徴を大人と比較しながら考える)
3	子どもの健康に関する現状と課題 (母子保健や乳幼児の死亡、子どもの病気などに関する統計資料を用いて子どもの健康に関する現状を知り、現代社会における課題を考える)
4	地域における保健活動と虐待防止 (地域の子どもの対象とした保健活動について、園の役割や他専門職との連携について知り、虐待防止について考える)
5	身体発育と運動機能の発達 (乳幼児の身体発育および運動機能の発達の特徴と留意点を理解し、発育・発達の様子と評価の方法の実際を知る)
6	子どもの生理機能の発達 (乳幼児の体温、呼吸、循環について大人との違いや留意点を確認し、睡眠の変化と排泄の自立の様子を理解して、保育者としての援助の方法を学ぶ)
7	子どもの健康状態の観察 (日々の保育の中での健康観察の方法を知り、ポイントや留意点を理解する)
8	子どもの心身の健康状態の把握 (心身の健康状態について、乳幼児期によくみられる不調を知り、早期発見のための知識を学ぶ)
9	発育・発達の把握と健康診断 (発育・発達の把握のために必要な視点と乳幼児期の健康診断について理解し、保育上の留意点や評価の方法を知る)
10	保護者との連携 (乳幼児の子どもの保健には保護者との情報共有や連携が重要であることを理解し、方法や留意点を考える)
11	主な疾病の特徴① (学校感染症を中心に乳幼児期に多い感染症について、その症状や特徴を知る)
12	主な疾病の特徴② (感染症以外の乳幼児に多い疾病およびアレルギー疾患などの慢性疾患について、その症状や特徴を知る)
13	子どもの疾病の予防と対応① (感染症の予防について予防接種や園での感染拡大防止の方法を学ぶ)
14	子どもの疾病の予防と対応② (感染症以外の疾病の予防と園での保健活動や対応について学ぶ)
15	知識の確認とまとめ (保育者としての子どもの保健の重要事項を振り返って理解し、今後の学びに生かす)

科目名	子どもの保健（演習）/子どもの健康と安全			授業コード	YE4731**	科目コード	YE4731
担当教員	向笠 京子・堀 純子						
授業形態	演習	配当学年	1	期間	半 期		
単位数	1	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	-	保育士資格	必修

1. 主題・到達目標

＜主題＞「子どもの保健」で学んだ知識をもとに、保育者として子どもの健康を守り高めるために必要な援助の方法や事故防止、安全管理について学ぶ。

＜到達目標＞保育における保健的対応（衣服の着脱、排泄の援助、食事支援、虫歯予防、身体計測等）を知り、援助方法を習得する。子どもの体調不良時の健康観察の仕方、バイタルサインの測定方法を知り、適切な対応を理解する。救急時の対応、応急処置、心肺蘇生法に関する知識・技術を習得する。保健に関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、衛生管理、事故防止、安全対策、危機管理について理解する。安全面や衛生面に配慮した保育者としてふさわしい服装を考えて準備でき、自らの心身の健康管理にも留意し実践できる。

2. 授業概要

テキストとデモンストレーションで基本的な理論と手順やポイントを学んだ後、人形や器具・用具を用いながら、実際の場面を想定して練習する。子どもに対する健康教育に関する知識を得て、子どもが自らの健康や安全について考えて行動できるようになるために、保育者は具体的にどのような支援を行えばよいのか、事例を調べ、グループワークで考えて発表する。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

- ・授業内容については、毎回、テキスト該当箇所をよく読んで復習し、宿題は次回までに必ず取り組む（想定必要時間は復習30分、宿題60分程度）
- ・配布プリントについては、空欄のないように各自で完成させる（提出あり）。
- ・授業で学んだ内容とは異なる方法や考え方もあるので、自らも情報収集して様々な方法や考え方を知る。

4. 成績評価の方法及び基準

授業内確認テストおよび実技チェックによる内容の理解度（評価の50%）

平常点（評価の25%）

授業への参加姿勢（評価の25%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：

『これならわかる！子どもの保健演習ノート』榊原洋一監修（診断と治療社）

参考文献：

『子育て支援における保健相談マニュアル』田中哲郎監修（日本小児医事出版社）

『子どもの保健～健康と安全～』監修大澤真満木子（日本小児医事出版社）

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

- ・「子どもの保健」を履修済みのこと。
- ・テキストと前回までの配布プリントを毎回持参する。
- ・配布プリントをまとめて各自で管理する。
- ・提出物は期限厳守。
- ・グループワークでは主体的、積極的に動くこと。

＜準備＞

- ・授業開始前に手洗いをする。名札着用。
- ・毎回、保育ができる服装と髪型を整える。
- ・詳細は授業時に説明するが、その他、各回に必要な物を準備すること。

授業計画	
	【後期】
1	ガイダンス、子どもの健康と保育の環境、手洗い、衛生管理 (保育における保健的観点を踏まえた保育の環境や衛生管理について理解する)
2	子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康 (子どもの健康増進、心身の発達を促す個別対応と集団全体の健康について知る)
3	3歳未満児への対応：衣服の着脱、排泄の援助、睡眠 (3歳未満児への生活援助について具体的に学ぶ)
4	保健的対応①食事支援、歯みがきとむし歯予防 (食事支援や歯についての予防と適切な対応を具体的に学ぶ)
5	保健的対応②身体計測 (体重、身長、頭囲、胸囲など身体発育の測定の仕方を知る)
6	子どもの体調不良等に対する適切な対応、バイタルサインと健康観察 (子どもの体調不良時の健康観察の仕方、バイタルサインの測定方法を知る)
7	感染症の集団発生の予防、感染症発生時と罹患後の対応 (関連するガイドラインを踏まえ、保育における感染症対策について理解する)
8	心肺蘇生法 (救急時の対応や心肺蘇生法について具体的に学ぶ)
9	傷害が発生した場合の対応、応急処置、救急処置、包帯法 (傷害時の応急処置や救急処置、包帯法を具体的に学ぶ)
10	AED、気道異物除去法、アレルギー性疾患への対応 (AEDの使用法、気道異物除去法を学ぶ。アナフィラキシーショックが起きた時の対応方法について学び、エピペンの使用方法を知る)
11	事故防止及び安全対策、危機管理、災害への備え (関連するガイドラインや最新のデータに基づき、事故防止及び安全対策、危機管理について理解する)
12	個別的な配慮を要する子どもへの対応：慢性疾患、障害等 (慢性疾患や障害を持つ子どもの保育や援助方法、対応を理解する)
13	健康及び安全の実施体制、保健活動と健康教育 (子どもの健康及び安全の管理に関する実施体制を知る。保健活動、健康教育について保健だより等を作成し学ぶ)
14	まとめ①技術の確認 (演習で学んだ技術の習得を確認し、正しい技術を身につける)
15	まとめ②知識の確認 (子どもの健康と安全についてまとめ、理解度の確認を行い、実践に生かす)

科目名	子どもの保健 2	授業コード	YK4729**	科目コード	YK4729
担当教員	堀 純子・推野 万里子				
授業形態	講義	配当学年	2	期間	半 期
単位数	2	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	-
				保育士資格	必修

1. 主題・到達目標

主題：「子どもの保健1」や「子どもの保健（演習）」で学んだ基礎知識をもとに、保育者として実際に対応できるようになる。

到達目標：

- ・子どもの主な病気と各症状への適切な対応、感染症とその予防、保育現場における事故防止と応急手当等について具体的に学び、実践できるようにする。
- ・子どもの心身の健康についての理解を深め、子どもの保健に関する最新の幅広い知識を得て、保護者への対応や育児支援ができるようになる。

2. 授業概要

各疾患や感染症については、予防と集団感染の防止に重点をおいて理解する。子どもの健康管理について、個々の子どもの実状に合わせた、保育者としての的確な対応を学ぶ。また、保育者として保護者にも対応できるように、乳幼児健診、子育て支援や家庭での育児に必要な知識、および保護者の健康等についても取り上げる。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

- ・授業内容について、毎回、テキスト該当箇所をよく読んで復習し、宿題は次回までに必ず取り組む（必要想定時間は復習30分、宿題60分程度）。・配布プリントについては、空欄のないように各自で完成させる（提出あり）。・新たにおこっている健康問題や様々な意見について、報道などから情報収集し、自分の考えを構築する習慣をつける。（保健の分野は特に変化が大きいので、自らも新しい情報に敏感になること。）

4. 成績評価の方法及び基準

授業内確認テストによる内容の理解度（評価の50%）

平常点（評価の25%）

授業への参加姿勢（評価の25%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：『子育て支援における保健相談マニュアル』 田中哲郎監修（日本小児医事出版社）

参考文献：

『新しい時代の子どもの保健』 衛藤隆他編集（日本小児医事出版社）

『心とからだを育む子どもの保健Ⅰ』 高内正子編著（保育出版社）

『心とからだを育む子どもの保健Ⅱ（演習）』 高内正子編著（保育出版社） 他、授業時にも紹介する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

- ・「子どもの保健1」、「子どもの保健（演習）」を履修済みのこと。
- ・テキストと前回までの配布プリントを毎回持参する。
- ・配布プリントをまとめて各自で管理する。
- ・提出物は期限厳守。
- ・暗記だけにならないように、よく考えながら理解することを心がける。

授業計画	
	【前期】
1	ガイダンス・感染症 (感染症の三大要因、感染症対策を理解し、感染症発生時の対応について具体的に学ぶ)
2	学校感染症 (学校感染症の概要と特徴を知り、出席停止期間を理解する)
3	予防接種 (感染症の集団発生の予防と予防接種の必要性、接種スケジュールについて理解する)
4	子どもの主な病気 (子どもに多い病気の特徴、治療、予防、対応方法を学ぶ)
5	発熱と痙攣・子どもの看護 (体温の特徴と発熱の目安、看護や対処について学び、痙攣の種類、観察のポイントと留意点や対応方法について知る)
6	病児保育・子どもの病気に関する相談 (病気の際の対処の基本を確認し、症状別の対処方法を知る)
7	気管支喘息・食物アレルギー・皮膚疾患 (アレルギー疾患の原因と症状、診断、治療、予防について知り、生活管理指導表と活用について学ぶ)
8	アナフィラキシーショックとエピペン (食物アレルギーの症状と種類について知り、現状及び問題点を考え、対応の原則とアナフィラキシーショックが起こったときのエピペンの使用方法を知る)
9	心疾患・肝炎・熱中症・乳幼児突然死症候群 (心疾患・肝炎の原因と症状、熱中症の分類と予防と対応方法、乳幼児突然死症候群発生の予防について知り、保育上の注意点を学ぶ)
10	家庭での事故防止と応急手当 (子どもの事故は発達と関連していることを理解し、応急手当の方法を学ぶ)
11	乳幼児健診 (乳幼児健康診査の時期や内容、保健指導について知る)
12	精神保健 (心身症や発達障害など子どもの心の健康について学び対応方法を知る)
13	子育て支援サービス・育児に必要な知識 (子育て支援、育児に必要な知識を深め、生活習慣など親子の健康についても学ぶ)
14	保護者の健康 (育児ストレスについて知り、保護者の健康支援、保護者が利用可能な保健サービスについて理解する)
15	知識の確認とまとめ (子どもの保健での学びを総合的に振り返り、保育者としての保健的対応を理解する)

科目名	子どもの食と栄養	授業コード	YE5032**	科目コード	YE5032
担当教員	齋藤 優子・伊藤 みどり				
授業形態	演習	配当学年	1	期間	半 期
単位数	2	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	-
				保育士資格	必修

1. 主題・到達目標

乳幼児期の食生活は子どもの健康を左右するばかりでなく、生涯にわたる食生活習慣が決まる重要な時期である。子どもたちにとって、よりよい食生活を実現していくために保育者がもつべき知識・技術を習得することを目標とする。さらに、養護および教育をになう保育の場における、食育指導の意義や目的、食育計画について理解する。

2. 授業概要

栄養学の基礎知識、乳児期・幼児期のライフステージ別栄養、その特徴、その各期別栄養問題（偏食、食物アレルギー、生活習慣病等）についての解説と演習。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

提出物は期限を守り、復習時には教科書およびハンドアウトを熟読すること。想定必要時間は2時間となる。

4. 成績評価の方法及び基準

筆記試験による内容の理解度（評価の50%）
平常点＜課題提出、授業内の小テスト＞（評価の30%）
授業への参加姿勢（評価の20%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

『子どもの食生活』＜第3版＞ 上田玲子編著（ななみ書房）

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業や課題に積極的に取り組むこと。
保育士自身が食品や栄養について興味をもち、自分自身の健康・栄養管理をしっかりと行うことが大切である。この授業をきっかけに、自身の食生活を見直してもらいたい。

授業計画	
	【後期】
1	ガイダンス、小児の栄養と食生活の意義
2	子どもの発育・発達と栄養
3	栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能
4	「日本人の食事摂取基準」の意義とその活用
5	食事構成に関する基礎知識 献立作成・調理の基本
6	食育 食を通して子育てと子育てを支援する
7	食事バランスガイド、小テスト
8	乳児期の食生活
9	幼児期の食生活
10	学齢期・思春期の食生活
11	生涯発達と食生活
12	特別な配慮を要する子どもの食と栄養
13	ミルクとベビーフードの調査・試食
14	家庭や児童福祉施設における食生活
15	まとめ ー全授業内容の総復習ー

科目名	乳児保育 I	授業コード	YK5055**	科目コード	YK5055
担当教員	坪井 葉子・金 允貞・堀 純子				
授業形態	講義	配当学年	1	期間	半 期
単位数	2	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	-
				保育士資格	必 修

1. 主題・到達目標

【主題】

3歳未満児への保育のニーズが拡大し続けていることを認識し、3歳未満児保育の現状や課題を理解すると同時に役割の重大さを理解する。0, 1, 2歳の心身の発達に関する専門的知識を学ぶと共に、それを踏まえた保育の内容や運営体制を理解する。また、職員間との連携と協同、保護者との連携について理解し意識を高める。

【到達目標】

- ・3歳未満児保育の現代的意義を理解し、重要性を認識する。
- ・0, 1, 2歳の心身の発達を踏まえた保育の内容を理解する。
- ・0, 1, 2歳の生活や遊びを保障する環境を理解する。
- ・3歳未満児保育における計画・記録について理解を高める。
- ・保護者への支援について意識を高め、連携について理解する

2. 授業概要

この授業は乳児（3歳未満児）保育の現代的意義や課題の認識の下、3歳未満児（0, 1, 2歳児）の心と体の発達を保育事例等を通して学び、乳児の生活を支える保育者の心構えと役割について理解することを目指す。乳児の成長・発達課程を踏まえて3歳未満児保育の内容と方法を学び、保育事例をもとに保育者の役割について具体的に考える。また、3歳未満児の発達を保障する環境について理解を深め、保育者の適切な援助や関わりを学ぶ。保育士同士の協同や看護師や栄養士等の連携、保護者との連携について理解を深める。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

3歳未満児の発達に興味を持ち、日々の生活の場所で見かける子どもの行動や親の対応等を観察をする。
自分が住んでいる地域の3歳未満児の政策を理解し、それに基づいている3歳未満児の保育の実情を調べる。
授業内で指示された内容について予習し、毎回保育所保育指針や教科書を用いて授業内容の復習を行う。
予習・復習は90分程度が想定される。

4. 成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の25%）
授業内での課題・レポート（評価の25%）
15回目のまとめのテストによる内容の理解度（評価の50%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト

『やさしい乳児保育』（2019）早川悦子・池田りな・石川正子編著（青踏社）

参考文献

『保育所保育指針解説書』（2018）厚生労働省（フレーベル館）
『0・1・2歳児の心の育ちと保育』今井和子著（小学館）

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

保育士という職業の責任の重さを自覚して授業に臨むこと。

授業計画	
	【後期】
1	ガイダンス：授業内容の全体説明・赤ちゃんのイメージ 授業外学習：生活の中で乳児の姿を観察してこること。
2	乳児保育の意義 授業外学習：自分が住む地域の子育て支援について調べる。
3	乳児保育の歴史と現状 保育所以外の児童福祉施設（乳児院等）における乳児保育 授業外学習：乳児院について調べてくる
4	0歳前期の発達と援助 ①0～6ヶ月児の心身の発達
5	0歳後期の発達と援助 ②6ヶ月～1歳未満児の心身の発達
6	1歳児の発達と援助 ③1歳児の心身の発達
7	2歳児の発達と援助 ④2歳児の心身の発達
8	保育所保育指針における乳児・1歳以上3歳未満児の保育の内容 授業外学習：保育所保育指針の乳児・1歳以上3歳未満児の保育の内容を読んで来る
9	乳児保育の内容と方法② 乳児の生活と保育者の援助及び配慮
10	乳児保育の内容と方法② 乳児の遊びと保育者の援助及び配慮
11	乳児保育における記録① デイリープログラムと個別指導計画
12	乳児保育における記録② 乳児の個別指導計画の理解と作成
13	職員間の連携・協同
14	保護者との連携 授業外学習：実習先の保育所における保護者支援について調べて来る
15	まとめ：授業内容全体の振り返りと確認、まとめのテスト

科目名	障害児保育Ⅰ/特別支援と保育Ⅰ		授業コード	YE4851**	科目コード	YE4851
担当教員	下尾 直子・吉田 真理子					
授業形態	演習	配当学年	1	期間	半 期	
単位数	1	科目分類	専門必修	幼稚園教諭	-	保育士資格 必修

1. 主題・到達目標

障害や生育環境等に起因する個別のニーズをもった子どもの発達特性を理解し、支援計画の作成などの発達に応じた支援の方法や配慮について学ぶ。

学生の到達目標は以下の通りである。

- ①「障害」とは何か、また障害の特性について説明できる。
- ②生育環境などに起因する、様々な教育・保育のニーズを理解する
- ③これからの障害児保育はどうあるべきか自分の意見を述べることができる。

2. 授業概要

授業では、まず現代の「障害」の捉え方と障害児保育の歴史的変遷を知り、発達と環境の観点から理解する。次に、軽度障害を含めた様々な障害、生育環境に起因する個別の教育的ニーズをもつ子どもについて、身体的心理的特性・心身の発達、生活上学習上の困難についての知識を映像や具体物を使った体験的授業によって知る。最後に、家庭・地域・専門機関との連携を含めた環境の整備、それにかかわる制度の理念や仕組みを知り、適切なかかわり方の基礎を身につける。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

【予習】毎日15分以上は新聞やテレビのニュースに触れ、障害児者・特別支援教育・障害児保育などに関する報道にアンテナを張ること。想定必要時間数は（15分×7日間×15週）27時間である。

【復習】毎回の授業後に、テキストの該当箇所や配布資料を読み返し、疑問点があれば、次回の授業で質問するなどして解決すること。想定必要時間数（15分×15回）は、3時間45分である。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点として、授業で配布するプリントに授業内容やコメントを記入して提出する。

その内容の充実度を評価する（30%）。

授業内で行われるグループワークへの参加態度・積極性を評価する（20%）、まとめの試験の成績を評価する（50%）。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

『学ぶ・わかる・みえる 演習・保育と障害のある子ども』 野田敦史・林恵 編 （みらい）

参考文献は適宜紹介する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

子どもの発達について、他の授業等でこれまでに得た知識や情報を整理して臨むこと

授業計画	
	【後期】
1	「障害」概念の変遷と現代社会（ICF、インクルージョン、合理的配慮、特別支援教育の制度、統合保育）
2	知的障害①（知的障害の心身の発達、心理的特性、知的障害児の生活・学習上の困難と支援の方法）ダウン症候群の特徴
3	発達障害①（発達障害の概要、自閉症スペクトラムとは、自閉症の特性と支援）
4	発達障害②ADHD／LD（ADHDの特性と支援、LDの特性と支援）
5	統合保育実践①（特別な支援を必要とする子への支援と配慮～職員間の連携と協働、環境設定など）
6	統合保育実践②（インクルーシブ教育と子ども同士の関わり）
7	統合保育実践③（家庭及び自治体・関係機関との連携）
8	軽度発達障害による二次障害、養育環境の影響などによる教育的ニーズ
9	身体障害①（肢体不自由とは、脳性麻痺の特性と支援、肢体不自由児者を支援する道具など）
10	身体障害②視覚障害（様々な視覚障害、視覚障害の特性と支援）
11	身体障害③聴覚障害と言語障害（聴覚障害の特性と支援、構音障害の特性と支援、手話・マカトンサインなどの言語）
12	重度重複障害（医療的ケアの必要なこどもの生活と支援、病弱児の支援、重度重複障害の家族とその支援）
13	てんかんとその支援
14	こどもの様子から組み立てる「個別の支援計画」とそれに基づいた指導計画の作成
15	14回までの講義全体をまとめ、知識の定着、概念の理解、応用力を確認する

科目名	障害児保育Ⅱ	授業コード	YE4786**	科目コード	YE4786
担当教員	下尾 直子・金 允貞・伊藤 路香				
授業形態	演習	配当学年	2	期間	半 期
単位数	1	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	-
				保育士資格	必修

1. 主題・到達目標

「障害児保育Ⅰ」で学んださまざまな障害の特性や対応方法に関する基礎知識をもとに、保育者に求められている具体的な指導や支援の方法を学ぶ。

以下を学生の到達目標とする。

- ① 障害のある子どもや生育環境上支援の必要な子どもの特性と発達を適切に評価する方法を説明できる
- ② 教材・環境の工夫をしながら、発達の見通しをもった適切な援助を理解している
- ③ 保護者や家族に対する支援の方法を理解している
- ④ 障害児に対する社会的支援の現状を知り、地域の専門機関等との連携の意義と方法を知っている

2. 授業概要

まず支援の実際に不可欠な基礎知識として「障害児保育Ⅰ」で学んだ障害の特性に関する知識や「発達心理学」等で学んだ発達段階や発達課題に関する知識を確認する。次に、子どもの理解と一人ひとりに合った適切な支援の見通しを持つために、記録・評価、教材、環境への配慮、集団生活への配慮について学ぶ。さらに職員間の連携、保護者や家族への支援の意義と方法を学ぶ。また地域の関連機関について知り、適切な連携の方法を学ぶ。保育職に求められている実践力、対応力を身につけるために、事例を通して自ら考え、教材研究を行ったり、支援計画を立てたり、積極的に体得しようとする姿勢での取り組みを求める。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

【予習】毎日、1日15分以上は新聞やテレビのニュースに触れ、障害児者・特別支援教育・障害児保育などに関する報道にアンテナを張ること。想定必要時間数（15分×7日間×15週）は27時間である。

【復習】毎回の授業後に、テキストの該当箇所や配布資料を読み返し、疑問点があれば、次回の授業で質問するなどして解決すること。想定必要時間数（15分×15回）は3時間45分である。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点

毎回プリントを配布し、授業内容やコメントなどを記入し提出する。内容の充実度を評価する。（評価の30%）

授業内で行われるグループワーク等への参加態度・積極性を評価する。（評価の20%）

まとめの試験の成績（評価の50%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

*テキスト：「障害児保育Ⅰ」で使用したテキストを使用する

『演習・保育と障害のある子ども』 野田 敦史・林 恵 監修 （株）みらい 2017年

*参考文献：授業内で、適宜紹介する

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

「障害児保育Ⅰ」を履修し、その内容を十分に理解していること

授業計画	
	【前期】
1	1年時の復習（「障害」のとらえ方、障害の特性）
2	統合保育とは（その魅力と課題）
3	発達評価の実際（「気になる子」の発見と様々な検査、評価することの意味、さまざまな評価の観点）
4	統合保育① 障害のある子とともに過ごす生活と遊び
5	統合保育② 共に育つ子どもたち
6	統合保育③ 統合保育の現場からみた困難
7	個別の支援計画① こどもの現状把握
8	個別の支援計画② 個別の支援計画から指導計画へ
9	児童発達支援センターの実際①（統合保育との差異、他専門職との連携、クラスのプログラム作成など）
10	児童発達支援センターの実際②（個別の指導計画に沿ったプログラム）
11	児童発達支援センターの実際③（「問題行動」への対応と指導）
12	障害のある子の保護者や家族への支援
13	様々な連携の重要性（地域とのつながり、他専門職とのつながり、就学へ向けての連携）
14	障害のある子の育ち 先の人生を見通す支援
15	14回までの講義全体をまとめ、障害のある子の保育についての理解を確認する まとめの試験

科目名	保育内容・健康/保育内容（健康）			授業コード	YE4214**	科目コード	YE4214
担当教員	岡本 かおり・上田 よう子						
授業形態	演 習			配当学年	1	期間	半 期
単位数	1	科目分類	専門必修	幼稚園教諭	必 修	保育士資格	必 修

1. 主題・到達目標

【主題】「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示される領域「健康」の視点や考え方を理解し、保育の方法や保育者の役割を考えて実践できる力を身に付ける。

【到達目標】①領域「健康」のねらい・内容を理解して説明できる。②領域「健康」のねらい・内容を踏まえた保育の方法について考え、構想できる。③保育場面の事例を通して保育者の役割を考え、説明できる。④保育教材を理解し、自分のアイディアを取り入れて領域「健康」のねらい・内容に即した指導計画を作成できる。

2. 授業概要

1. 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示された領域「健康」の解説を中心に、保育における領域「健康」の保育学的な視点を理解する。
2. 子どもの健康を取り巻く現状を理解し、子どもの健康な育ちを支える保育者の役割について理解する。
3. 運動遊び、基本的な生活習慣、食育、安全等についてなど具体的な教材や指導計画を題材にし、領域「健康」の視点での保育の展開を知り、領域「健康」の見方・考え方への理解を深める。
4. 領域「健康」と他の領域との関連を学び、「遊びを通しての総合的な指導」「環境を通して行われる保育」についての理解を深める。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

毎回の授業時に教員が示す。予習及び復習により、毎回90分程度の時間を要することが想定される。

4. 成績評価の方法及び基準

確認テストによる内容の理解度（評価の50%）

平常点＜課題提出、授業内の小テスト及びレポート、授業への参加姿勢＞（評価の50%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

- 『子どもの元気を育む保育内容研究』池田裕恵・高野陽編著（不昧堂出版）
『幼稚園教育要領解説』＜最新版＞ 文部科学省（フレーベル館）
『保育所保育指針解説書』＜最新版＞ 厚生労働省（フレーベル館）
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』＜最新版＞ 内閣府・文部科学省・厚生労働省（フレーベル館）

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業や課題に積極的な姿勢で取り組むこと。

配資料等の整理をすること。

他科目との関連を捉えながら授業に参加すること。

授業計画	
	【前期】
1	ガイダンス：授業内容の説明 ・保育内容「健康」の概要について理解する。
2	領域「健康」の理解 ・幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「健康」を理解する。 ・他領域との関連について理解する。
3	領域「健康」のねらい・内容
4	子どもの遊びと健康（1） 園内外での遊びと計画 ・子どもにとっての遊びの意義を理解する。
5	子どもの遊びと健康（2） 園外保育の実際から領域「健康」の見方・考え方を学ぶ
6	子どもの遊びと健康（3） 園外保育のまとめ ・園外保育の意義を理解する。 ・園外保育の特性を生かした保育を計画する。
7	安全指導と安全管理の実際
8	健康な生活のリズム
9	基本的生活習慣の形成と保育者の役割
10	教材研究（1） 伝承遊びの実践例を通して領域「健康」の見方・考え方を学ぶ
11	教材研究（2） 手づくり教材（お手玉）の作成を通し、領域「健康」のねらい・内容と保育実践の関連を学ぶ
12	子どもの「健康」を育む保育計画と指導案（1） 伝承遊び（お手玉）の実践研究
13	子どもの「健康」を育む保育計画と指導案（2） ・子どもの多様な動きを引き出す運動遊びについて理解する。
14	子どもの健康管理と健康教育 ・領域「健康」が目指す子どもの健康について理解する。 ・子どもの健康を支え育む保育者の役割について自身の考えを整理する。
15	授業のまとめ・解説 ・確認テストによる自身の理解度を確認しながら学ぶ。

2019-04-01版

科目名	保育内容・人間関係/保育内容（人間関係）			授業コード	YE4224**		科目コード	YE4224	
担当教員	坪井 葉子・鈴木 律子・高橋 優子								
授業形態	演 習			配当学年	1			期間	半 期
単位数	1	科目分類	専門必修		幼稚園教諭	必 修		保育士資格	必 修

1. 主題・到達目標

【主題】

「保育内容（人間関係）」では、子どもが「他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て人と関わる力を養う」ことについて学ぶ。

【到達目標】

- ・「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「人間関係」のねらいと内容を理解する。
- ・保育内容「人間関係」と他の保育内容の領域の関係性について理解する。
- ・子どもの人間関係に関わる発達について理解し、説明できる。
- ・「人間関係」という視点から保育者の役割について理解し、援助方法を構想できる。

2. 授業概要

- ・幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型こども園教育・保育要領に示された領域「人間関係」の解説を中心に、保育における領域「人間関係」の保育学的な視点を理解する。
- ・各年齢における子どもの「人間関係」の育ちを理解する。
- ・映像や事例を通して保育者の役割を理解し、保育者の援助について構想する。
- ・子どもの生活や遊びについて具体的な教材や指導計画を題材にし、領域「人間関係」の視点で保育の展開並びに「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」である「自立心」「協同性」「道徳性・規範意識の芽生え」「社会生活との関わり」と結びつきを知り、領域「人間関係」の見方・考え方への理解を深める。
- ・領域「人間関係」と他の領域との関連を学び、「遊びを通しての総合的な指導」「環境を通して行われる保育」についての理解を深める。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

各回に示した予習復習に取り組むこと。毎回の予習復習には90分程度の時間がかかることが想定される。
また、「人間関係」の視点を持ち日頃より生活し、実習における体験と授業での学びを結び付けて考えること。

4. 成績評価の方法及び基準

筆記試験による内容の理解度（評価の50%）
平常点＜課題等の提出、授業態度等＞（評価の50%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

<テキスト>

- 『保育内容 人間関係』 神蔵幸子・桃枝智子 編著（大学図書出版）
- 『幼稚園教育要領解説』＜最新版＞ 文部科学省（フレーベル館）
- 『保育所保育指針解説書』＜最新版＞ 厚生労働省（フレーベル館）
- 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』＜最新版＞ 内閣府・文部科学省・厚生労働省（フレーベル館）

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業や課題には積極的な姿勢で取り組むこと。
授業内で配布される資料等はきちんと整理しておくこと。
他教科との関連を捉えながら授業に参加すること。

授業計画	
	【後期】
1	ガイダンス：授業内容の説明 保育内容「人間関係」とは何か
2	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における「人間関係」のねらいと内容（１） 3歳以上児について 予習：幼稚園教育要領の領域「人間関係」のねらいと内容をまとめる
3	幼児期における「人間関係」（１）：3歳児の人間関係 ・予習：テキストに示された3歳児の各事例を読む ・復習：3歳児の人間関係について整理する
4	幼児期における「人間関係」（２）：4歳児の人間関係 ・予習：テキストに示された4歳児の各事例を読む ・復習：4歳児の人間関係について整理する
5	幼児期における「人間関係」（３）：5歳児の人間関係 ・予習：テキストに示された5歳児の各事例を読む ・復習：5歳児の人間関係について整理する
6	「人間関係」の視点より実習を振り返る 予習：実習先で印象に残った出来事を整理する。
7	「人間関係」の育ちを支える保育者の役割（１） ：自己主張と自己抑制、道徳性と規範意識の芽生えの視点から ・復習：保育者の役割について整理する
8	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における「人間関係」のねらいと内容（２） 乳児～3歳未満児について 予習：保育所保育指針の1歳以上3歳未満児の領域「人間関係」ねらいと内容をまとめる 復習：保育所保育指針の乳児の3つの視点と1歳以上3歳未満児の領域「人間関係」のつながりを整理する
9	乳児期における「人間関係」（１）：0歳児の人間関係 ・予習：テキストの0歳児の該当ページを事前に読む ・復習：0歳児の人間関係について整理する
10	乳児期における「人間関係」（２）：1歳児の人間関係 ・予習：テキストの1歳児の該当ページを事前に読む ・復習：1歳児の人間関係について整理する
11	乳児期における「人間関係」（３）：2歳児の人間関係 ・予習：テキストの2歳児の該当ページを事前に読む ・復習：2歳児の人間関係について整理する
12	「人間関係」の育ちを支える保育者の役割（２） ・予習：愛着形成・自我の芽生えの視点から ・復習：保育者の役割について整理する
13	乳幼児期における「人間関係」のまとめ：他の領域との関連性と子どもの「人間関係」の育ちを支える指導計画の作成 予習：指導計画で扱う遊びを1つ考えてくる 復習：指導計画作成におけるポイントについて整理する
14	「人間関係」における今日の課題： 今の社会を生きる子どもの現状及びに子どもの「生きる力」を育む大人の役割 ・予習：子どもに関する新聞記事等に目を通しておく ・復習：大人の役割について自分の考えをまとめる
15	まとめの復習、学習内容の理解度確認のための筆記試験、解説

科目名	保育内容・環境/保育内容（環境）			授業コード	YE4234**	科目コード	YE4234
担当教員	鈴木 律子・上田 よう子						
授業形態	演習	配当学年	1	期間	半 期		
単位数	1	科目分類	専門必修	幼稚園教諭	必修	保育士資格	必修

1. 主題・到達目標

【主題】

「保育内容」（環境）では子どもが「周囲の様々な環境に好奇心や探求心をもって関り、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う」ことについて学ぶ。

【到達目標】

- ・「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型こども園・保育教育要領」における領域（環境）のねらいと内容を理解する。
- ・乳幼児期における環境の役割について理解する。
- ・領域（環境）と他の領域の関連を学び、「遊びを通しての総合的な指導」、「環境を通して行われる保育」についての理解を深める。
- ・子どもを取り巻くさまざまな環境（自然、動植物、物、道具、社会環境など）について理解を深め、保育実践の中で領域（環境）に関する育ちを見極められるようになる。

2. 授業概要

- ・「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示された領域（環境）の解説を中心に、保育における領域（環境）の保育学的な視点を理解する。
- ・子どもにとっての環境の役割ならびに保育者の役割について学ぶ。
- ・子どもと環境の関りについて具体的な教材や指導計画を題材にし、領域（環境）の視点での保育の展開ならびに「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」である「思考力の芽生え」、「社会生活との関わり」との結びつきを知り、領域（環境）の見方・考え方への理解を深める。
- ・領域（環境）と他の領域の関連を学び、「遊びを通しての総合的な指導」、「環境を通して行われる保育」についての理解を深める。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

- ・予習に関しては教科書の該当ページを予め読んでおく。（所要時間60分程度）
- ・復習に関しては授業で学んだことを教科書やプリントでふり返る。（所要時間60分程度）
- ・普段から自分の周囲の自然をよく理解し、自然の変化や季節に関して敏感に感じ取れるように意識すること。
- ・身の回りにある物や道具、生活する環境全体に目を向け、子どもの興味や関心がどのような点にあるのかについて考えるようにすること。

4. 成績評価の方法及び基準

授業の内容に関する筆記試験による理解度（評価の50%）
平常点＜授業への参加姿勢・課題の提出状況及び内容＞（評価の50%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

『保育実践に生かす保育内容「環境」』 高内正子監修 上中修 編（保育出版社）
『保育を支える生活の基礎 ～豊かな環境のつくり手として～』 神蔵幸子・中川秋美 編著（萌文書林）
『幼稚園教育要領解説』＜最新版＞ 文部科学省（フレーベル館）2018年
『保育所保育指針解説書』＜最新版＞ 厚生労働省（フレーベル館）2018年
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』＜最新版＞ 内閣府・文部科学省・厚生労働省（フレーベル館）2016年

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

- ・各自、ノートやファイルを用意し、授業内容をまとめること。
- ・課題は必ず期日を守って提出すること。
- ・他科目との関連を常に意識して授業に取り組むこと。

授業計画	
	【前期】
1	ガイダンス：授業内容の説明、保育内容（環境）とは何か。
2	領域（環境）の理解（ねらいと内容） 予習：「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域（環境）のねらいと内容のページを読む。 復習：「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域（環境）のねらいと内容についてまとめる。
3	子どもの育ちと環境に関わる力の関係 予習：テキストの該当ページを読む。 復習：「環境を通した教育」とは何か整理する。
4	自然に関わる力 予習：テキストの該当ページを読む。 復習：季節の変化と生物の命の大切さについてまとめる。
5	身近な植物への関心（「洗足の自然」マップの作成） 予習：テキストの該当ページを読む。 復習：「洗足の自然」マップを完成させる。
6	身近な小動物への関心 予習：テキストの該当ページを読む。 復習：小動物の飼育活動の現状と課題について整理する。
7	領域（環境）の実践力 予習：テキストの該当ページを読む。 復習：「保育者としての感性を磨く」、「好奇心や探求心を育てる」とは何かをまとめる。
8	物や道具との関わり①（園具・教材・教具の意味と役割） 予習：テキストの該当ページを読む。 復習：園具・教材・教具の意味と役割について整理する。
9	物や道具との関わり②（物や道具を使って表現を楽しむ保育活動） 予習：テキストの該当ページを読む。 復習：物や道具を使って表現を楽しむ保育活動の案をまとめる。
10	日常生活の中での興味・関心①（文字や標識との関わり） 予習：テキストの該当ページを読む。 復習：子どもの文字や標識の関わりについて整理する。
11	日常生活の中での興味・関心②（数量・図形との関わり） 予習：テキストの該当ページを読む。 復習：子どもの数量・図形との関わりについて整理する。
12	日常生活の中での興味・関心③（情報・地域との関わり） 予習：テキストの該当ページを読む。 復習：身の回りの情報や地域との関わりについてまとめる。
13	環境構成①（環境構成と環境の再構成） 予習：テキストの該当ページを読む。 復習：環境構成と環境の再構成について整理する。
14	環境構成②（環境構成と環境の再構成の実際） 予習：テキストの該当ページを読む。 復習：室内、園庭の自由遊びの環境設定と環境の再構成の実践例についてまとめる。
15	授業のまとめ・解説、授業の内容に関する筆記試験

科目名	保育内容・言葉/保育内容（言葉）		授業コード	YE4271**	科目コード	YE4271
担当教員	鈴木 律子・上田 よう子					
授業形態	演習	配当学年	1	期間	半 期	
単位数	1	科目分類	専門必修	幼稚園教諭	必 修	保育士資格 必 修

1. 主題・到達目標

【主題】

子どもの「自分なりの言葉で表現し、相手の言葉を聞こうとする意欲や態度、言葉に対する感覚や言葉で表現する力」について学ぶ。

【到達目標】

- ・「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「言葉」のねらいと内容を理解する。
- ・主体的かつ対話的な学びを通して、言葉の発達過程に留意しながら保育実践の中の領域「言葉」に関する育ちを見極められるようになる。
- ・絵本などの具体的な教材や指導計画を題材にし、領域「言葉」の視点での保育の展開ならびに「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」である「言葉による伝え合い」「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」との結びつきや小学校「国語」との関連を知り、領域「言葉」の見方・考え方への理解を深める。
- ・領域「言葉」との他の領域との関連を学び、「遊びを通しての総合的な指導」「環境を通して行われる保育」についての理解を深める。

2. 授業概要

- ・「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「言葉」を理解し、豊かな言葉を育むための保育の方法を学ぶ。
- ・乳幼児の言葉の発達過程や言葉の果たす役割を理解する。
- ・絵本などの児童文化財の意義と概要を理解し、児童文化財を活用した指導計画の立案や実践を行う。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

- ・予習に関しては教科書の該当ページを予め読んでおく。（所要時間60分程度）・復習に関しては授業で学んだことを教科書やプリントで振り返る（所要時間60分程度）
- ・児童文化財（絵本・紙芝居など）に日常的に慣れ親しむこと。・日常的に子どもの言葉に耳を傾け、言葉の特徴や子どもの気持ちについて授業内容と結びつけながら理解を図ること。・授業ごとの課題についての勉強を自主的に行うこと。必修課題：①実習時の子どもの言葉の記録②実習のための部分実習指導案作成③児童文化教材の作成

4. 成績評価の方法及び基準

授業の内容に関する筆記試験による理解度（評価の50%）
平常点＜授業への参加姿勢、課題の提出状況及び内容＞（評価の50%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

- 『実践保育内容シリーズ「言葉」』 谷田貝公昭・廣澤満之 編著 （一藝社）2014年
『幼稚園教育要領解説＜H29年告示＞』 文部科学省 （フレーベル館）
『保育所保育指針解説書＜H29年告示＞』 厚生労働省 （フレーベル館）
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説＜H29年告示＞』 内閣府・文部科学省・厚生労働省（フレーベル館）

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

- ・各自、ノートやファイルを用意し、授業内容をまとめること。
- ・課題は必ず期日を守って提出すること。
- ・他科目や実習授業との関連を常に意識して授業や指導案立案に取り組むこと。

授業計画	
	【後期】
1	ガイダンス：授業内容の説明、「保育内容」（言葉）とは何か。
2	乳児期の言葉の発達（前言語期のコミュニケーション） 予習：テキストの該当ページを読む。 復習：乳児期の言葉の発達について整理する。
3	幼児期の言葉の発達（話し言葉と書き言葉の発達） 予習：テキストの該当ページを読む。 復習：幼児期の話し言葉と書き言葉の発達について整理する。
4	領域（言葉）の理解（ねらい・内容・内容の取扱い） 予習：「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「言葉」のねらいと内容のページを読む。 復習：「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「言葉」のねらいと内容についてまとめる。
5	言葉を豊かにする保育環境 予習：テキストの該当ページを読む。 復習：言葉を豊かにする保育者の役割と子どもの言葉を豊かにする保育環境の設定について整理する。
6	養育者との関りから育つ言葉 予習：テキストの該当ページを読む。 復習：養育者との関わりと言葉掛けについて整理する。
7	子どもどうしの関わりから育つ言葉 予習：テキストの該当ページを読む。 復習：子どもどうして言葉で気持ちを表現することの大切さと、見守り援助する保育者の役割について整理する。
8	言葉の諸問題と小学校「国語」との関連 予習：テキストの該当ページを読む。 復習：現代における言葉の諸問題と、領域（言葉）と小学校「国語」との関連について整理する。
9	言葉に関連する障害 予習：テキストの該当ページを読む。 復習：言葉のつまづきについての種類や対応の仕方について整理する。
10	保育における児童文化材①（絵本と紙芝居） 予習：テキストの該当ページを読み、興味のある絵本と紙芝居について見ておく。 復習：絵本と紙芝居との違い、それぞれの読み方について整理する。
11	保育における児童文化材②（ペープサートとパネルシアター） 予習：テキストの該当ページを読む。 復習：ペープサートとパネルシアターの作り方と演じ方について整理する。
12	子どもの育ちに合わせた指導計画（作成する保育教材の部分指導案） 予習：指導計画の立案に向けて内容について検討する。 復習：指導計画案を完成させる。
13	保育教材の発表①（前半メンバーの発表） 予習：導入と演じ方について研究し、本番に向けて練習する。 復習：発表について自身の振り返りと周囲からのアドバイスについてまとめる。
14	保育教材の発表②（後半メンバーの発表） 予習：導入と演じ方について研究し、本番に向けて練習する。 復習：発表について自身の振り返りと周囲からのアドバイスについてまとめる。
15	まとめ（全授業内容の総復習）、授業の内容に関する筆記試験

科目名	保育内容・総論		授業コード	YE4272**	科目コード	YE4272
担当教員	坪井 葉子・高橋 優子・伊藤 路香					
授業形態	演習	配当学年	2	期間	半 期	
単位数	1	科目分類	専門必修	幼稚園教諭	必修	保育士資格 必修

1. 主題・到達目標

〈主題〉保育内容についての理解を深める。5領域に分けて学んだ保育内容の繋がり、保育内容の指導について理解する。
 〈到達目標〉

- ・「幼稚園教育要領」の幼稚園教育の基本や「保育所保育指針」の保育の全体構造を理解し、説明できる。
- ・子どもの発達過程に照らし合わせて、幼児教育における「育みたい資質・能力」を理解し、説明できる。
- ・遊びを通しての総合的な指導における保育者の役割を理解し、説明できる。・子どもの主体性を尊重する保育の指導法を構想し、実践することができる。
- ・5領域（健康、人間関係、環境、言葉、表現）の保育内容を踏まえた指導計画を立案、実践することができる。・保育の記録と評価の意義を理解し、幼児理解や保育についての省察を深めることができる。・「幼稚園」、「保育所」、「認定こども園」の特性を理解し、保育の多様な展開について視野を広げることができる。・家庭や地域及び小学校との連携について学び、その意義を説明することができる。

2. 授業概要

- ・子どもを取り巻く社会的背景や保育内容の変遷を学ぶことにより、その変化の意味や底流にある一貫性について考え、保育の基本的な考え方を理解する。・各領域の関連性について学び、具体的な保育内容に結びつけながら、子どもの理解や保育内容について総合的に捉える視点を養う。・「日々の保育は子どもの興味と経験の積み重ねである」ことに着目し、「遊びを通しての総合的な指導」「環境を通して行われる保育」について、乳幼児の遊び（活動）を発達の側面から理解し、保育の過程（指導案の立案、模擬保育、記録、評価、改善）を具体的に学ぶ。
- ・「幼稚園」、「保育所」、「認定こども園」の役割を学び、家庭や地域、小学校との連携を踏まえ、多様な保育に対する視野を広げる。
- ・情報機器を活用した保育内容の捉え方について学ぶ

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

- ・授業ごとに教示された次回の授業に該当するテキストページや参考文献を読了し、大切だと思うキーワードや質問事項をまとめておくこと。想定予習時間は1時間程度になる。
- ・授業終了後は、授業プリントやノートをまとめ直し、大切な用語を覚えたり内容の理解を深めたりするように努めること。想定復習時間は1時間程度になる。

4. 成績評価の方法及び基準

筆記試験による内容の理解度（評価の50%）
 平常点＜授業への参加姿勢・課題、レポート提出状況＞（評価の50%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

『演習 新訂 保育内容総論』金澤妙子・前田和代 編著（建帛社）2019年
 『幼稚園教育要領解説』文部科学省（フレーベル館）
 『保育所保育指針解説書』厚生労働省（フレーベル館）
 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省（フレーベル館）

そのほか、参考資料、文献は随時授業内で配布、紹介する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

配布資料や授業内容を記録したものをノートやファイルにきちんとまとめること。
 課題の提出期日を厳守すること。

授業計画	
	【後期】
1	子ども理解と保育内容
2	「遊び」から捉えられる保育内容と指導・援助
3	「生活」から捉えられる保育内容と指導・援助
4	「環境」から捉えられる保育内容と指導・援助
5	「発達」から捉えられる保育内容と指導・援助
6	行事で捉えられる保育内容と指導・援助
7	幼児期における育みたい資質・能力と保育内容
8	幼児期の終わりまでに育てたい10の姿と保育内容
9	保育内容の捉え方とその背景、歴史的変遷
10	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における保育内容の捉え方
11	指導計画の構想と実践
12	特別な配慮が必要な子どもの園生活と保育内容、その援助と指導
13	外国との関わりがある子どもの園生活と保育内容、その援助と指導
14	保育内容の記録とその活かし方
15	まとめ ①全授業内容の総復習 ②理解度確認のための筆記試験 ③解説

科目名	教育課程論	授業コード	YK4186**	科目コード	YK4186
担当教員	長島 万里子・鈴木 律子・伊藤 路香				
授業形態	講義	配当学年	2	期間	半 期
単位数	2	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	必修
				保育士資格	必修

1. 主題・到達目標

【主題】保育における計画の意義、編成・作成の方法、計画の評価、マネジメントについて学ぶ

【到達目標】

- ・「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領」における教育課程、全体的な計画の意義や役割を理解する。
- ・教育課程編成の方法、全体的な計画と指導計画の作成の方法を理解し、説明することができる。
- ・「カリキュラムマネジメント」の意義と方法を理解し、説明することができる。
- ・子どもの育ちに配慮した指導計画を立案し、その実践を通して適切に自己評価し、保育の再構成に役立てることができる。

2. 授業概要

- ・「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の変遷を学び、社会的背景からその意義を理解する。
- ・「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における教育・保育の基本的な考え方の理解を深め、「教育課程」、「全体的な計画」の意義と具体的な内容、編成の方法を学ぶ。
- ・「教育課程」、「全体的な計画」と「指導計画」との関係性を学ぶ。
- ・「カリキュラムマネジメント」の意義を理解し、具体的な保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）について学ぶ。
- ・「指導計画」については、立案・実践（模擬保育）・評価について演習を行う。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

- ・授業ごとに教示された次の授業に該当するテキストページや参考文献を読了し、大切だと思うキーワードや質問事項をまとめておくこと。想定予習時間は1時間程度になる。
- ・授業終了後は、授業プリントやノートをまとめ直し、大切な用語を覚えたり内容の理解を深めたりするように努めること。想定復習時間は1時間程度になる。

4. 成績評価の方法及び基準

筆記試験による内容の理解度（評価の50%）

平常点＜授業への参加姿勢・課題の提出状況及び内容＞（評価の50%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト

『教育・保育の計画と評価 - 書いて学べる指導計画 - 』岩崎淳子・及川留美・粕谷亘正 著（萌文書林）2018年

参考文献

『幼稚園教育要領解説』 文部科学省（フレーベル館）2018年

『保育所保育指針解説書』 厚生労働省（フレーベル館）2018年

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省（フレーベル館）2018年

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

各自、ノートやファイルを用意し、授業内容をまとめること。

課題は必ず期日を守って提出すること。

他科目や実習授業との関連を常に意識して授業や指導案立案に取り組むこと。

授業計画	
	【前期】
1	教育課程・全体的な計画の意義
2	幼稚園教育の基本と教育課程の歴史的変遷
3	教育課程の編成と指導計画とのつながり
4	短期指導計画の作成①【幼稚園】 -幼児の発達の特徴とねらい・内容の考え方-
5	短期指導計画の作成②【幼稚園】 -環境構成、予測される子どもの姿、援助・配慮点の考え方-
6	模擬保育と評価①【幼稚園】
7	保育所保育の基本と全体的な計画の歴史的変遷
8	全体的な計画と指導計画とのつながり
9	乳児の特徴と指導計画
10	多様な保育計画（小学校との接続、異年齢保育）
11	短期指導計画の作成③【保育所】 -養護を意識した生活場面の指導-
12	短期指導計画の作成④【保育所】 -子どもの発達に即した指導案の立案-
13	模擬保育と評価②【保育所】
14	保育の評価 -カリキュラムマネジメントと幼児指導要録・保育児童要録・園児指導要録-
15	まとめ ①全授業内容の総復習 ②学習内容の理解度確認のための筆記試験 ③解説

科目名	カウンセリング論	授業コード	YK4156**	科目コード	YK4156
担当教員	坪井 葉子・宮川 千春				
授業形態	講義	配当学年	2	期間	半 期
単位数	2	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	必修
				保育士資格	選 択

1. 主題・到達目標

【主題】 幼児理解の意義を踏まえ、幼児理解のための知識と個々の理解の方法、援助の方法を学ぶ。

【到達目標】

- (1) 幼児理解の意義を理解し説明できる
- (2) 幼児理解の原理・方法としての「カウンセリングマインド」「カウンセリング技法の基礎」について説明できる
- (3) 事例に合わせた援助のために「カウンセリングの技法」を選択し活用できる
- (4) 事例に基づき、問題の捉え方と対応を判断できる
- (5) 事例に基づき、幼児への対応、保護者の心情の理解、保護者への対応方法、教職員間の連携、他機関との連携の具体的方法が構想できる

2. 授業概要

幼児理解の意義を踏まえ、幼児理解のための知識と具体的な方法を身につける。

保育者として子どもの心に寄り添い、必要な援助を行うために「カウンセリングの基礎知識」「カウンセリングマインド」を理解する。さらに事例を通して、具体的に子どもの発達や個々の状況を踏まえた適切な援助力、障害や不適応等への対応力を身につけていく。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

授業で学んだ内容を教科書やプリントで見直すこと。また次回の内容について教科書を読んでおくことは毎回丁寧に行っておくこと。加えて指示された復習課題・予習課題を行う。全体で毎回90分程度の授業外学習が必要と想定される。

4. 成績評価の方法及び基準

第15回授業のまとめと復習の試験による授業内容の理解度、予習復習課題レポートの内容充実度（評価の50%）
授業内の提出物の充実度と授業参加姿勢（評価の50%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：

『保育現場で使えるカウンセリング・テクニック 子どもの保育・発達支援編』 諸富祥彦・富田久枝 編 著（ぎょうせい） 2015

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

1年次に履修した心理学関連科目を復習しておくこと。

授業計画	
	【前期】
1	保育現場から見える“いまどき”の子どもたちの姿、 幼児理解の意義を知る
2	子どもと関わるカウンセリングテクニック① (ペーシング、ミラーリング、うなづき、あいづち、伝え返し)
3	子どもと関わるカウンセリングテクニック② (わたしメッセージ、リフレーミング、勇気づけ)
4	子どもと関わるカウンセリングテクニック③ (がんばり見つけ、ありがとう回し、モデリング)
5	子どもと関わるカウンセリングテクニック④ (ピアサポート・ピースフルスクールプログラム)
6	発達のアセスメント、愛着と発達
7	事例の検討① 0-1歳の発達の問題
8	事例の検討② 集団に馴染みにくい(非社会性)
9	事例の検討③ けんかが絶えない(反社会性)
10	事例の検討④ 保育者になじめない(分離不安)
11	事例の検討⑤ 朝、起きられない(養育の問題)
12	事例の検討⑥ 着替えができない、偏食(生活習慣)
13	事例の検討⑦ 指しゃぶり、爪かみ (神経性習癖)
14	事例の検討⑧ 自分の実習経験から
15	保育者の役割、まとめと復習の試験、試験の解説

科目名	保育・教職実践演習(幼稚園)		授業コード	YE4350**	科目コード	YE4350
担当教員	岡本 かおり・長島 万里子					
授業形態	演習	配当学年	2	期間	半 期	
単位数	2	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	必修	保育士資格 必修

1. 主題・到達目標

【主題】幼稚園教諭・保育士として、免許・資格の取得にふさわしい知識・技術・資質能力・考え方・態度の定着を振り返り、定着を図る。

【到達目標】

- ・保育者に求められる使命感や責任感、教育的愛情について振り返り、定着を図る
- ・保育者に求められる社会性や対人関係能力について振り返り、定着を図る
- ・保育者に求められる子ども理解やクラス運営の力について振り返り、定着を図る
- ・保育者に求められる保育実践と乳幼児の指導援助のための知識や技能について振り返り、向上・定着を図る

2. 授業概要

- (1)「履修カルテ」を記入し、実習や専門科目の内容を振り返りながら学習の不十分な点を自覚し、知識・技能の定着を図る。
 (2)保育職に就くことを前提に、役割演技（ロールプレイング）や事例研究、グループ討論を用いて自己課題を自覚し、
 ①使命感・責任感 ②社会性や対人関係能力 ③子ども理解やクラス運営 ④指導力に関する知識や技能の向上を図る
 (3)授業での演習や自己研鑽を通して保育実践力の向上と自己課題の解決を目指す。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

毎回の授業時に教員が示す。予習と復習を合わせて、90分程度の時間がかかることが想定される。

演習課題の準備は手順と期限を守ること。

欠席回の授業（演習）内容について、把握しておくこと。

4. 成績評価の方法及び基準

- ・平常点＜課題提出、各演習課題への準備・取り組み姿勢＞（評価の50%）
- ・レポート（評価の50%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

『改訂版 保育教職実践演習 これまでの学びと保育者への歩み 幼稚園 保育所編』
 小櫃智子・矢藤誠慈郎 編著 2018 （株）わかば社

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

実際に保育職に就くことを前提に授業を進めるので、異なる進路を目指す者であっても、保育者としての免許・資格を取得する責任を自覚し、各々の保育実践力の向上を目指すこと。積極的な参加をし、「協同的に学ぶ」姿勢をもって授業に臨むこと。

授業計画	
	【後期】
1	ガイダンス（授業の進め方、授業準備の方法と分担）
2	保育者実践力とは（履修カルテ記入、振り返り）
3	子ども理解の方法と実際
4	気になる子どもの理解と対応
5	保育のカリキュラムの基礎
6	保育のカリキュラムを考える
7	保育内容を考える
8	保育方法を考える
9	協同的な学びを考える
10	保育の振り返り
11	保護者および地域との関係づくり
12	幼保小の接続
13	園の安全管理
14	保育者の専門性
15	自分の「保育者像」をめざして（まとめ）

科目名	社会福祉	授業コード	YK4795**	科目コード	YK4795
担当教員	下尾 直子・飯塚 美穂子・西岡 弥生				
授業形態	講義	配当学年	1	期間	半 期
単位数	2	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	-
				保育士資格	必修

1. 主題・到達目標

本授業においては、社会福祉の基礎知識を身につけ、子ども家庭支援にかかわる保育者の役割について学ぶことを目的とする。

【到達目標】

- ①現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷を理解する。
- ②社会福祉制度の実施体系等を理解する。
- ③社会福祉における相談援助や利用者保護に関する仕組みについて理解する。
- ④国内外の社会福祉の動向と課題について理解する。

2. 授業概要

社会福祉の基礎知識についての講義を行うとともに、具体的事例をイメージし、自分で考える力を向上できるように、学習を進める。新聞記事などの報道資料、映像や写真を使った具体的事例の紹介、またそれらを材料としたディスカッションなどを通して、基礎知識を習得していく。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

【予習】テキストを事前に読むだけでなく、日頃から社会で起きていることに関心を寄せ、考察を深めておくこと。新聞記事などの資料を読む、報道されたニュースについてまとめるなどの学習に取り組むこと。

【復習】毎回の授業後に、テキストの該当箇所、配布資料を読み直し、授業で扱った専門用語等について繰り返し復習し、正確に記憶すること。予習・復習は、各1時間程度になると想定される。

4. 成績評価の方法及び基準

筆記試験による内容の理解度（評価の45%）

平常点＜授業への参加姿勢・積極性（評価の35%）、課題提出・授業内の小テスト及びレポート提出の状況と内容の充実度（評価の20%）＞これらを合わせて総合的に判断する。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：

『保育と社会福祉（第3版）』橋本好市・宮田徹編（みらい）

参考文献については、授業内に適宜紹介する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

講義内容筆記用のノート・プリント類保存用のファイルを用意し、前回までの授業の資料を整理して、教科書とともに毎回持参すること。授業内容の筆記を必ず行うこと。積極的な授業参加を期待する。

授業計画	
	【前期】
1	オリエンテーション 社会福祉とは何か（保育と社会福祉）
2	現代社会の特徴と生活課題
3	社会福祉の歴史の変遷
4	社会福祉の制度と実施体系①社会保障制度
5	社会福祉の制度と実施体系②社会保険・公的扶助
6	社会福祉の制度と実施体系③法体系・実施機関と行財政
7	社会福祉の制度と実施体系④社会福祉施設と専門職
8	子ども家庭支援と社会福祉
9	共生社会と障害者福祉
10	高齢者の福祉と介護保険
11	社会福祉における相談援助①相談援助の理論
12	社会福祉における相談援助②相談援助の方法
13	社会福祉における利用者保護の仕組み
14	社会福祉の動向と課題：子育て支援のこれからと地域福祉
15	まとめと筆記試験・解説

科目名	児童家庭福祉/子ども家庭福祉		授業コード	YK4766**	科目コード	YK4766
担当教員	板倉 香子・西岡 弥生・宮地 さつき					
授業形態	講義	配当学年	1	期間	半 期	
単位数	2	科目分類	専門必修	幼稚園教諭	-	保育士資格 必修

1. 主題・到達目標

本授業は、子どもと家庭の現状を知り、子ども家庭福祉の理念や制度に関する基本的な知識を身につけることを目的とする。

学生の到達目標は以下である。

- ①子どもと家庭を取り巻く社会状況について理解する。
- ②子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。
- ③子どもの権利保障について理解を深める。
- ④子ども家庭福祉の制度の概要や児童福祉施設に関する知識を身に付ける。

2. 授業概要

授業では、社会福祉で学んだことを基礎として、テキストを中心に、子ども家庭福祉の制度や歴史、関連する福祉施設等について学ぶ。また、新聞記事や視聴覚資料等を活用し、具体的な事例を用いて、子ども家庭福祉分野の今日的課題について考察していく。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

【予習】子ども家庭福祉は幅広い分野と繋がりがあり、子どもの権利については法学、健全育成やひとり親家庭、家族については社会学、子どもの発達については心理学・医学等との関連が考えられる。予習はテキストを読むだけでなく、関連領域についても興味を持ち調べる。社会福祉の動向についても新聞等で理解しておくこと。

【復習】毎回の授業後に、テキストの該当箇所や配布資料を読み直しておくこと。また専門用語、制度・法律などは正確に覚えるよう復習することが求められる。

4. 成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の25%）

平常点（授業内の小テスト・課題提出）（評価の30%）

筆記試験による内容の理解度（評価の45%）

これらを合わせて総合的に判断する。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：『乳幼児教育・保育シリーズ 子ども家庭福祉』澁谷昌史・加藤洋子編著（光生館）

参考文献：授業内で適宜紹介する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

社会福祉の単位を修得していることが望ましい。ファイルを用意し、配布資料の整理に努めること。講義内容は配布資料やノート等に筆記すること。

履修者の積極的な授業参加を期待する。

授業計画

	【後期】
1	オリエンテーション 子ども家庭福祉とは何か
2	日本における子ども家庭福祉の歴史の変遷
3	現代社会と子ども家庭福祉
4	子ども家庭福祉の一分野としての保育
5	子どもの人権擁護と子ども家庭福祉
6	子ども家庭福祉の法体系
7	子ども家庭福祉の行財政と実施機関
8	児童福祉施設等と子ども家庭福祉の専門職・実施者
9	関係機関とのネットワーク
10	少子化と子育て支援・保育サービス
11	母子保健と子どもの健全育成
12	子ども虐待の防止とドメスティックバイオレンスへの対応
13	社会的養護（施設養護・家庭養護）
14	障害のある子ども・少年非行等への対応
15	まとめと筆記試験および解説 多様な家庭への支援

科目名	家庭支援論	授業コード	YK5057**	科目コード	YK5057
担当教員	飯塚 美穂子・板倉 香子・柴崎 祐美・内川 麻実子				
授業形態	講義	配当学年	2	期間	半 期
単位数	2	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	-
				保育士資格	必修

1. 主題・到達目標

本授業においては、保育の専門性を活かした家庭支援についての知識を身につけ、家庭支援の方法を理解することを目標とする。

【到達目標】

- ①現代の家庭を取り巻く社会的状況について理解する。
- ②家庭の役割とその機能について理解する。
- ③家庭の状況に応じた支援について理解する。
- ④地域の子育て家庭への支援について理解する。

2. 授業概要

今日の社会環境の推移に伴う家庭の形態や役割の変化について理解するとともに、子どもが健やかに成長するために必要な子どもや子育て家庭への支援について学ぶ。特に、保育者に期待される、子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について考える。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

【予習】テキストは指定された箇所を事前に読んで授業に出席すること。また、日常的に、新聞やテレビ・インターネット等のニュースなどに目を通し、子どもや家庭、それらを取り巻く環境に関する情報に関心を持つこと。

【復習】毎回の授業後には、テキストの該当箇所や配布資料を見直し、授業内容についての理解を深めておくこと。

予習・復習は、各1時間程度になると想定される。

4. 成績評価の方法及び基準

筆記試験による内容の理解度（評価の40%）、平常点＜授業への参加姿勢・積極性（評価の30%）、課題提出・授業内の小テスト及びレポート提出の状況と内容の充実度（評価の30%）＞

これらを合わせて総合的に判断する。

『家庭支援論 第2版』 新保幸男・小林理編著 （中央法規出版）

参考文献：授業内に適宜紹介する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

自分の意見の発表、質問を積極的に行うことなど、履修者の積極的な授業参加を期待する。

授業計画	
	【後期】
1	オリエンテーション 家庭の意義と機能
2	子育て環境の変化と家庭支援の必要性
3	保育士等が行う家庭支援の原理
4	家庭生活を取り巻く社会的状況の変化
5	地域社会の変容と家庭支援
6	現代の家庭における人間関係
7	男女共同参画社会とワーク・ライフ・バランス
8	子育て家庭の福祉を図るための社会資源
9	子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進
10	多様な子育て支援サービスの概要
11	保育所入所児童の家庭への支援
12	地域の子育て家庭への支援
13	要保護児童およびその家庭に対する支援
14	子育て支援における関係機関との連携
15	まとめと筆記試験および解説

科目名	相談援助		授業コード	YE4797**	科目コード	YE4797
担当教員	板倉 香子・飯塚 美穂子・浦野 耕司・鶴岡 大輔					
授業形態	演習	配当学年	2	期間	半 期	
単位数	1	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	-	保育士資格 必修

1. 主題・到達目標

本授業は、相談援助に関する基礎的知識および技術を学ぶことを目的とする。
学生の到達目標は以下である。

- ①相談援助の原則と社会福祉の専門職としての倫理を理解する。
- ②相談援助に関する基礎的な知識を身につける。
- ③相談援助の基礎的な技法を使うことができるようになる。

2. 授業概要

授業では、相談援助の原則や基本的な技法を講義と演習を通して学ぶ。特に、ディスカッションやロールプレイなどにより、保育の現場に起る多様な事例を疑似体験し、社会福祉の倫理に従って考えることの積み重ねに重点をおいて進めていく。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

【予習】授業の前にはテキストの該当箇所を読んで受講すること。日頃から、社会で起きていることに関心を寄せ、保育に関する社会問題等については資料の収集や周囲の人と話し合うことを習慣づけること。

【復習】授業後は、配布されたプリントやテキストの該当箇所を読み、課題に取り組むなどして復習しておくこと。

予習・復習は、各1時間程度になると想定される。

4. 成績評価の方法及び基準

筆記試験による内容の理解度（評価の40%）

平常点＜授業内の課題等の提出（評価の20%）、授業への参加姿勢・積極性（評価の40%）＞

これらを合わせて総合的に判断する。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

『演習・保育と相談援助』 前田敏雄監修／佐藤伸隆・中西遍彦編（みらい）

参考文献は、授業内で随時紹介する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

講義内容筆記用のノート・プリント類保存用のファイルを用意し、前回までの授業の資料を整理して、テキストとともに毎回持参すること。積極的な授業参加を期待する。

授業計画	
	【前期】
1	オリエンテーションと導入 保育と相談援助
2	相談援助とは（１）相談援助の技術、視点
3	相談援助とは（２）相談援助の原則と倫理
4	相談援助の知識・技術（１）自己覚知と他者理解
5	相談援助の知識・技術（２）コミュニケーションスキル
6	相談援助の知識・技術（３）相談援助における記録
7	相談援助の知識・技術（４）生活課題と社会資源の把握
8	相談援助の過程（１）インテークとアセスメント
9	相談援助の過程（２）援助計画の作成
10	相談援助の過程（３）相談援助の実施と評価
11	事例検討（１）児童虐待の事例分析
12	事例検討（２）障害児とその保護者への支援事例の分析
13	事例検討（３）社会福祉施設の事例分析
14	事例検討（４）ロールプレイによる相談援助
15	まとめと筆記試験および解説

科目名	保育相談支援			授業コード	YE5082**	科目コード	YE5082
担当教員	飯塚 美穂子・浦野 耕司・上田 よう子						
授業形態	演習	配当学年	2	期間	半 期		
単位数	1	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	-	保育士資格	必修

1. 主題・到達目標

【主題】保護者に対する支援は、保育士の重要な業務のひとつであることを理解し、保育士の保護者支援について学ぶ。

【到達目標】

- ・保育相談支援の意義を理解する
- ・保育相談支援の原則を理解する
- ・保育相談支援の内容と方法を理解する
- ・事例を読んで、保育相談支援の方法を適切に用いた保護者の課題への対応を構想できる

2. 授業概要

授業では、まず保育相談支援の意義と原則について学ぶ。事例や演習を行う中で、子どもの送迎時の対応、連絡や行事など、保育の中での様々な機会を活用して、保護者を支援するための基本姿勢、技術、展開過程について理解する。また、保育所入所児童の保護者に限らず、地域子育て支援や、保育所以外の児童福祉施設における相談業務について理解を深める。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

【予習】授業前には、テキストの指示された箇所を読み、各課題の準備を行うこと。子育てにかかわる情報やニュースに関心を持ち、身近な社会で起きている出来事について理解しておくこと。

【復習】授業後には、テキストの該当箇所や配布資料を見直し、課題に取り組むなどして、授業内容についての理解を深めること。

予習・復習は、各1時間程度になると想定される。

4. 成績評価の方法及び基準

筆記試験による内容の理解度（評価の50%）

平常点く提出物、授業内の小テスト及びレポート、授業への参加姿勢・積極性（評価の50%）

これらを合わせて総合的に判断する。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

基本保育シリーズ『保育相談支援』 公益財団法人児童育成協会監修 西村重稀・青井夕貴編集（中央法規）2015年

参考文献は、授業内で随時紹介する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

授業には必ずテキストを持参すること。

積極的に授業に参加すること。

授業計画	
	【後期】
1	オリエンテーションと導入 保育相談支援の意義（１）
2	保育相談支援の意義（２）保育の特性と保育士の専門性を生かした支援
3	保育相談支援の基本（１）子どもの最善の利益と福祉の重視
4	保育相談支援の基本（２）子どもの成長の喜びの共有と保護者の養育力の向上
5	保育相談支援の基本（３）保護者との信頼関係の構築
6	保育相談支援の基本（４）社会資源の活用と連携・協力
7	保育相談支援の実際（１）保育に関する保護者に対する指導
8	保育相談支援の実際（２）保護者支援の内容
9	保育相談支援の実際（３）保護者支援の方法と技術
10	保育相談支援の実際（４）保護者支援の計画・記録・評価・カンファレンス
11	児童福祉施設における保育相談支援（１）保育所における保育相談支援の実際
12	児童福祉施設における保育相談支援（２）保育所における特別な対応を要する家庭への支援
13	児童福祉施設における保育相談支援（３）児童養護施設等要保護児童の家庭に対する支援
14	児童福祉施設における保育相談支援（４）障害児施設・母子生活支援施設における支援
15	まとめと筆記試験および解説

科目名	社会的養護		授業コード	YK5025**	科目コード	YK5025
担当教員	板倉 香子・泉 さわこ・内川 麻実子					
授業形態	講義	配当学年	2	期間	半 期	
単位数	2	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	-	保育士資格 必修

1. 主題・到達目標

本授業は、社会的養護について体系的に学び、社会的養護における保育士の役割について理解することを目的とする。
学生の到達目標は以下である。

- ①社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。
- ②社会的養護の制度や施設に関する知識を身に付ける。
- ③社会的養護における子どもの権利擁護と自立支援等について理解する。
- ④社会的養護における保育士の役割について理解する。

2. 授業概要

新聞記事や映像資料等を参照しながら、具体的事例を通して社会的養護の現状を解説する。さらに、その中で保育士の役割について深く考察する機会をもつことで、社会的養護の実態を示していく。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

【予習】テキストの指定された箇所を読むだけでなく、日頃から関連領域の新聞記事などに関心を持ち、考察を深めること。
【復習】毎回の授業後にテキストの該当箇所や配布資料を読み直しておくこと。授業で扱った専門用語等については繰り返し復習し、正確に記憶することが求められる。
予習・復習はそれぞれ1時間程度になると想定される。

4. 成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の20%）
課題提出、授業内の小テスト及びレポート（評価の30%）
筆記試験による内容の理解度（評価の50%）
これらを合わせて総合的に判断する。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：
『改訂 社会的養護』 春見静子・谷口純世・加藤洋子 編著（光生館）

参考文献：授業内で適宜紹介する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

社会福祉・児童家庭福祉の単位を修得していることが望ましい。ノートを用意し、必ず講義内容を筆記すること。
履修者の積極的な授業参加を期待する。

授業計画	
	【前期】
1	オリエンテーション 社会的養護の理念と概念
2	社会的養護の歴史の変遷
3	児童家庭福祉の一分野としての社会的養護
4	児童の権利擁護と社会的養護
5	社会的養護の制度と法体系
6	社会的養護の仕組みと実施体系
7	家庭的養護と施設養護
8	社会的養護の専門職・実施者
9	社会的養護の実際① 日常生活支援
10	社会的養護の実際② 治療的支援
11	社会的養護の実際③ 自立支援、障がい児対応
12	施設養護とソーシャルワーク
13	倫理の確立
14	被措置児童等の虐待防止
15	まとめと筆記試験および解説

科目名	社会的養護内容			授業コード	YE5081**	科目コード	YE5081
担当教員	下尾 直子・宮川 千春・泉 さわこ・鶴岡 大輔						
授業形態	演 習	配当学年	2	期間	半 期		
単位数	1	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	-	保育士資格	必修

1. 主題・到達目標

社会的養護における保育士の支援の実際について、事例をもとに専門職としての具体的な支援について学ぶ。

学生の到達目標は、以下の通りである。

- ① 児童虐待などの問題がおきる背景や原因について慎重に考えることができること
- ② 様々な福祉ニーズをもつ子どもや家庭に対して、どのように対応することができるのかを具体的に説明することができること

2. 授業概要

児童福祉施設実習における経験をクラス内で共有することにより、施設養護及び家庭養護の実際、社会的養護における計画・記録・自己評価の実際、社会的養護にかかわる相談援助の方法・技術などについて考察・ディスカッションする。また、報道資料などから、現代の社会的養護の背景や課題を探り、それぞれの施設実習の経験と重ねて考察を深める。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

- ① 児童福祉施設実習で経験したことを、自身の知的財産として整理・記録し、授業内で発表できるように準備すること。想定必要時間は、5時間である。
- ② 毎日、1日15分以上は新聞・テレビのニュースに触れ、社会的養護の必要なこどもたちとその周辺の社会問題、施設や制度についての報道にアンテナを張ること。想定必要時間数（15分×7日間×15週）は27時間である。

4. 成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の30%）

授業内のグループワークに積極的に、自らの意見をもって参加していることを評価する。

授業内提出物の内容充実度（評価の20%）

他者の発表を聞いた内容とその考察を記入するプリントを回収し、評価する。

授業内発表の内容充実度（評価の50%）

一人2回の発表において、提示資料の充実度、プレゼンテーションの力、取り組み姿勢を評価する。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

授業では、毎回、下記のテキストを使用する。必ず持参すること。

『実習生の日誌事例から考察する社会的養護内容』 雨宮由紀枝・下尾直子編著（大学図書出版）

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

前期科目7「社会的養護」の内容を十分に理解していること。

授業計画	
	【後期】
1	社会的養護における子ども理解
2	アセスメントと個別支援計画の作成
3	事例研究の意義と実際（記録と自己評価の重要性）
4	日常生活支援に関する事例分析
5	治療的支援に関する事例分析
6	自立支援に関する事例分析
7	家庭養護・家庭支援に関する事例分析
8	事例研究① 児童養護施設
9	事例研究② 乳児院
10	事例研究③ 母子生活支援施設
11	事例研究④ 児童発達支援センター
12	事例研究⑤ 障害児者入所施設
13	事例研究⑥ 障害福祉サービス事業所
14	事例研究⑦ 重症心身障害児者施設
15	社会的養護の課題と展望

科目名	造形表現Ⅰ/造形表現（表現）		授業コード	YE4521**	科目コード	YE4521
担当教員	黒須 和清					
授業形態	演習	配当学年	1		期間	通年
単位数	2	科目分類	専門必修		幼稚園教諭	必修
					保育士資格	必修

1. 主題・到達目標

手を使って物を作る「造形活動」は人間が生きていくための大切な力である。特に幼児期はその楽しさにはじめてふれる時期であり保育に携わる者はたくさんの楽しい造形体験のよりよい伝え手でなくてはならない。

伝承おもちゃを中心にその技法や動く仕組み、年齢に応じた形での提供の仕方を製作実技で体験することにより、自分の造形のレパートリーを広げ、必要に応じていつでも実践できる応用展開力を身につける。

様々な題材に触れる経験を通して、子どもの「豊かな感性や感じたことや考えたことを自分なりに表現する力と豊かな創造性」について、「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の領域「表現」の視点や考え方を知り、理解する。

2. 授業概要

おもちゃについて学ぶ。

「動き」「材料」「伝承玩具」など各回のテーマに対応した手作りおもちゃの見本を毎回複数紹介し、乳幼児向けのわかりやすい作り方で実製作をする。作品として完成させることが目的ではなく、将来の実践のサンプル作りとしてなるべくたくさんの製作体験をすることが望ましい。

造形の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、領域「表現」の保育学的な見方・考え方、保育実践の中で領域「表現」に関する育ちを見極めていく力を身につける。領域「表現」のねらいと内容に即した感性と必要に応じた援助についての理解を深めていく。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

授業で作った作品が完成に至らなければ、家で必ず完成させておく。何度も作って手に覚えさせる事が身に付くコツである。

いろいろな折に作り、レシピを見ずに作れるようになる事が望ましい。製作の手順とともに子どもたちへの教え方、材料の準備の仕方なども大事な復習ポイントである。

4. 成績評価の方法及び基準

授業中の製作物や、提出課題の製作物の造形能力の評価をするとともに、授業中の製作に取り組む態度（意欲的に参加しているか、作ったり遊んだりの様子が子どもたちと共に造形をするときの創作意欲をかきたてるようないいパフォーマンスになっているか、など）による工作の演じ手、指導者としての資質や努力も評価のひとつとする。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：

『たのしいおもちゃ屋さん』 黒須和清著（鈴木出版）
『イラストハンドブック 「せんせい、ぞうさんかいて！」』 黒須和清著（ブイツーソリューション）

参考文献：

『ひとあじちがうおもちゃのレシピ』
『壁面テーマパーク12ヶ月』
『かんたん人形劇』
『お菓子なカードのつくりかた』（いずれも黒須和清著・鈴木出版）
『幼稚園教育要領解説』 文部科学省（フレーベル館）

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

初日に指定された工作道具は次回までに必ず各自でそろえること。

道具の貸し借りや共同使用は認めない。

造形の授業は本だけで学べるものではなく、その習得は先人に直に教えを受け、その手で実体験する事が何より大事である。30講義全てが大事な習得体験なので100%の出席が原則。出席しても意欲的に授業にのぞめない場合は退室を命じたり、欠席にすることもある。欠席が前後期合わせて8回を越えたら再履修とする。

授業計画

	【前期】
1	領域「表現」のねらいと内容、子どもの「表現活動」の捉え方 オリエンテーション（工作道具について）
2	伝承文化（おりがみ）
3	伝承おもちゃ1（風車）
4	季節の工作（花）
5	演じ物1（七夕の人形劇他）
6	身近な材料1（紙コップ）
7	たのしい動き1（ぼんぼこ）
8	発表会に向けて1（かぶりもの）
9	たのしい動き2（バランス）
10	遊具の製作（コリントゲーム）
11	遊具の製作（コリントゲーム）
12	伝承おもちゃ2（わりばし鉄砲とこま）
13	カード作り1（とびだすカード）
14	たのしい動き3（くるくる）
15	たのしい動き4（のぼりくんだり） 領域「表現」の観点から前期の授業を振り返る

授業計画	
	【後期】
1	領域「表現」のねらいと内容、子どもの「表現活動」の捉え方の復習と再考 カード作り2（おもしろカード）
2	身近な材料2（牛乳パック）
3	伝承おもちゃ3（けん玉）
4	身近な材料3（スポンジ）
5	たのしい動き5（くねくね）
6	たのしい動き6（とぶ）
7	実習に向けて（かんたん紙工作）
8	クリスマス工作（リース・ブーツ）
9	クリスマス工作（ツリー他）
10	クリスマス・お誕生会工作（ケーキ）
11	発表会に向けて2（音のおもちゃ・楽器）
12	たのしい動き7（ころころ）
13	身近な材料4（ビニール）
14	発表会に向けて3（ステンドグラス・背景装置他）
15	領域「表現」のねらい・内容と造形的な表現活動（領域「表現」の観点から一年間の授業を振り返る） イラストの描きかた（子どもの活動を支えるための保育者の表現技術を考える）

科目名	保育内容・造形的表現		授業コード	YE4269**	科目コード	YE4269
担当教員	大貫 真寿美・稲葉 裕美					
授業形態	演習	配当学年	2	期間	通 年	
単位数	1	科目分類	専門必修	幼稚園教諭	必修	保育士資格 必修

1. 主題・到達目標

造形表現を通じて、保育者として子どもたちの感性を培うことが出来るようになる。
 保育者として必要な造形に関する知識教養を身につけ、子どもの造形活動を行えるようになる。
 幅広い年齢の子ども達が作って遊べるバリエーション豊かな造形遊びや制作を経験し、保育者としての技術を身につける。
 なぜ造形表現が子どもたちにとって必要かということを意識的に学び、より深い表現活動について考察できるようになる。

2. 授業概要

※通年授業を、前期・後期で大貫真寿美と稲葉裕美入れ替えて構成する。
 ●大貫真寿美の授業では教科書による学びと制作を並行して学ぶ。授業のまとめとして最終的に受講生オリジナルの絵本制作をする。造形制作活動を通じて造形素材の性質をよく知り、保育で必要な造形活動の留意点を学ぶ。様々な表現活動を通じて具体的な保育内容を考えられるようになる。絵本制作を通して表現する喜びを味わい、保育士としての感性を伸ばす。
 ●稲葉裕美の授業では壁面飾り制作を中心に制作を行いながら学ぶ。素材や質感、それぞれのものの特徴に視点を当てながら、平面物、立体物の両方を取り入れ制作し実際の保育の現場で役立つ壁面飾りを学ぶ。四季、行事に関連したテーマの他に、実際に保育の現場で多く活用されている感触遊びも授業の中で体験する。制作体験を通して、子どもの発達段階に合った保育への造形展開を学ぶ。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

指示された用具・材料は必ず用意すること。
 普段からさまざまなものの変化（天気や風景の変化や季節の移り変わり）に目をやり感性を磨くことが必要である。
 学修後の学び、気づき、留意点をノートなどに記録する。（想定必要時間は90分程度になる）
 授業内にテーマ課題を課し、その後の授業内に提出する。（想定必要時間は90分程度になる）

4. 成績評価の方法及び基準

提出課題と授業内での平常点（意欲、関心、態度、）50%提出された課題50%を総合的に判断する。
 毎回の課題評価と学年末に課題を課しその課題を評価する。
 学期末どちらかの課題が未提出の場合には通年としての単位を取得できない。
 前期5回、後期5回以上欠席の場合は単位取得を認めない。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

大貫真寿美の授業においてのテキスト
『子どもの造形表現 ワークシートで学ぶ』北沢昌代・中村光絵・畠山智宏・香月欣浩・大貫真寿美・鳥越亜矢・名取初穂著（開成出版社）
※毎回使用するので必ず購入の事。
稲葉裕美の授業においての参考文献
『せんせい、どうさんかいて！ お絵描き苦手の保育士さんのためのイラストハンドブック』黒須和清（ブイツーソリューション）

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

前期と後期と内容がクラスによって入れ替わる。通年を通して全内容を学ぶ。
 前期・後期ともに課題を提出する。前期欠席を5回以上後期欠席を5回以上した場合は通年の単位を取得できない。

授業計画

	【前期】 様々な造形表現を経験しながら学び、絵本を制作する。
1	ガイダンス 保育者として必要な技術とは？（世界を自分の目で観てみよう）
2	制作するときの環境設定（クレヨン・クレパスの特徴）
3	適切な用具材料・場の設定の仕方（マーブリング）
4	モノタイプ版画（身近な素材で自由な発想を促す）
5	スチレン版画
6	絵の具の量と適切な水の量（紫陽花とはじき絵）
7	オープン・エンドとは？（木切れを使って）
8	はさみの扱いについて1（切り紙絵とステンドグラスもどき）
9	はさみの扱いについて2（窓をあけて）
10	絵具を楽しむ（ビー玉絵とシャボン玉絵）
11	子どもと保護者と保育者の学び
12	クレパスを使って（スクラッチによるネクタイ）
13	モダンテクニックとは
14	鑑賞について（絵本作り）
15	まとめ、絵本発表

授業計画

	【後期】壁面飾り制作を中心に制作を行いながら学ぶ。学びの記録として、制作したものや学び気づきを写真等でまとめる。
1	ガイダンス
2	4月壁飾り／入園飾式に向けて
3	5月壁飾り／こいのぼり
4	6月壁飾り／梅雨
5	7月飾り／七夕、夏飾り
6	8月飾り／アクアリウム、花火
7	9月壁飾り／お月見
8	10月飾り／ハロウィン
9	11月飾り／実りの秋にちなんだ飾り
10	12月飾り／クリスマス
11	1月壁飾り／雪
12	2月壁飾り／節分、バレンタイン
13	3月飾り／ひなまつり
14	パンチボール、傘袋ロケット
15	小麦粉粘土、片栗粉粘土、まとめ

科目名	幼児音楽Ⅰ	授業コード	YE4453	科目コード	YE4453
担当教員	秋山 徹・麻野 恵子・飯田 千夏・神谷 明美・野坂 順子・諸井 サチヨ				
授業形態	演習	配当学年	1	期間	通年
単位数	2	科目分類	専門必修	幼稚園教諭	必修
				保育士資格	必修

1. 主題・到達目標

領域「表現」は「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」ことを目指すものである。領域「表現」のねらい及び内容を、音楽的な表現の側面から理解し、指導のための基礎知識と基礎技能、指導の方法、幼児の経験の捉え方、具体的な指導場面を想定し幼児の発達や学びの過程に配慮した保育を構想する力を身につける。

2. 授業概要

まず、領域「表現」のねらい及び内容と音楽的な保育実践との関連ならびに保育の基本的な見方・考え方にふさわしい指導と評価の方法を学ぶ。そして音楽的な保育実践を通して領域「表現」のねらい及び内容が達成されていくため指導者に必要な音楽的な知識や技能の基礎を学んでいく。幼児の意欲や興味関心を受け止めて「表現」への感性や表現する力や創造性を豊かにする力を有する指導者にふさわしい基礎技能を身につけることは決して簡単なことではない。保育者の基礎力として、まずはしっかりと発音で話すための発音法や、美しい声や正しい音程で歌うための発声法を学び、幼児歌曲や唱歌の歌唱個人指導を含めた実践的演習を行なう。映像や音楽資料も活用して、レパートリーを広げながら歌唱力の向上を目指す。また、学んだ発音法や発声法を基に、弾き歌い、手遊び歌、わらべうた、身体表現を組み合わせた歌唱演習などを行ない、多様な音楽活動にも対応出来る基礎的な音楽的表現力、技術力を身につけ、領域「表現」のねらい及び内容、内容の取扱いを念頭にいただいた子どもの豊かな感性と表現する喜びを育む指導力と保育を構想する力を身につけることを目指す。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

幼児音楽のレパートリーを広める意欲を持ち、歌唱技術やピアノ伴奏などの技能向上の為に日々研鑽すること。
想定必要時間は2時間程度となる。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点＜授業内での演習＞（評価の75%）
弾き歌いによる模擬保育（評価の25%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト

『幼児歌曲100曲集』（カワイ出版）
『みんなで手遊びOne・Two・トン』（ドレミ楽譜出版社）
『幼稚園教育要領解説』文部科学省（フレーベル館）
『保育所保育指針解説書』厚生労働省（フレーベル館）
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省（フレーベル館）

参考文献

授業中に適宜資料を配布する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

休まず受講することが基本である。
2年次4月の検定試験までに＜弾き歌い検定＞の＜レベル1＞に合格出来ていない場合、「教育実習Ⅲ」「保育所実習Ⅱ」に行かれない。

授業計画	
	【前期】
1	ガイダンス・発音法、発声法演習（以後、継続指導）、譜表と音部記号の理解、領域「表現」のねらい・内容の理解と指導の考え方について
2	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習（日常の歌、検定レベル1の歌、手遊び歌・わらべうた）、音符と休符の理解
3	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習（日常の歌、検定レベル2の歌、手遊び歌・わらべうた）、音名と変化記号の理解
4	弾き歌い検定課題曲個人指導（1） 指導の方法と留意点を考える
5	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習（春の季節・行事の歌、検定レベル3の歌、手遊び歌・わらべうた）、リズムと拍子の理解
6	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習（春の季節・行事の歌、検定レベル4の歌、手遊び歌・わらべうた）、和音とコードネーム、調性の理解
7	コードネーム伴奏法演習
8	歌唱個人指導（1） 指導の実際を想定し留意点を考える
9	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習（夏の季節・行事の歌、検定レベル5の歌、手遊び歌・わらべうた）、音階（長音階）の理解
10	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習（夏の季節・行事の歌、検定レベル6の歌、手遊び歌・わらべうた）、音階（短音階）の理解
11	リズム楽器演習、指導計画の作成
12	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習（秋の季節・行事の歌、検定レベル7の歌、手遊び歌・わらべうた）、音楽用語の理解
13	弾き歌い検定課題曲個人指導（2） 模擬保育
14	幼児歌曲前期歌唱演習曲まとめ 模擬保育
15	幼児歌曲前期弾き歌い演習曲まとめ 模擬保育

授業計画	
	【後期】
1	前期演習曲復習
2	弾き歌い検定課題曲個人指導（3） 模擬保育
3	実習直前音楽指導（1） 指導計画の作成と模擬保育
4	実習直前音楽指導（2） 模擬保育と振り返り
5	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習（秋の季節・行事の歌、検定レベル8の歌、手遊び歌・わらべうた）
6	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習（冬の季節・行事の歌、検定レベル9の歌、手遊び歌・わらべうた）
7	歌唱個人指導（2） 指導の実際を想定し留意点を考える
8	幼児器楽演習 指導計画の作成
9	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習（冬の季節・行事の歌、検定レベル10の歌、手遊び歌・わらべうた）
10	弾き歌い検定課題曲個人指導（4） 模擬保育
11	幼児歌曲後期歌唱演習曲まとめ 模擬保育
12	幼児歌曲後期弾き歌い演習曲まとめ 模擬保育
13	幼児音楽Ⅰ 演習曲復習（1） 模擬保育
14	幼児音楽Ⅰ 演習曲復習（2） 模擬保育
15	「幼児音楽Ⅰ」総括 領域「表現」のねらい及び内容と指導法について

科目名	幼児音楽Ⅱ	授業コード	YE4454**	科目コード	YE4454
担当教員	秋山 徹・麻野 恵子・飯田 千夏・神谷 明美・野坂 順子				
授業形態	演習	配当学年	2	期間	通年
単位数	2	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	必修
				保育士資格	選択

1. 主題・到達目標

幼児教育の現場で音楽活動を展開するために必要な幼児音楽教育の内容を理解し、幼児の発達に応じた音楽指導力を習得する。
「幼児音楽Ⅰ」で学んだ音楽技能や音楽表現力を基に、より実践的な音楽技能や音楽表現力を確立する。
「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」を踏まえ、知識ならびに技能を確立する。

2. 授業概要

幼児教育の現場において、しっかりとした発音で話すための発音法や、美しい声や正しい音程で歌うための発声法を学び、幼児歌曲や唱歌の歌唱個人指導を含めた実践的演習を行ない、映像や音楽資料も活用して、レパートリーを広げながら歌唱力の向上を目指す。
また、学んだ発音法や発声法を基に、弾き歌い、手遊び歌、わらべうた、身体表現を組み合わせた歌唱演習、幼児教育の現場における多様な音楽活動を視野に入れた演習などを行ない、幼児の感性と想像力を育む音楽的表現力、技術力、指導力を身につける。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

幼児音楽のレパートリーを広める意欲を持ち、歌唱技術やピアノ伴奏などの技能向上の為に日々研鑽すること。
想定必要時間は2時間程度となる。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点＜授業内での演習など＞（評価の50%）
弾き歌い検定試験（評価の25%）
授業の参加姿勢（評価の25%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

『幼児歌曲100曲集』（カワイ出版）
『みんなで手遊びOne・Two・トン』（ドレミ楽譜出版社）
他、適宜、資料を配布する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

休まず受講することが基本である。
2年次4月の検定試験までに＜弾き歌い検定＞の＜レベル1＞に合格出来ていない場合、「教育実習Ⅲ」「保育所実習Ⅱ」に行かれない。

授業計画	
	【前期】
1	ガイダンス・発音法、発声法演習（以後、継続指導）
2	幼児歌曲弾き歌い演習(1) 模擬保育
3	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習(1)（春の季節・行事の歌、検定レベル11の歌、手遊び歌・わらべ歌）
4	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習(2)（春の季節・行事の歌、検定レベル12の歌、手遊び歌・わらべ歌）
5	実習直前音楽指導(1) 指導計画の作成と模擬保育
6	実習直前音楽指導(2) 模擬保育と振り返り
7	幼児器楽演習(1) 指導計画の作成
8	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習(3)（夏の季節・行事の歌、検定レベル13の歌、手遊び歌・わらべ歌）
9	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習(4)（夏の季節・行事の歌、検定レベル14の歌、手遊び歌・わらべ歌）
10	歌唱個人指導(1) 指導の実際を想定し留意点を考える
11	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習(5) 幼児の音楽活動と指導の展開
12	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習(6)（秋の季節・行事の歌、検定レベル15の歌、手遊び歌・わらべ歌）
13	幼児歌曲前期歌唱演習曲まとめ 模擬保育
14	幼児歌曲前期弾き歌い演習曲まとめ(1) 模擬保育 グループA
15	幼児歌曲前期弾き歌い演習曲まとめ(2) 模擬保育 グループB

授業計画	
	【後期】
1	幼児歌曲弾き歌い演習(2) 模擬保育
2	前期演習曲復習
3	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習(7) (秋の季節・行事の歌、検定レベル16の歌、手遊び歌・わらべ歌)
4	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習(8) (秋の季節・行事の歌、検定レベル17の歌、手遊び歌・わらべ歌)
5	歌唱個人指導(2) 指導の実際を想定し留意点を考える
6	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習(9) (秋の季節・行事の歌、検定レベル18の歌、手遊び歌・わらべ歌)
7	幼児歌曲個別指導と演習・音楽表現演習(10) 幼児の音楽活動と指導の展開
8	幼児器楽演習(2) 指導計画の作成
9	幼児歌曲弾き歌い演習(3) 模擬保育
10	幼児歌曲後期弾き歌い演習曲まとめ(1) 模擬保育 グループA
11	幼児歌曲後期弾き歌い演習曲まとめ(2) 模擬保育 グループB
12	幼児音楽Ⅱ 演習曲復習(1) 模擬保育 グループA
13	幼児音楽Ⅱ 演習曲復習(2) 模擬保育 グループB
14	幼児音楽後期歌唱演習曲まとめ 模擬保育
15	「幼児音楽Ⅱ」総括

科目名	ピアノⅠ			授業コード	YE4432**	科目コード	YE4432
担当教員	柴田 美奈・脇本 美恵子・三國 彰子・辻田 由利子・岡本 有子・押川 涼子 小林 裕子・佐藤 全子・三宅 麻美・林 順子・市川 雅己・星野 苗緒・大澤 美紀 池田 聡子・白澤 暁子・塩塚 美知子・大西 望						
授業形態	演習	配当学年	1	期間	通年		
単位数	2	科目分類	専門必修	幼稚園教諭	必修	保育士資格	選択

1. 主題・到達目標

子どもの豊かな感性と表現への意欲、表現を楽しむ心の育ちを伸ばし支えるピアノ演奏技術を学修する。
音楽の基礎知識を身につけ、楽譜を正確に読み取り演奏する力をつける。
グレードⅠの学生は、1年次中に「バイエル85番」を目標とする。
全ての学生は、1年次中に合格を必須とする。
10月の教育実習Ⅰまでに、実習課題曲を仕上げる。

2. 授業概要

保育の現場で必要となるピアノ演奏の基本を学ぶ。
ピアノ経験により初心者から上級者まで、5段階のグレード別に少人数制グループレッスンを行う（最大5名）
各グレードで指定されたテキストより、実力に合う課題の演習授業。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

ピアノの上達には練習の積み重ねが必要不可欠となる。
課題の予習、復習には毎日30分以上の練習時間を要する。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点40%、定期試験50%、音楽検定ピアノ10%
平常点は、授業への参加姿勢と授業時間外学習の取り組みを評価する。
定期試験は、演奏の完成度を評価する。
音楽検定ピアノは、検定曲のレベルに関係なく合格を条件とする。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

「標準バイエルピアノ教則本」
「ブルグミュラー25の練習曲」
「ソナチネアルバム1」
「ソナタアルバム1」
「ソナタアルバム2」
以上、全て全音楽譜出版社
「モーツァルト・ソナタアルバム」
「ベートーヴェン・ソナタアルバム」

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

- 第1回の授業でクラス分けのピアノ演奏力調査を行う。
事前に配付された楽譜の中から実力に近いと思われる1曲を練習しておくこと（ピアノ未経験者は除く）
- 第2回より、決定したグレード別クラスで授業を行う。
- 遅刻は欠席とする。ただし授業には途中から参加可とする。
交通機関の遅延による遅刻は、鉄道、バス事業者が発行する遅延証明を提出し、授業に参加した場合のみ認める。
（欠席回数に含まない）
- 欠席は年間3回までとし、4回以上欠席すると定期試験が受けられず単位修得不可となる。
（実習、オリエンテーションは除く）
- 試験時の服装は、黒、紺、グレーのスーツ、無地の白シャツ（男性はネクタイ着用）、黒のパンプス（男性は革靴）、肌色ストッキング、とする。
- 著しい練習不足によりピアノ演奏技術の向上が認められない場合は、単位修得不可となることがある。

授業計画	
	【前期】 グレード別による以下の課題の演習授業 ※は定期試験課題曲（任意の1曲）
1	クラス分けピアノ演奏力調査
2	ガイダンス、演奏力の再調査、 ピアノ経験、過去の学修内容の確認、課題曲決め
3	課題曲① 楽典、譜読み
4	課題曲① 技法の演習 基礎
5	課題曲① 技法の演習 応用
6	課題曲① 奏法の演習 仕上げ
7	課題曲② 譜読み、技法の演習 基礎
8	課題曲② 技法の演習 応用
9	課題曲② 奏法の演習 確認
10	課題曲② 奏法の演習 仕上げ
11	課題曲③ 技法の演習 基礎
12	課題曲③ 技法の演習 応用
13	課題曲③ 奏法の演習 確認 実習課題曲①
14	課題曲③ 奏法の演習 仕上げ 実習課題曲① 演奏発表形式での練習
15	前期のまとめ（演奏および講評）

授業計画

	【後期】 グレード別による以下の課題の演習授業 ※は定期試験課題曲（任意の1曲） グレードⅠ
1	前期の復習、課題曲決め 実習課題曲①
2	課題曲① 技法の演習 基礎 実習課題曲①
3	課題曲① 技法の演習 応用 実習課題曲①
4	課題曲① 奏法の演習 確認 実習課題曲①
5	課題曲① 奏法の演習 仕上げ 実習課題曲①
6	課題曲② 技法の演習 基礎
7	課題曲② 技法の演習 応用
8	課題曲② 奏法の演習 確認
9	課題曲② 奏法の演習 仕上げ
10	課題曲③ 技法の演習 基礎
11	課題曲③ 技法の演習 応用
12	課題曲③ 奏法の演習 確認
13	課題曲③ 奏法の演習 仕上げ
14	課題曲③ 奏法の演習 演奏発表形式での練習 ピアノⅠⅠ 課題説明
15	後期のまとめ（演奏および講評）

科目名	ピアノⅠ＜再履修＞			授業コード	YE4432F6	科目コード	YE4432
担当教員	柴田 美奈・脇本 美恵子・三國 彰子・辻田 由利子・岡本 有子・押川 涼子 小林 裕子・佐藤 全子・三宅 麻美・林 順子・市川 雅己・星野 苗緒・大澤 美紀 池田 聡子・白澤 暁子・塩塚 美知子・大西 望						
授業形態	演習	配当学年	2	期間	通年		
単位数	2	科目分類	専門必修	幼稚園教諭	必修	保育士資格	選択

1. 主題・到達目標

子どもの豊かな感性と表現への意欲、表現を楽しむ心の育ちを伸ばし支えるピアノ演奏技術を学修する。
音楽の基礎知識を身につけ、楽譜を正確に読み取り演奏する力をつける。
グレードⅠの学生は、「バイエル85番」を目標とする。
全ての学生は、に合格を必須とする。

2. 授業概要

保育の現場で必要となるピアノ演奏の基本を学ぶ。
ピアノ再履修者によるグループレッスンを行う（最大5名）
指定されたテキストより、実力に合う課題の演習授業。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

ピアノの上達には練習の積み重ねが必要不可欠となる。
課題の予習、復習には毎日30分以上の練習時間を要する。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点40%、定期試験50%、音楽検定ピアノ10%
平常点は、授業への参加姿勢と授業時間外学習の取り組みを評価する。
定期試験は、演奏の完成度を評価する。
音楽検定ピアノは、検定曲のレベルに関係なく合格を条件とする。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

「標準バイエルピアノ教則本」
「ブルグミュラー25の練習曲」
「ソナチネアルバム1」
「ソナタアルバム1」
「ソナタアルバム2」
以上、全て全音楽譜出版社
「モーツァルト・ソナタアルバム」
「ベートーヴェン・ソナタアルバム」

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

- 4月実施の＜ピアノ特別検定＞に合格しなければ「教育実習ⅠⅡ」「保育所実習ⅠⅡ」の参加は認められない。
- 遅刻は欠席とする。ただし授業には途中から参加可とする。
交通機関の遅延による遅刻は、鉄道、バス事業者が発行する遅延証明を提出し、授業に参加した場合のみ認める。
（欠席回数に含まない）
- 欠席は年間3回までとし、4回以上欠席すると定期試験が受けられず単位修得不可となる。
（実習、オリエンテーションは除く）
- 試験時の服装は、黒、紺、グレーのスーツ、無地の白シャツ、黒のパンプス、肌色ストッキング、とする。
- 著しい練習不足によりピアノ演奏技術の向上が認められない場合は、単位修得不可となることもある。

授業計画

	【前期】 グレード別による以下の課題の演習授業 ※定期試験課題曲（任意の1曲）
1	ガイダンス、課題曲決め
2	課題曲① 譜読み、技法の演習 基礎
3	課題曲① 技法の演習 応用
4	課題曲① 奏法の演習 確認
5	課題曲① 奏法の演習 仕上げ
6	課題曲② 譜読み、技法の演習 基礎
7	課題曲② 技法の演習 応用
8	課題曲② 奏法の演習 確認
9	課題曲② 奏法の演習 仕上げ
10	課題曲③ 技法の演習 基礎
11	課題曲③ 技法の演習 応用
12	課題曲③ 奏法の演習 確認
13	課題曲③ 奏法の演習 仕上げ
14	課題曲③ 奏法の演習 演奏発表形式での練習
15	前期のまとめ（演奏および講評）

授業計画

	【後期】 グレード別による以下の課題の演習授業 ※定期試験課題曲（任意の1曲） グレードⅠ
1	前期の復習、課題曲決め
2	課題曲① 技法の演習 基礎
3	課題曲① 技法の演習 応用
4	課題曲① 奏法の演習 確認
5	課題曲① 奏法の演習 仕上げ
6	課題曲② 技法の演習 基礎
7	課題曲② 技法の演習 応用
8	課題曲② 奏法の演習 確認
9	課題曲② 奏法の演習 仕上げ
10	課題曲③ 技法の演習 基礎
11	課題曲③ 技法の演習 応用
12	課題曲③ 奏法の演習 確認
13	課題曲③ 奏法の演習 仕上げ
14	課題曲③ 奏法の演習 演奏発表形式での練習
15	後期のまとめ（演奏および講評）

科目名	ピアノⅡ			授業コード	YL44360000	科目コード	YL4436
担当教員	柴田 美奈・脇本 美恵子・三國 彰子・辻田 由利子・岡本 有子 押川 涼子・小林 裕子・佐藤 全子・三宅 麻美・林 順子・市川 雅己・星野 苗緒 大澤 美紀・池田 聡子・白澤 暁子・塩塚 美知子・大西 望						
授業形態	演習	配当学年	2	期間	通年		
単位数	2	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	選択	保育士資格	選択

1. 主題・到達目標

ピアノⅠで得た音楽の基礎知識を生かし演奏技術をさらに向上させ、ピアノ演奏における表現力を学修する。
子どもの豊かな感性と表現への意欲、表現を楽しむ心の育ちを伸ばし支える演奏力をつける。
グレードⅠからⅣの学生は、2年次中に合格を必須とする。

2. 授業概要

ピアノの演奏技術、表現力を高め保育現場で実践、応用できる力につなげる。
ピアノⅠの担当教員による20分間の個人レッスン。
ピアノⅠⅠの課題の他、実習園での課題曲、就職試験の曲など、その時点で必要となる個別の課題の演習を行う。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

ピアノの上達には練習の積み重ねが必要不可欠となる。
課題の予習、復習には毎日30分以上の練習時間を要する。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点40%（グレードⅤは50%）、定期試験50%、音楽検定ピアノ10%（グレードⅠからⅣ）
平常点は、授業への参加姿勢と授業時間外学習の取り組みを評価する。
定期試験は、演奏の完成度を評価する。
音楽検定ピアノは、検定曲のレベルに関係なく合格を条件とする。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

担当教員と相談のうえ、実力に合うテキストを使用する。
授業計画参照。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

1. 「ピアノⅠ」の単位修得ができていない。
2. 「教育実習ⅠⅠⅠ」「保育所実習ⅠⅠ」を履修する学生は、「ピアノⅠⅠ」を履修しなければならない。
3. 実習のオリエンテーションや就職活動など、行事日程外での欠席は事前に担当教員に報告する。
またその他、やむを得ない理由により遅刻、欠席する際は必ず連絡を入れその旨を伝える。
4. 2/3以上の出席がない場合は定期試験が受けられず単位修得不可となる。
5. 出席状況、成績が優秀で、ピアノ検定レベル9を10月までに取得した者は、
YOUKONピアノソロ出演のオーディション参加資格が得られる。
6. 試験時の服装は、黒、紺、グレーのスーツ、無地の白シャツ、黒のパンプス、肌色ストッキング、とする。

授業計画	
	【前期】課題の演習授業：定期試験は課題より任意の1曲・ブルグミュラー「25の練習曲」・カバレフスキー「こどものためのピアノ小曲集」・ギロック「こどものためのアルバム」・シューマン「ユーゲントアルバム」・湯山昭「子供の国」※湯山昭「お菓子の世界」・シューマン「子供の情景」任意の2曲「アラベスク」・ショパン「ワルツ」「ノクターン」※「IIワルツ」「Xジャズ」「XIIIゴークート」は、繰り返しあり。上記課題曲に加え幼児歌曲を随時取り入れる。グレード、曲の難易度により課題曲数、授業内容は異なる。
1	個別の学修計画 課題の確認
2	課題曲① 技法の演習
3	課題曲① 技法の演習 曲の分析（構成、形式）
4	課題曲① 奏法の演習 曲の理解（作曲者、様式）
5	課題曲① 奏法の演習 表現、音色について
6	課題曲① 奏法の演習 表現の探究
7	課題曲① 奏法の演習 仕上げの演奏
8	課題曲② 技法の演習
9	課題曲② 技法の演習 曲の分析（構成、形式）
10	課題曲② 奏法の演習 曲の理解（作曲者、様式）
11	課題曲② 奏法の演習 表現、音色について
12	課題曲② 奏法の演習 表現の探究
13	課題曲② 奏法の演習 仕上げの演奏
14	課題曲② 演奏発表形式での練習
15	前期のまとめ（演奏および講評）

授業計画	
	【後期】 担当教員と相談のうえ選曲した課題（自由曲）の演習授業 定期試験は任意の1曲・課題（自由曲）に加え幼児歌曲を随時取り入れる ・グレード、曲の難易度により課題曲数、授業内容は異なる
1	個別の学修計画 課題の確認
2	課題曲① 技法の演習
3	課題曲① 技法の演習 曲の分析（構成、形式）
4	課題曲① 奏法の演習 曲の理解（作曲者、様式）
5	課題曲① 奏法の演習 表現、音色について
6	課題曲① 奏法の演習 表現の探究
7	課題曲① 奏法の演習 仕上げの演奏
8	課題曲② 技法の演習
9	課題曲② 技法の演習 曲の分析（構成、形式）
10	課題曲② 奏法の演習 曲の理解（作曲者、様式）
11	課題曲② 奏法の演習 表現、音色について
12	課題曲② 奏法の演習 表現の探究
13	課題曲② 奏法の演習 仕上げの演奏
14	課題曲② 演奏発表形式での練習
15	後期のまとめ（演奏および講評）

科目名	合唱	授業コード	YE4916**	科目コード	YE4916
担当教員	藤原 規生 <伴奏> 柴田 美奈・佐藤 全子				
授業形態	演 習	配当学年	1	期間	通 年
単位数	2	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	-
				保育士資格	選 択

1. 主題・到達目標

共に声を合わせて歌うことの魅力・充実感・達成感を自らが体験することで、将来の幼児教育の実践の場において不可欠な歌の力・音楽の力を、実践・吸収する。人が集い歌うことの本質的な意味を考え、大人数で歌うことの実体験を通して、人と人との繋がりを深め合い、大勢の中での自分の役割を模索することの大切さを感じ取ることを目標とする。

2. 授業概要

音楽大学が母体である本校の特性、恵まれた環境を大切に、年末の「第九」公演をはじめ、多くの充実した合唱体験を通して、将来の教育現場での歌唱・合唱の活かし方を探求し、理解する。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

短時間でも良いので、発声練習、基礎練習の時間を設けること。
 少しの時間を活用し、復習・予習・繰り返し練習することの大切さを実感すること。
 子どもの環境に溢れる音楽のあり方についても常に思考をめぐらして探求し、実践の場に役立てられるようにすること。

4. 成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢・演奏会への各リハーサルを含む参加状況（評価の100%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

『ベートーヴェン 交響曲第九番 合唱終曲<原語カナ付>普及版・歓喜の歌』（音楽之友社）
 『女声合唱とピアノのための「出発の歌」－1971年生まれのポップ・ソングー』信長貴富編曲（カワイ出版）
 『JCDA合唱セレクション①「願い」』小原孝作詞 樹原涼子作曲（日本合唱指揮者協会）

幼児教育の現場で使用出来そうな実践的教材を副教材として、その都度配布または、購入を指示する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

合唱を通して一つのものを作り上げることの楽しさ、難しさ、尊さを体感する為にも、授業中のマナー、学ぶものとしての姿勢を問い続ける。

配布プリントや学習内容を記録したものを一冊のノートもしくはファイルにまとめること。
 五線譜のノートも必要に応じて活用。

授業計画	
	【前期】
1	合唱についてと通年授業の展開説明をガイダンスし、簡単な合唱曲を歌いつつパート分けを行い、呼吸・姿勢・基本的発声法を学ぶ。
2	歌うことの楽しさを自らも体験するためにも、ハンド・サイン、カノン、エチュード的教材を活用し、ソルフェージュ能力を高める練習を取り入れる。 自分の音域・音色・声量を意識させ、パート分けを確定させる。
3	ウォーミングアップ、呼吸法、姿勢、楽譜の持ち方、目線。歌う上での大切な要素を常に気を付けることの大切さを学ぶ。また大勢の中での一人一人の役割、パートとしての役割を実践的な合唱曲で深める。
4	校歌、第九、翼をください、を取り上げ、積極的に歌うことの喜びを感じさせる。 また、クラス合唱についてなども考察を深める。
5	第九について、ベートーヴェンについて、第九を歌うことの意義について、理解しながらその奥の深さに触れる。 クラス合唱の取り組みについても、各クラスで検討する時間を設ける。
6	第九について、ベートーヴェンについて、第九を歌うことの意義について、理解しながらその奥の深さに触れる。 クラス合唱の取り組みについても、各クラスで練習する時間を設ける。
7	第九について、ベートーヴェンについて、第九を歌うことの意義について、理解しながらその奥の深さに触れる。 クラス合唱の取り組みについても、各クラスで検討する時間を設ける。
8	第九について、ベートーヴェンについて、第九を歌うことの意義について、理解しながらその奥の深さに触れる。 クラス合唱の取り組みについても、各クラスで検討する時間を設ける。
9	第九について、ベートーヴェンについて、第九を歌うことの意義について、理解しながらその奥の深さに触れる。 クラス合唱の取り組みについても、各クラスで検討する時間を設ける。
10	ハーモニー作り・より適した発声法を探究し、よりよい音作りを目指す。 また指導法・指揮法なども研究する。
11	ハーモニー作り・より適した発声法を探究し、よりよい音作りを目指す。 また指導法・指揮法なども研究する。
12	ハーモニー作り・より適した発声法を探究し、よりよい音作りを目指す。 また指導法・指揮法なども研究する。
13	ハーモニー作り・より適した発声法を探究し、よりよい音作りを目指す。 また指導法・指揮法なども研究する。
14	グループアンサンブル
15	前期のまとめ

授業計画	
	【後期】
1	12月の「第九」に向けて、前期の総復習。後期に向けての指針を各自認識する。練習スケジュール、体調管理の大切さ、全員で創り上げることの意義を深く意識する。
2	「第九」を中心にした総合演習 パート練習の時間を設け、各パートがより主体的に能動的に楽曲に参加し、歌えるところ、難しいところ、それらを一人一人がしっかり自覚し、反復練習をする。『第九』p35～：フーガ重点的に。
3	「第九」を中心にした総合演習 パート練習の時間を設け、各パートがより主体的に能動的に楽曲に参加し、歌えるところ、難しいところ、それらを一人一人がしっかり自覚し、反復練習をする。『第九』練習番号Rを中心に。
4	「第九」を中心にした総合演習 パートの練習の時間を設け、各パートがより主体的に能動的に楽曲に参加し、歌えるところ、難しいところ、それらを一人一人をしっかりと自覚し、反復練習をする。『第九』練習番号Sを中心に。特にテンポが変わる部分を重点的に。
5	「第九」を中心にした総合演習 パートの練習の時間を設け、各パートがより主体的に能動的に楽曲に参加し、歌えるところ、難しいところ、それらを一人一人をしっかりと自覚し、反復練習をする。『第九』練習番号Sを中心に。特にテンポが変わる部分を重点的に。
6	「第九」を中心にした総合演習 パートの練習の時間を設け、各パートがより主体的に能動的に楽曲に参加し、歌えるところ、難しいところ、それらを一人一人をしっかりと自覚し、反復練習をする。『第九』p56 Prestissimoから エンディング、クライマックスの魅力を味わう。
7	「第九」を中心にした総合演習 全体を通して歌うことで4楽章の魅力を存分に受け止め、構成を考え高らかに歌い合うことの意義を深める。 発声、立ち方、呼吸法、目線、参加意識。自己研鑽を重ね演奏することの尊さを感じ合う。
8	「第九」を中心にした総合演習 全体を通して歌うことで4楽章の魅力を存分に受け止め、構成を考え高らかに歌い合うことの意義を深める。 発声、立ち方、呼吸法、目線、参加意識。自己研鑽を重ね演奏することの尊さを感じ合う。
9	「第九」を中心にした総合演習 お客様をお招きしての演奏会で歌うことの意義、能動的に参加することでより達成感を味わうということを繰り返し伝え、一人一人の意識をより高める。
10	「第九」を中心にした総合演習 お客様をお招きしての演奏会で歌うことの意義、能動的に参加することでより達成感を味わうということを繰り返し伝え、一人一人の意識をより高める。
11	「第九」を中心にした総合演習 お客様をお招きしての演奏会で歌うことの意義、能動的に参加することでより達成感を味わうということを繰り返し伝え、一人一人の意識をより高める。
12	ソリスト・合唱オケ合わせ（電子オルガン・パーカッション・ソリスト） 「第九」暗譜演習及び本番の指揮者青島氏との顔合わせ・指揮者からのメッセージ紹介
13	ソリスト・合唱オケ合わせ（電子オルガン・パーカッション・ソリスト） 「第九」暗譜演習及び本番の指揮者青島氏との顔合わせ・指揮者からのメッセージ紹介
14	「第九」本番 12月5日（木）
15	年間のまとめ

科目名	基礎表現/幼児教育の方法と技術				授業コード	YE4772**		科目コード	YE4772	
担当教員	和気 瑞江・佐野 政基・クリス チャベス・大倉 マヤ・山下 順子									
授業形態	演 習				配当学年	1			期間	通 年
単位数	2	科目分類	専門選択			幼稚園教諭	必修		保育士資格	選 択

1. 主題・到達目標

【前期】子どもの健やかな成長に大きく寄与する児童文化財のうち、与え手にとって演劇的要素の必要な人形劇、パネルシアター、絵本・紙芝居などを体験しながら、基礎的技術の習得を目指す。

【後期】保育に携わる者自身が豊かな表現力をもって魅力ある文化の与え手となれることを目標とし、保育者にふさわしい基本的な表現技術を身に付けること、個々の表現力の可能性を探ること、さらには他者の表現に対する理解を深めていくことを目指していく。

2. 授業概要

【前期】演習中心の授業。

実際に幼児の前で演じることを想定しながら、人形劇やパネルシアター、紙芝居などを演じ、体験することで、身に付けていく。

【後期】表現の基礎として、ダンスや演技を自らの身体で体験し、身に付ける。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

授業で演習したものは、何度も復習することで自分のものとして生かすことができる。教育実習など、実際に幼児と触れ合う機会に実践できるよう、ひとつひとつ、身につけること。また、日常的に、幼児のための歌・絵本・童話などをたくさん読んで、表現活動の幅を広げるよう努力すること。

4. 成績評価の方法及び基準

ペーパーテストは実施しない。

平常の授業態度、熱意、発表内容等で評価する。

授業への参加姿勢（評価の70%）

発表の内容など（評価の30%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

【前期】『保育者のための言語表現の技術－子どもとひらく児童文化財をもちいた保育実践－』（萌文書林）

必要なものは教員が作成し、配付する。

参考文献は、そのつど紹介する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

演劇的な表現の苦手な学生も、将来は幼児の表現力を高める指導の担い手となるのだから、自らがより優れた表現者であろうとする熱意を持って授業を受けること。

【前期】第1回授業は、2クラス合同のガイダンス（K200教室）に集合すること：通常授業の教室と違うので、注意すること）を実施する。第9回授業から、担当教員の交替（教室を移動すること）を行う。

【後期】第1回授業は、2クラス合同のガイダンス（K200教室）に集合すること）を実施する。第9回授業から、担当教員の交替（教室を移動すること）を行う。

ダンス受講時は、必ず動きやすい服装（トレーニングウェアやTシャツ、スウェットなど）に着替えて集合すること。ジーンズでの受講は不可。靴は室内用スニーカーやダンスシューズ着用のこと。

※半期（前期・後期いずれかでも）に4回欠席すると単位を取得できない。（実習やオリエンテーションは除く。）※前期・後期ともに途中で担当教員の交替をする。

※詳細な日程はガイダンス（第1回授業）で説明をする。

授業計画	
	【前期】 できるかぎり多くの様々な『児童文化財』を体験する。 途中、教室の変更があるので、注意すること。
1	【和気・佐野】2クラス合同で前期のガイダンス ～授業の内容について説明をする
2	【和気】ペープサート①～ペープサートの特性と人形作成 【佐野】絵本①～絵本の特性と作品の選び方について
3	【和気】ペープサート②ペープサートの操作と演技・人形劇の人形製作～人形のデザイン 【佐野】絵本②～読み聞かせのポイントと実演発表
4	【和気】人形劇①動物のハンドパペット制作～デザインに基づき作成 【佐野】紙芝居の特性と演じ方について
5	【和気】人形劇②動物のハンドパペット制作～仕上げ 【佐野】パネルシアター①～パネルシアターの特性と作品紹介～
6	【和気】人形劇③人形の操作と演技 【佐野】パネルシアター②～パネルシアターの制作及び練習～
7	【和気】人形劇④グループで脚本検討と練習 【佐野】パネルシアター③～パネルシアター実演発表1回目～
8	【和気】人形劇⑤グループごとの発表 【佐野】パネルシアター④～パネルシアター実演発表2回目～ ※ 次週から教室を変更する
9	※ 教室が変更になるので間違えないこと 【佐野】絵本①～絵本の特性と作品の選び方について 【和気】ペープサート①～ペープサートの特性と人形作成
10	【佐野】絵本②～読み聞かせのポイントと実演発表 【和気】ペープサート②ペープサートの操作と演技・人形劇の人形製作～人形のデザイン
11	【佐野】紙芝居の特性と演じ方について 【和気】人形劇①動物のハンドパペット制作～デザインに基づき作成
12	【佐野】パネルシアター①～パネルシアターの特性と作品紹介～ 【和気】人形劇②動物のハンドパペット制作～仕上げ
13	【佐野】パネルシアター②～パネルシアターの制作及び練習～ 【和気】人形劇③人形の操作と演技
14	【佐野】パネルシアター③～パネルシアター実演発表1回目～ 【和気】人形劇④グループで脚本検討と練習
15	【佐野】パネルシアター④～パネルシアター実演発表2回目～ 【和気】人形劇⑤グループごとの発表

授業計画	
	【後期】 演技とダンス両方の基礎を身につける。演技（大倉、山下担当）とダンス（クリス担当）を初回ガイダンスを除く7回ずつで交代。
1	【クリス・大倉・山下】2クラス合同で後期のガイダンス ～授業の進め方と内容～
2	【大倉または山下】 演技基礎（準備体操、コミュニケーションゲーム）スピーチ 【クリス】 ダンス基礎（ウォームアップ、フロアでの基礎ステップ）、振付け①
3	【大倉または山下】声を使ったコミュニケーション 【クリス】ダンス基礎（ウォームアップ、フロアでの基礎ステップ）、振付け②
4	【大倉または山下】身体を使ったコミュニケーション 【クリス】ダンス基礎、ステージ上での立ち方（姿勢、表現、意識について）、振付け③
5	【大倉または山下】テキストや絵を元にしたグループ創作① 【クリス】ダンスの基礎、ステージ上での立ち方、振付け④
6	【大倉または山下】テキストや絵を元にしたグループ創作② 【クリス】ダンス基礎、振付けの復習
7	【大倉または山下】グループごとの発表 【クリス】ダンス基礎、グループごとの発表
8	【大倉または山下】演技に関するまとめと復習 【クリス】ダンスのまとめと復習 ※ 次週から教室を変更する
9	【大倉または山下】 演技基礎（準備体操、コミュニケーションゲーム）スピーチ 【クリス】 ダンス基礎（ウォームアップ、フロアでの基礎ステップ）、振付け①
10	【大倉または山下】声を使ったコミュニケーション 【クリス】ダンス基礎（ウォームアップ、フロアでの基礎ステップ）、振付け②
11	【大倉または山下】身体を使ったコミュニケーション 【クリス】ダンス基礎、ステージ上での立ち方（姿勢、表現、意識について）、振付け③
12	【大倉または山下】テキストや絵を元にしたグループ創作① 【クリス】ダンスの基礎、ステージ上での立ち方、振付け④
13	【大倉または山下】テキストや絵を元にしたグループ創作② 【クリス】ダンス基礎、振付けの復習
14	【大倉または山下】グループごとの発表 【クリス】ダンス基礎、グループごとの発表
15	【大倉または山下】演技関連および後期授業のまとめ 【クリス】ダンス関連および後期授業のまとめ

科目名	総合表現（ぐりとぐら）		授業コード	YE477300	科目コード	YE4773
担当教員	山下 順子・秋山 徹・古田 賢司					
授業形態	演習	配当学年	2	期間	通 年	
単位数	2	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	-	保育士資格 選 択

1. 主題・到達目標

子どもを対象とする劇作り（総合表現）を通して、子ども理解や自己表現、豊かで魅力ある集団表現を実現させる。五感を駆使し、協同作業によってものごとを練り上げていく劇作りと上演の体験は、自主性を磨き、表現力を高め、コミュニケーション力を養い、将来子どもや様々な他者と交流する際に必ず役立つ。

2. 授業概要

日本の代表的絵本のひとつ『ぐりとぐら』を着ぐるみ人形による音楽劇として舞台化し、総合的な表現活動を体験しながら、履修の総仕上げとして幼児の観客を対象に発表上演する。
オーディション、舞台セッティング、人形着用・操作、リハーサル、上演、総括と進行する。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

予習：台本を読みながら演技のアイデアを想像する。セリフを覚える。なぜそのセリフを発するのか、どういう状況で発するのかを考え個人練習する。きっかけを覚える。楽譜を見て個人練習。グループごとに自主稽古。過去の上演DVDを見て研究しておく。復習：授業で行った内容を台本・楽譜を見ながら個人練習し、思い出しておく。授業でうまくいかなかったところは必ず克服しておく。そして新たなアイデアを想像し、付け足しておく。（これが次回授業の個人目標となる。）

4. 成績評価の方法及び基準

平常点＜授業内発表及び上演＞（評価の50%）
授業への参加姿勢（評価の50%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

『ぐりとぐら』中川李枝子文・大村百合子絵（福音館書店）による台本
『ぐりとぐら』中川李枝子文・大村百合子絵（福音館書店）とそのシリーズ

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

最終上演に必ず参加する。
一日集中練習日あり（7月28日オープンキャンパス、10月30日補講日、詳細後日）。
授業前に全員で協力してセットを組み、身体・声・楽器のウォームアップをしておく。
演技者以外に、演奏者、合唱、演出助手・音響・舞台スタッフとしての履修もあり。
キャスト、オーケストラ、合唱、スタッフのグループ分けは希望調査後、オーディションにて決定。

授業計画

	【前期】 一通り「ぐりとぐら」を最後まで作り、各人が劇の流れ全体を把握する。(基本的に本番を行う前田ホールにて授業。オーケストラはシルバーマウンテンにて別稽古あり。)※稽古の進行程度により授業内容が多少変更になることがある。
1	ガイダンス、台本を読む、上演DVD鑑賞。
2	オーディション／スタッフ・キャスト希望調査
3	キャスティング発表、読み合わせ、着ぐるみフィッティング、人形操作。
4	舞台セッティング①(基礎編)。着ぐるみ着用練習、セリフ練習／演奏練習開始
5	舞台セッティング②(習熟編)。頭なし着ぐるみ着用立ち稽古①シーン1～5(Aグループ)。
6	舞台セッティング③(自立編)。頭なし着ぐるみ着用立ち稽古②シーン1～5(Bグループ)／合唱練習①(Aグループ)
7	ダンス振り付け①M15 / 頭なし着ぐるみ着用立ち稽古③シーン6～10(Aグループ)／合唱練習②(Bグループ)
8	ダンス振付②M3。頭なし着ぐるみ着用立ち稽古④シーン6～10(Bグループ) 合唱付き。
9	頭付き着ぐるみ着用立ち稽古①Aグループ(合唱・マイク付き)。
10	頭付き着ぐるみ着用立ち稽古②Bグループ(合唱・マイク付き)
11	オーケストラと合わせ稽古①Aグループ(マイク、頭付き)
12	オーケストラと合わせ稽古②Bグループ(マイク、頭付き)
13	授業見学会(観客の前で稽古する)。歌のお姉さんのシーン作り。
14	あら通し(各人が全体の流れを把握する)Aグループ。
15	あら通しBグループ(全体の流れを復習)。

授業計画	
	【後期】 発表上演に向けて、個々の表現技術を高め、かつ劇全体の芸術レベルを高める。 基本的に本番を行う前田ホールでの授業を行う。 ※稽古の進行程度により授業内容が多少変更になることがある。
1	思い出し稽古(合唱・オーケストラ付き)Aグループ。
2	思い出し稽古(合唱・オーケストラ付き)Bグループ。
3	シーン4(動物たち全員が集まってくるところ)からを、細かく繰り返し稽古する。Aグループ。
4	シーン4(動物たち全員が集まってくるところ)からを、細かく繰り返し稽古する。Bグループ。
5	集中練習Aグループ。最初から最後まで細かく止めながら繰り返し稽古する。歌のお姉さんのシーン稽古。
6	集中練習Bグループ。最初から最後まで細かく止めながら繰り返し稽古する。ぐりとぐらの道具稽古。
7	通し稽古。照明音響外部スタッフ見学。
8	仕込み及び通し稽古。
9	通し稽古(音響照明外部スタッフつき)ABグループ
10	ゲネプロ(本番と同じ状態の最終通し稽古)ABグループ
11	附属幼稚園生に向けての上演① 高津区民に向けての上演②
12	上演③(Senzoku Gakuen Festival)
13	上演④(Senzoku Gakuen Festival)
14	上演⑤(Senzoku Gakuen Festival)
15	総括(上演を終えて目標を達成できたかどうか、こうしたほうがもっとよくなるという提案も含めて全員で検証、共有する)。人形メンテナンス、倉庫整理。

科目名	演技実習	授業コード	YE4924**	科目コード	YE4924
担当教員	篠原 真・瀧本 瞳・クリス チャベス				
授業形態	演習	配当学年	2	期間	半期
単位数	1	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	—
				保育士資格	選択

1. 主題・到達目標

8月18日（日）のミュージカル公演に向け、ダンス・歌、それぞれジャンル別の授業を行い、個人の能力向上を目標とする。

2. 授業概要

授業計画に沿って、実習を行う。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

毎回課題（音とり、暗譜、ダンス振り付け）を与える。

4. 成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の70%）

平常点＜授業内の小テスト＞（評価の30%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

その都度配付する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

木曜V限の「ミュージカル（前）」を履修すること。

要望として動きやすい服装を着用すること。

他にタオル、筆記用具、飲み物等を用意し、授業開始時刻には着替えを済ませ入室すること。

授業計画	
	【前期】
1	ガイダンス（ストレッチ・発声）
2	＜ダンス＞ ストレッチ Hoil Holy Queen、Joyful Joyful振り付け①
3	＜ダンス＞ ストレッチ Hoil Holy Queen、Joyful Joyful振り付け②
4	＜ダンス＞ ストレッチ Hoil Holy Queen、Joyful Joyful振り付け③
5	＜ダンス＞ Ball of Confusion、Joyful Joyful 振り付け①
6	＜ダンス＞ Ball of Confusion、Joyful Joyful 振り付け②
7	＜ダンス＞ The Greatest Medley Ever Told 振り付け
8	＜ダンス＞ ダンス総まとめ
9	＜歌＞ 発声、祈りの歌、 The Greatest Medley Ever Told ①
10	＜歌＞ 発声、祈りの歌、 The Greatest Medley Ever Told ②
11	＜歌＞ Hoil Holy Queen、Ball of Confusion①
12	＜歌＞ Hoil Holy Queen、Ball of Confusion②
13	＜歌＞ His Eyes on the Sparrow、 Oh Happy Day
14	＜歌＞ Joyful Joyful、Ode to Joy
15	＜歌＞ 全曲総まとめ

科目名	体育（乳幼児体育を含む）/子どもの健康と運動遊び		授業コード	YE4620**	科目コード	YE4620
担当教員	石濱 加奈子・藤元 直美					
授業形態	演習	配当学年	1	期間	通年	
単位数	2	科目分類	専門必修	幼稚園教諭	必修	保育士資格 必修

1. 主題・到達目標

【主題】保育内容・領域「健康」のねらいと内容を理解し、子どもが健康なからだを育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養うための指導の知識と技術を身に付けることを目的とする。

【到達目標】

- ・保育内容・領域「健康」のねらいおよび内容に合った運動遊びの捉え方や取り入れ方を知る
- ・運動遊びの指導に必要な安全の知識と技術をもち、指導に活かすことができる
- ・子どもの年齢に応じた運動遊びの選択、指導、環境設定、安全確保について理解する
- ・運動遊びの計画・実践・振り返りの体験を通して、指導と配慮について理解を深める
- ・保育者として自身が運動の楽しさを実感できるようになる
- ・保育者に相応しい体力を維持・向上のための方法を知る

2. 授業概要

保育内容・領域「健康」のねらいおよび内容との関連を意識しながら、保育者として子どもの運動遊びの捉え方や促し方、保育への取り入れ方を学ぶ。

子どもに相応しい運動遊びを体験しながら、発達に応じた指導・環境設定・安全の確保について理解する。

子どもが楽しさを体感できる運動遊びの計画・実践・振り返りをおこない、指導や配慮について理解する。

・子どもに身体を動かす楽しさを伝えるために、まずは自分自身が身体を動かすことを楽しいと思う気持ちをもてるようにする。保育者に相応しい体力を維持・向上するための縄跳び、筋力トレーニングも実践する。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

以下の3点を予習・復習とし、想定必要時間は120分程度となる。

- ・運動や子どもの遊びに興味を示し、様々な方法で情報を収集すること。・授業で取り扱った運動内容と毎授業にて指定された箇所をテキストにて確認し、自分なりの指導方法を想定すること。・保育者に必要な体力と健康管理の重要性を理解し、日常生活の中でからだに負荷をかける努力をすること。また、運動実技をおこなうため、体調を整えて授業に臨むこと。授業内で課す課題については、期日までに丁寧に取り組むこと。

4. 成績評価の方法及び基準

実技テスト（評価の40%）

提出物（評価の50%）

授業への参加姿勢（評価の10%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：『幼児の運動あそび』吉田伊津美編（チャイルド本社）、

『幼稚園教育要領解説』文部科学省（フレーベル館）2018、

『保育所保育指針解説書』厚生労働省（フレーベル館）2018、

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省（フレーベル館）2018、

必要に応じて資料を配布する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

半期（前期・後期いずれかでも）に4回欠席、もしくは通年で7回欠席すると単位を取得できない。（実習やオリエンテーションは除く。）

第1回目の授業時に説明するルールを遵守して受講すること。

第1回目は、運動着・運動靴を着用の上集合すること。

授業計画	
	【前期】
1	ガイダンス(受講上のルールと授業の進め方、領域「健康」のねらい・内容と運動遊びとの関連を知る)
2	号令・整列・移動の方法について 屋外での運動遊び(伝承遊び・鬼ごっこ)
3	体カテスト(1) 50M走、持久走、ハンドボール投げ
4	体カテスト(2) 握力、立ち幅跳び、長座体前屈、反復横跳び、背筋力
5	リズム体操の習得(1) はとぼっぽ体操 伝承遊び
6	リズム体操の習得(2) NO.1体操 屋内でできる鬼ごっこ
7	リズム体操の習得(3) サンサンたいそう 身の周りにある素材を使った運動遊び
8	リズム体操の習得(4) プンバ・ポーン 縄遊び、縄跳びが跳べるまで
9	リズム体操の習得(5) エビカニクス ボール遊び、「投げる」という動作について
10	リズム体操の確認テスト 低年齢児のリズム体操
11	リズム体操―指導者としての師範・号令 遊具遊び
12	リズム体操―発達段階に応じた動き マット遊び
13	リズム体操―行事に向けた教材選択と指導法(1) 年齢や場面に応じた動きづくり からだ遊び(組体操)
14	リズム体操―行事に向けた教材選択と指導法(2) 曲やテンポに応じた動きづくり からだ遊び(安全への配慮と組立体操)
15	創作リズム体操の発表 前期授業のまとめ

授業計画	
	【後期】
1	ガイダンス(後期授業の目標と進め方) からだ慣らしのための運動遊び、領域「健康」のねらい・内容と運動遊びとの関連の確認
2	リズム体操(6) 場所の広さに応じた体操 多様な動きを引き出す運動遊びー種類
3	リズム体操の習得(7) グループでおこなう体操 多様な動きを引き出す運動遊びー変化
4	リズム体操の習得(8) 見せるための体操 多様な動きを引き出す運動遊びー主に下肢を使う
5	リズム体操の確認テスト 多様な動きを引き出す運動遊びー主に上肢を使う
6	運動遊び指導実践の進め方
7	運動遊びの指導計画と指導実践(1) 1～4班の発表
8	運動遊びの指導計画と指導実践(2) 5～8班の発表
9	運動遊びの指導計画と指導実践(3) 9～12班の発表
10	運動遊びの指導計画と指導実践(4) 13～16班の発表
11	運動遊びの指導計画と指導実践(5) 17～20班の発表
12	運動遊びの指導計画と指導実践(6) 21～22班の発表、予備日
13	運動遊びの指導計画と指導実践のまとめ・振り返り 体力向上のための運動遊び(1) ルールの多い鬼ごっこ
14	実技テスト(1) 腹筋、縄跳び 体力向上のための運動遊び(2) 自分と人のからだを使う遊び
15	実技テスト(2) 運動遊び習得の確認 授業のまとめ

科目名	保育者のための文章表現			授業コード	YE4821**	科目コード	YE4821
担当教員	井上 眞理子・向笠 京子・山本 有紀・長島 万里子・高橋 優子・伊藤 路香						
授業形態	演習	配当学年	1	期間	通 年		
単位数	2	科目分類	専門必修	幼稚園教諭	必修	保育士資格	選択

1. 主題・到達目標

＜主題＞保育者は「書く」ことによって、子どもの姿や思い、自分の援助や意図を振り返りながら、保育を理解する。現場においては、保護者への連絡帳、園だより、指導計画の立案、担当クラスの保育記録、研修会参加後のレポートなど、文章を書く機会も多い。すなわち、保育者にとって「文章を書く」という営みは、その仕事の中核をなすものである。この授業では、保育者に求められる実践的な「文章で表現する」力を習得することを目指す。

＜到達目標＞・保育現場で使用する保育用語や漢字を正しく理解し、活用できる力を習得する。・多様な文章に触れ、表現する基礎となる語彙を増やし、正しい文章構成を理解する。・見たこと、感じたこと、考えたことを適切な文章で表現できる力を習得する。・お礼状やプロフィール、履歴書等の社会人に求められる諸書類の作成の方法を習得する。・保育記録や指導計画の書式を理解し、作成方法の基礎を理解する。

2. 授業概要

この授業では保育者を志す学生が必要な国語力を身に着けることができるよう、授業回ごとにテーマを決める。テキストと配布プリントを使って「読む力、要約する力、文章を書く力」の育成に取り組む時間のほか、以下の時間を設定し、総合的な国語力の向上を目指す。

○漢字テストを毎回に行うことによって、保育者として必要な漢字の知識が定着するようにする。

○読書の時間を毎回設けることによって、幅広い内容の文章に触れクラスメイトと共有できるようにする。

○保育用語のテストを定期的に行うことによって、保育者として必要な用語を活用できるようにする。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

授業で教員が示す。授業テーマにより予習・復習の内容は異なるが、予習に60分、復習に30分程度が予想される。

漢字及び保育用語テストに関しては、テストの実施計画を配布するので予習しておくこと。

4. 成績評価の方法及び基準

授業内の小テスト・課題・レポート（評価の70%）

授業中の参加姿勢・態度（評価の30%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

『これだけは知っておきたい わかる・書ける・使える 保育の基本用語（改訂版）』長島和代編（わかば社）

『これだけは知っておきたい わかる・話せる・使える 保育のマナーと言葉（改訂版）』長島和代編（わかば社）

『「こころ」が伝わる 手紙の書き方とマナー文例集』西東社編集部（西東社）

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

保育者を志す学生として必要な文章表現を身に着けるための授業である。本学における幼稚園・保育所実習や、就職への準備とも深く関わる授業となる。履修者の積極的な参加を期待する。

授業計画	
	【前期】
1	実習生プロフィールの書き方
2	保育用語の基礎
3	保育環境構成の書き方
4	レポートの書き方
5	基礎実習の記録の書き方
6	生活をとらえ時系列で記録する
7	お礼状（はがき）を作成する
8	子どもの姿をとらえ記録する(1)遊びの場面
9	保育者の援助を理解し記録する(1)遊びの場面
10	保育者の意図を理解し記録する(1)遊びの場面
11	子どもの発達をとらえ、分析する(1)遊びの場面
12	お礼状（暑中見舞い）を作成する
13	部分実習指導案の基礎(1)絵本をテーマに
14	部分実習指導案の基礎(2)指導案を書く
15	部分実習指導案の基礎(3)添削・模擬保育

授業計画	
	【後期】
1	オリエンテーションの記録方法
2	子どもの姿をとらえ記録する(2)生活の場面
3	実習園情報の書き方
4	お礼状(封書)を作成する(1)幼稚園
5	日々の目標の立て方
6	乳児の遊び場면을記録する
7	乳児の生活場면을記録する
8	子どもの姿をとらえ記録する(3)一日の保育のなかで
9	保育者の援助を理解し記録する(2)生活の場面
10	保育者の意図を理解し記録する(2)生活の場面
11	子どもの発達をとらえ、分析する(2)生活の場面
12	部分実習指導案の基礎(4)生活の場面
13	部分実習指導案の基礎(5)乳児の活動
14	お礼状(封書)を作成する(2)保育所
15	履歴書の書き方

科目名	教育実習指導Ⅰ/基礎実習指導			授業コード	YE4351**	科目コード	YE4351
担当教員	井上 真理子・山本 有紀・向笠 京子・長島 万里子・高橋 優子・伊藤 路香						
授業形態	演習及び実習			配当学年	1	期間	
単位数	2	科目分類	専門必修	幼稚園教諭	必修	保育士資格	-

1. 主題・到達目標

幼稚園教諭免許及び保育士資格の取得を目指すために必要な基礎的事項について学ぶことを主題とする。具体的には以下を目標とする。

- ①実習全体の体系及び各実習の意義や目的を理解する。
- ②保育現場に臨む心構えや態度、マナーなど、実習生としての基礎的素養を身につける。
- ③幼稚園、保育所における体験を通じ、保育現場における子どもの生活や保育実践に触れ関心を高める。

2. 授業概要

学内における講義・演習の授業では、幼稚園及び保育所の基礎的な理解や各実習で必要とされる観察方法や記録の仕方、子ども理解の実際をテキストや視覚教材を用いて学習する。

見学実習（附属幼稚園）では、子どもの主体性を育む保育環境の実際を見学し、環境構成の重要性を学び、環境を捉える視点を習得する。体験実習（幼稚園及び保育所）においては、保育の実際に参加し、子どもの生活や遊びを体感するとともに、子どもの実態及び保育者の援助や配慮のあり方に触れる。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

授業毎に指定する実習準備のための課題や書類の作成に取り組み、次回授業で予定されている内容を指定テキストや授業内で配布するプリントを確認しておくこと。2時間程度を想定している。

4. 成績評価の方法及び基準

授業、見学実習、体験実習への参加姿勢（評価の50%）

提出物の内容、手続きの遵守（評価の50%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト

『フォトランゲージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画』 神永直美 萌文書林

・授業内で配布する資料

・「洗足こども短期大学 2019年度実習の手引き」

参考文献

『幼稚園教育要領解説』＜最新版＞ 文部科学省 フレーベル館

『保育所保育指針解説書』＜最新版＞ 厚生労働省 フレーベル館

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』＜最新版＞ 内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

- ◆ 本学の学生であるという自覚をもち、真摯で謙虚かつ主体的な態度で実習に関わる基礎的事項の学習に励むこと
- ◆ 見学実習及び体験実習の参加条件については、「2019年度実習の手引き」に基づく
- ◆ 基礎実習の単位認定の条件については、「2019年度実習の手引き」に基づく

授業計画	
	【前期】
1	保育者の役割と資質の理解（附属幼稚園園長先生の講話）
2	保育の環境を捉える：保育環境と記録
3	基礎実習①：附属幼稚園見学実習の概要の理解
4	幼稚園教育の基礎：幼稚園の生活を理解する
5	基礎実習②：幼稚園における体験実習の概要
6	幼稚園における実習の準備と心構え
7	幼稚園における体験実習を振り返る
8	保育所保育の基礎：保育所の生活を理解する
9	基礎実習③：保育所における体験実習の概要
10	乳幼児の発達の魅力と実際
11	保育所における実習の準備と心構え
12	保育所における体験実習を振り返る
13	実習における目標の立て方
14	実習記録の作成の基礎
15	オリエンテーションの意義と方法

科目名	教育実習指導Ⅱ/教育実習Ⅰ			授業コード	YE4352**	科目コード	YE4352
担当教員	井上 眞理子・山本 有紀・向笠 京子・長島 万里子・高橋 優子・伊藤 路香						
授業形態	演習及び実習			配当学年	1	期間	
単位数	2	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	必修	保育士資格	-

1. 主題・到達目標

＜実習指導＞【主題】事前指導では、実習生として幼稚園における教育活動に参画する意欲を高める。また、教育実習Ⅰの実習目標や内容を理解し、自己課題を明確にする。事後指導では、教育実習Ⅰで得られた成果と課題を振り返り、次の実習までに習得すべき知識や技能について理解する。【到達目標】1. 教育実習Ⅰの目的と概要を理解できる。2. 教育実習Ⅰの内容を踏まえ、実習での自己の課題を明確化できる。3. 実習生としての心構えや子どもの人権やプライバシー保護の留意事項を理解できる。4. 実習での観察や経験の記録方法を理解できる。5. 部分的な教育活動の計画を立てることができる。6. 部分実習を実践するための教材研究や保育技術への関心を持ち、準備する。7. 実習経験を振り返り、次の実習までに習得すべき知識や技能を理解できる。

＜実習＞【主題】幼児や保育環境等に対して適切な観察を行うとともに、幼稚園教育における補助的な役割を担うことを通して、教育実習園の幼児の実態とこれを踏まえた教育活動の特色を理解する。【到達目標】1. 幼児との関わりを通して、その実態や発達課題を把握することができる。2. 保育者の援助や配慮を観察し、事実に基づいて記録することができる。3. 実習園の教育理念や方針を理解し、特色ある教育活動を理解することができる。4. 保育者の補助的な役割を担い、幼稚園教諭の役割を理解することができる。

2. 授業概要

事前指導では、教育実習Ⅱを円滑に進めて行くための知識・技術を習得する。学内での講義・演習や実習園でのオリエンテーションを通して、幼稚園教育の基本や実習の意義・目的・内容・方法を理解し、幼稚園教諭にふさわしい態度や心構え、記録の取り方や指導計画の立て方を学び、教育実習Ⅱを円滑に進めて行くための知識・技術を習得する。

教育実習Ⅰでは、幼稚園における保育に参加し、幼稚園教育の実践について理解する。また原則として部分実習を経験し保育実践の基礎的な技術を習得する。

事後指導では、実習のねらいや自己の実習目標に照らし、教育実習Ⅰの経験を振り返り、自己評価を行い、今後の課題を検討する。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

授業毎に指定する実習準備のための課題や書類の作成に取り組み、次回授業で予定されている内容を指定テキストや授業内で配布するプリントを確認しておくこと。2時間程度を想定している。

4. 成績評価の方法及び基準

事前指導・事後指導における課題・レポート・提出物の内容と提出状況及び授業に対する取り組み姿勢（評価の50%）

実習への参加姿勢・実習中の手続き等の遵守・実習園からの評価・実習日誌及び部分実習指導案の作成状況（評価の50%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト

『フォトラングージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画』 神永直美 萌文書林

・授業内で配布する資料

・「洗足こども短期大学 2019年度実習の手引き」

参考文献

『幼稚園教育要領解説』＜最新版＞ 文部科学省 フレーベル館

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』＜最新版＞ 内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

- ◆ 基礎実習指導の単位を取得していること
- ◆ 教育実習Ⅰの参加条件については「2019年度 実習の手引き」に基づく
- ◆ 実習参加までに、＜弾き歌い検定＞の「レベル1」（2曲）の弾き歌いができるようにしておく。
- ◆ 教育実習指導Ⅰの単位取得の条件については「2019年度 実習の手引き」に基づく

授業計画	
	【後期】
1	教育実習Ⅰの概要と目的 実習のねらいと内容の理解
2	教育実習Ⅰの実習目標の設定
3	実習園の理解の方法 園の教育理念と方針、沿革を理解する 実習日誌の書き方の基本（園の概要）
4	オリエンテーション（実習園） 実習の内容と準備の理解
5	実習日誌の書き方① 実習園の概要・園環境・実習の目標
6	実習日誌の書き方② 日々の記録の取り方・事例と考察・振り返りと課題の設定
7	保育教材の研究 教材の準備の実際
8	実習直前指導（訪問教員との顔合わせ） 実習目標の確認・巡回訪問指導の実際
9	実習直前演習 実習中の報告事項や方法の理解・健康管理について
10	<教育実習Ⅰ 10月17日（木）～10月31日（木）> 事後指導① 教育実習Ⅰの振り返りと今後の課題
11	事後面談（訪問教員との振り返り）
12	事後指導② 教育実習Ⅰの記録の振り返りと学びの整理
13	
14	
15	

科目名	教育実習指導Ⅲ	授業コード	YE4353**	科目コード	YE4353
担当教員	井上 眞理子・柳井 郁子・石濱 加奈子・高橋 優子・上田 よう子・菊地 奈津美				
授業形態	演習及び実習	配当学年	2	期間	
単位数	3	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	必修
				保育士資格	－

1. 主題・到達目標

＜実習指導＞【主題】事前指導では、実習生として幼稚園における教育活動に参画する意欲を高める。また、教育実習Ⅱの実習目標と内容を理解し、自己課題を明確にする。事後指導では、教育実習Ⅱで得られた成果と課題を振り返り、幼稚園教諭免許取得までに習得すべき知識や技能について理解する。【到達目標】1. 教育実習Ⅱの目的と概要を理解できる。2. 教育実習Ⅱの内容を踏まえ、実習での自己の課題を明確化できる。3. 実習生としての心構えや子どもの人権やプライバシー保護の留意事項を理解できる。4. 実習園での保育の実態を適切に記録する方法を理解できる。5. 幼稚園教育要領や実習園の教育課程を踏まえた指導案の作成方法を理解できる。6. 責任実習を実践するための教材研究や保育技術への関心を持ち、準備する。7. 実習経験を振り返り、幼稚園教諭免許取得までに習得すべき知識や技能を理解できる。＜実習＞【主題】幼児との関わりを通して実習園の教育活動の実態を理解し、短期大学で学んだ領域や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を保育で実践するための基礎を身につける。【到達目標】1. 幼児理解に基づき、様々な活動場面で適切に幼児に関わることができる。2. 保育者の補助的な役割を担うことを通し、幼稚園教諭の役割を理解できる。3. 実習園での保育の実態を事実として記録することができる。4. 実習園の教育課程等の保育計画を踏まえ、子どもの実態に即した指導計画を立案することができる。5. 指導計画に基づく実践を通して必要な保育技術を身につける。

2. 授業概要

事前指導では、学内での講義・演習や実習園でのオリエンテーションを通して、実習の意義・目的・内容・方法を理解し、幼稚園教諭にふさわしい態度や心構え、記録の取り方や指導計画の立て方を学び、教育実習Ⅲを円滑に進めて行くための知識・技術を習得する。
教育実習Ⅲでは、原則として全日責任実習を経験することで、幼稚園における一日の学級運営の実際や保育記録の取り方、保育を実践するための専門的技術や知識を習得する。
事後指導では、実習のねらいや自己の実習目標に照らし、教育実習Ⅲの経験を振り返り、自己評価を行い、今後の課題を検討する。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

授業毎に指定する実習準備のための課題や書類の作成に取り組み、次回授業で予定されている内容を指定テキストや授業内で配布するプリントを確認しておくこと。2時間程度を想定している。

4. 成績評価の方法及び基準

事前指導・事後指導における課題・レポート・提出物の内容と提出状況及び授業に対する取り組み姿勢（評価の50%）
実習への参加姿勢・実習中の手続き等の遵守・実習園からの評価・実習日誌及び指導案の作成状況（評価の50%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト

- 『フォトランゲージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画』 神永直美 萌文書林
・授業内で配布する資料
・「洗足こども短期大学 平成30年度実習の手引き」

参考文献

- 『幼稚園教育要領解説』 文部科学省 フレーベル館
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

- ◆ 教育実習指導Ⅱの単位を取得していること
- ◆ ピアノⅡを履修すること
- ◆ 教育実習Ⅲの参加条件については「平成30年度 実習の手引き」に基づく
- ◆ 弾き歌い検定（レベル1以上）に合格、ピアノ特別検定（4月末まで）に合格することが、実習参加の条件となる
- ◆ 教育実習指導Ⅲの単位取得の条件については「平成30年度 実習の手引き」に基づく

授業計画	
	【前期】
1	教育実習Ⅲの概要と目的 実習のねらいと内容の理解
2	教育実習Ⅱの振り返りと教育実習Ⅲの実習目標の設定 実習園の理解とオリエンテーションの実際
3	オリエンテーション（実習園） 実習の内容と準備の理解
4	実習日誌の書き方① 実習園の概要・保育環境・実習の目標
5	幼稚園における全日責任実習の流れと指導計画
6	実習日誌の書き方② 日々の実習目標の設定・保育観察の記録・事例と考察・日々の振り返りと課題の設定
7	実習直前演習 実習中のマナー・実習中の注意事項と連絡報告方法・健康管理
8	実習直前指導（訪問教員との顔合わせ） 実習目標の確認・巡回訪問指導の実際
9	<教育実習Ⅲ 5月20日（月）～6月1日（土）> 事後指導① 教育実習Ⅲの振り返りと今後の課題
10	事後指導② 教育実習Ⅲの記録の振り返りと学びの整理
11	事後面談（訪問教員との実習経験の振り返り）
12	幼稚園における実習からの学びの整理
13	総合的な実習からの振り返り・就職に向けての課題
14	
15	

科目名	保育所実習Ⅰ			授業コード	YJ5061**	科目コード	YJ5061
担当教員	井上 真理子・山本 有紀・向笠 京子・長島 万里子・高橋 優子・伊藤 路香						
授業形態	実習	配当学年	1	期間			
単位数	2	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	－	保育士資格	必修

1. 主題・到達目標

【主題】乳幼児や保育環境等に対して適切な観察を行うとともに、保育所保育における補助的な役割を担うことを通して、実習園の乳幼児の実態とこれを踏まえた保育の特色を理解する。

【到達目標】

1. 乳幼児との関わりを通して、その実態や発達課題を把握することができる。
2. 乳幼児の実態や保育士の援助や配慮を観察し、事実に即して記録することができる。
3. 実習園の保育理念や方針を理解し、特色ある保育活動を理解することができる。
4. 保育士等の補助的な役割を担い、保育士の役割を理解することができる。

2. 授業概要

保育所実習Ⅰでは、保育所において保育に参画し、乳幼児の生活や遊びの様子を観察し、生活の流れや発達の実態を理解する。実習園の保育課程や指導計画、に触れ、計画に基づく保育内容と実践の関係性を把握し、部分指導実習など一部の生活を計画し、実践する経験をする。保育の観察と記録を通して、計画と実践の理解を深め、保育過程を体験的に学ぶ。保育士の姿を通し、専門職としての保育士の業務内容及び職業倫理について学ぶ。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

【予習】実習全体の目標に沿って、一日の目標をたて、実習内容を確認する。また、内容によって必要な知識・技法・準備物を確認、準備する。想定必要時間は各回1時間程度である。

【復習】一日の実習記録を書き、事例検討を含めて実習内容を振り返り、一日の目標の到達度を確認する。想定必要時間は1日につき2時間程度である。

4. 成績評価の方法及び基準

実習園からの評価（評価の50%）

実習中の手続き等の遵守・実習日誌及び部分実習指導案の作成状況（評価の50%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト

『フォトランゲージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画』 神永直美 萌文書林

・授業内で配布する資料

・「洗足こども短期大学 2019年度実習の手引き」

参考文献

『保育所保育指針解説書』＜最新版＞ 厚生労働省 フレーベル館

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』＜最新版＞ 内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

- ◆ 基礎実習指導の単位を取得していること
- ◆ 保育実習指導Ⅰ（保育所）を履修すること
- ◆ 保育士資格取得に必要な科目を履修すること
- ◆ 保育所実習Ⅰの参加条件は、「2019年度実習の手引」に基づく
- ◆ 実習参加までに、＜弾き歌い検定＞の「レベル1」（2曲）の弾き歌いができるようにしておく
- ◆ 保育所実習Ⅰの単位取得の条件は、「2019年度実習の手引き」に基づく

授業計画

1	保育所実習Ⅰ 2月6日（水）～2月20日（水）
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	保育実習指導Ⅰ（保育所）			授業コード	YE5068**	科目コード	YE5068
担当教員	井上 真理子・山本 有紀・向笠 京子・長島 万里子・高橋 優子・伊藤 路香						
授業形態	演習		配当学年	1		期間	
単位数	1	科目分類	専門選択		幼稚園教諭	-	保育士資格 必修

1. 主題・到達目標

【主題】事前指導では、実習生として保育所における保育活動に参画する意欲を高める。また、保育所実習Ⅰの実習目標や内容を理解し、自己課題を明確にする。事後指導では、保育所実習Ⅰで得られた成果と課題を振り返り、次の実習までに習得すべき知識や技能について理解する。

【到達目標】

1. 保育所実習Ⅰの目的と概要を理解できる。2. 保育所実習Ⅰの内容を踏まえ、実習での自己の課題を明確化できる。3. 実習生としての心構えや子どもの人権やプライバシー保護の留意事項を理解できる。4. 実習での観察や経験の記録方法を理解できる。5. 部分的な保育活動の計画を立てることができる。6. 部分実習を実践するための教材研究や保育技術への関心を持ち、準備する。7. 実習経験を振り返り、次の実習までに習得すべき知識や技能を理解できる。

2. 授業概要

事前指導では、学内での講義・演習や実習園でのオリエンテーションを通して、実習の意義・目的・内容・方法を理解し、保育士にふさわしい態度や心構え、観察や記録の取り方を学び、保育所実習Ⅰを円滑に進めて行くための知識・技術を習得する。

実習中の巡回訪問指導では、実習園の実習指導担当者との連携のもとに、実習中の課題を整理する。

事後指導では、実習のねらいや自己の実習目標に照らし、保育所実習Ⅰの経験を振り返り、自己評価を行い、今後の課題を検討する。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

授業毎に指定する実習準備のための課題や書類の作成に取り組み、次回授業で予定されている内容を指定テキストや授業内で配布するプリントを確認しておくこと。2時間程度を想定している。

4. 成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の50%）

課題や実習に必要な書類の内容及び事後指導における自己評価（評価の50%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト

『フォトランゲージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画』 神永直美 萌文書林

・授業内で配布する資料

・「洗足こども短期大学 2019年度実習の手引き」

参考文献

『保育所保育指針解説書』＜最新版＞ 厚生労働省 フレーベル館

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』＜最新版＞ 内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

- ◆ 基礎実習指導の単位を取得していること
- ◆ 保育士資格取得に必要な科目を履修すること
- ◆ 保育所実習Ⅰの参加条件は、「2019年度実習の手引き」に基づく
- ◆ 保育所実習指導Ⅰの単位取得の条件は、「2019年度実習の手引き」に基づく

授業計画	
1	保育所実習Ⅰの概要と目的 実習のねらいと内容の理解
2	保育所保育の基本 保育所における実習の実際・乳児保育と保育士
3	保育所実習Ⅰの実習目標の設定 実習における自己課題の立て方
4	実習日誌の書き方① 実習園の概要・園環境・実習の目標
5	教材研究の基礎 乳幼児の発達に応じた教材準備
6	オリエンテーションの実際 オリエンテーションの意義と方法の理解
7	オリエンテーション（実習園） 実習の内容と準備の理解
8	実習日誌の書き方② 日々の記録の取り方・事例と考察・振り返りと課題の設定
9	乳幼児の健康と疾病予防 子どもの健康と細菌検査の理解
10	実習直前演習① 実習中のマナー・実習中の注意事項と連絡報告方法
11	実習直前指導（訪問教員との顔合わせ） 実習目標の確認・巡回訪問指導の実際
12	実習直前演習② 保育所における部分実習
13	<保育所実習Ⅰ 2月5日（木）～2月19日（木）> 事後指導① 保育所実習Ⅰの振り返りと自己評価
14	事後面談（訪問教員との振り返り）
15	事後指導②：保育記録の振り返り

科目名	保育所実習Ⅱ			授業コード	YJ5062	科目コード	YJ5062
担当教員	井上 眞理子・柳井 郁子・石濱 加奈子・高橋 優子・上田 よう子・菊地 奈津美						
授業形態	実習	配当学年	2	期間			
単位数	2	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	－	保育士資格	必修

1. 主題・到達目標

【主題】乳幼児との関わりを通して実習園の保育活動の実態を理解し、短期大学で学んだ領域や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を保育で実践するための基礎を身につける。

【到達目標】

1. 乳幼児理解に基づき、様々な活動場面で適切に乳幼児に関わることができる。
2. 保育士等の補助的な役割を担うことを通し、子どもの最善の利益に配慮した保育士の役割と責務を理解できる。
3. 実習園での保育の実態を事実即して記録することができる。
4. 実習園の全体的な計画等の保育計画を踏まえ、子どもの実態に即した指導計画を立案することができる。
5. 指導計画に基づく実践を通して必要な保育技術を身につける。
6. 保護者支援や地域との連携の実際に触れ、保育所の機能を理解できる。

2. 授業概要

保育所実習Ⅱでは、保育所実習Ⅰでの学びを踏まえ、保育所において保育に参画し、保育の計画から実践、評価改善までを実際に取り組み、保育の過程について理解を深めることができるよう、部分指導実習、責任実習を含む総合的な実習を行う。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

【予習】実習全体の目標に沿って、一日の目標をたて、実習内容を確認する。また、内容によって必要な知識・技法・準備物を確認、準備する。想定必要時間は各回1時間程度である。

【復習】一日の実習記録を書き、事例検討を含めて実習内容を振り返り、一日の目標の到達度を確認する。想定必要時間は1日につき2時間程度である。

4. 成績評価の方法及び基準

実習園からの評価（評価の50%）

実習中の手続き等の遵守・実習日誌及び指導案の作成状況（評価の50%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト

- ・授業内で配布する資料
- ・「洗足こども短期大学 平成30年度実習の手引き」

参考文献

- 『保育所保育指針解説書』 厚生労働省 フレーベル館
- 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

- ◆ 保育所実習Ⅰ（保育所）及び保育実習指導Ⅰの単位を取得していること
- ◆ 保育実習指導Ⅱ（保育所）を履修すること
- ◆ 保育士資格取得に必要な科目を履修すること
- ◆ 保育所実習Ⅱの参加条件は、「平成30年度実習の手引」に基づく
- ◆ 弾き歌い検定（レベル1以上）に合格、ピアノ特別検定（4月末まで）に合格することが、実習参加の条件となる
- ◆ 保育所実習Ⅱの単位取得の条件は、「平成30年実習の手引き」に基づく

授業計画

1	保育所実習Ⅱ 9月5日（水）～9月19日（水）
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	保育実習指導Ⅱ（保育所）			授業コード	YE5069**	科目コード	YE5069
担当教員	井上 真理子・柳井 郁子・石濱 加奈子・高橋 優子・上田 よう子・菊地 奈津美						
授業形態	演習	配当学年	2	期間			
単位数	1	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	-	保育士資格	必修

1. 主題・到達目標

【主題】事前指導では、実習生として保育所における保育活動に参画する意欲を高める。また、保育所実習Ⅱの実習目標や内容を理解し、自己課題を明確にする。事後指導では、保育所実習Ⅱで得られた成果と課題を振り返り、保育士資格取得までに習得すべき知識や技能について理解する。

【到達目標】

1. 保育所実習Ⅱの目的と概要を理解できる。2. 保育所実習Ⅱの内容を踏まえ、実習での自己の課題を明確化できる。3. 実習生としての心構えや子どもの人権やプライバシー保護の留意事項を理解できる。4. 実習園での保育の実態を適切に記録する方法を理解できる。5. 保育所保育指針や実習園の全体的な計画等を踏まえた指導案の作成方法を理解できる。6. 責任実習を実践するための教材研究や保育技術への関心を持ち、準備する。7. 実習経験を振り返り、保育士資格取得までに習得すべき知識や技能を理解できる。

2. 授業概要

事前指導では、学内での講義・演習や実習園でのオリエンテーションを通して、実習の意義・目的・内容・方法を理解し、保育士にふさわしい態度や心構え、記録の取り方や指導計画の立て方を学び、保育所実習Ⅱを円滑に進めていくための知識・技術を習得する。

実習中の巡回訪問指導では、実習園の実習指導担当者との連携のもとに、実習中の課題を整理する。

事後指導では、実習のねらいや自己の実習目標に照らし、保育所実習Ⅱの経験を振り返り、自己評価を行い、今後の課題を検討する。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

授業毎に指定する実習準備のための課題や書類の作成に取り組み、次回授業で予定されている内容を指定テキストや授業内で配布するプリントを確認しておくこと。2時間程度を想定している。

4. 成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の50%）

課題や実習に必要な書類の内容及び事後指導における自己評価（評価の50%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト

・『フォトランゲージで学ぶ子どもの育ちと実習日誌・指導計画』 神永直美 萌文書林

・授業内で配布する資料

・「洗足こども短期大学 平成30年度実習の手引き」

参考文献

『保育所保育指針解説書』 厚生労働省 フレーベル館

『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

- ◆ 保育所実習Ⅰ（保育所）及び保育実習指導Ⅰの単位を取得していること
- ◆ ピアノⅡを履修すること
- ◆ 保育士資格取得に必要な科目を履修すること
- ◆ 保育所実習Ⅱの参加条件は、「平成30年度 実習の手引き」に基づく
- ◆ 保育所実習指導Ⅱの単位取得の条件は、「平成30年度 実習の手引き」に基づく

授業計画	
1	保育所実習Ⅱの概要と目的 実習のねらいと内容の理解
2	保育所実習Ⅰの課題の振り返りと保育所実習Ⅱの実習目標の設定 実習園の保育理念・方針の理解
3	実習日誌の書き方① 実習園の概要・保育環境・実習の目標
4	保育所における責任実習の流れと指導計画
5	オリエンテーション 実習園において実習内容や実習までの準備について理解する
6	実習日誌の書き方② 日々の実習目標の設定・保育観察の記録・事例と考察・日々の振り返りと課題の設定
7	実習直前演習① 保育所における教材研究と計画の実際
8	実習直前演習② 保育所における健康管理と細菌検査
9	実習直前演習③ 実習中のマナー・実習中の注意事項と連絡報告方法
10	実習直前指導（訪問教員との顔合わせ） 実習目標の確認・巡回訪問指導の実際
11	<保育所実習Ⅱ 9月5日（木）～9月19日（木）> 事後指導① 保育所実習Ⅱの振り返りと自己評価
12	事後指導② 実習経験から学びを整理する
13	事後面談及び評価伝達（訪問教員との振り返り）
14	事後指導③ 専門職に求められる課題を実習体験から振り返る
15	事後指導④ 保育所実習Ⅱの記録の振り返りと学びの整理

科目名	児童福祉施設実習Ⅰ		授業コード	YJ5071**	科目コード	YJ5071
担当教員	井上 真理子・下尾 直子・飯塚 美穂子・板倉 香子					
授業形態	実習	配当学年	2	期間		
単位数	2	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	－	保育士資格 必修

1. 主題・到達目標

【主題】児童・利用者が一定期間居住する入所型、あるいは通所型の児童福祉施設および障がい者施設にて実習を実施し、実習先施設の機能、施設保育士の役割について理解を深め、児童・利用者への援助について実践を通して学ぶ。

【到達目標】

1. 観察や児童・利用者とのかかわりを通して、児童・利用者の実態やニーズを理解できる。
2. 児童福祉施設等の生活に参画し、職員の役割や施設の機能を理解できる。
3. 実習施設での支援の実態を事実として記録することができる。
4. 施設職員の補助的な役割を担うことを通して、施設保育士の業務内容や職業倫理を理解できる。

2. 授業概要

児童福祉施設等における原則11日間以上の実習。

【主な実習先施設】児童養護施設・乳児院・母子生活支援施設・障害者支援施設・障害福祉サービス事業所（生活介護・就労継続支援・就労移行支援）・福祉型障害児入所施設・医療型障害児入所施設・福祉型児童発達支援センター・医療型児童発達支援センター・独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

【予習】実習全体の目標に沿って、一日の目標をたて、実習内容を確認する。また、内容によって必要な知識・技法・準備物を確認、準備する。想定必要時間は各回1時間程度である。

【復習】一日の実習記録を書き、事例検討を含めて実習内容を振り返り、一日の目標の到達度を確認する。想定必要時間は各回1時間程度である。

4. 成績評価の方法及び基準

実習施設からの評価（評価の50%）

実習日誌（評価の50%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

『事例を通して学びを深める 施設実習ガイド』 田中利則監修 加藤洋子・一瀬早百合・飯塚美穂子編著（ミネルヴァ書房）

授業内にプリントを配布する。

参考文献については随時紹介する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

<履修の条件>

保育実習指導Ⅰ（施設）を履修していること

<履修者への要望>

①様々な背景を持つ児童・利用者たちの「生活の場」の実習であることをよく理解し、保育士資格取得へ向けての十分な心構えと意欲をもって取り組むこと。

②心身ともに健康で、謙虚な態度で実習に臨むこと。

③実習生としてのマナーを守れること。

授業計画

1	2年次「児童福祉施設実習Ⅰ」を実施する。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	保育実習指導Ⅰ（施設）		授業コード	YE507300	科目コード	YE5073
担当教員	井上 眞理子・下尾 直子・飯塚 美穂子・板倉 香子					
授業形態	演習	配当学年	2	期間		
単位数	1	科目分類	専門選択	幼稚園教諭	-	保育士資格 必修

1. 主題・到達目標

【主題】事前指導では、実習生として児童・利用者が一定期間居住する入所型、あるいは通所型の児童福祉施設および障害者施設にて実習を実施するために必要な知識の習得をめざすとともに、施設における生活や活動に参画する意欲を高める。事後指導では、実習で得られた成果と課題を振り返り、保育士資格取得までに習得すべき知識や技能について理解する。

【到達目標】

1. 児童福祉施設実習の目的と意義を理解できる。
2. 児童福祉施設実習の内容を踏まえ、実習での自己の課題を明確化できる。
3. 実習施設における児童・利用者の人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解できる。
4. 実習施設における支援の実際を適切に記録する方法を理解できる。
5. 実習経験を振り返り、保育士資格取得までに習得すべき知識や技能を理解できる。

2. 授業概要

原則11日間以上の実習（施設）の実施に合わせた事前準備を行うとともに、実習課題の整理を行う。実習の事後指導を実施し、実習の総括と自己課題の確認、施設における保育士の役割・機能について事例を通して振り返る。施設長等外部講師による講演を聴講し、現場の具体的な事例を知る機会を設け、施設における保育士の役割について考察を深める。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

【予習】児童福祉施設または障害者施設の機能・役割、施設で働く保育士の児童・利用者への支援のありかたについて、「社会福祉」「児童家庭福祉」「社会的養護」「障害児保育」で学んだことと関連付けながら整理する。想定必要時間は各回1時間程度である。

【復習】返却されたリアクションペーパーは見直し、必要な加筆・修正を行う。また、教科書の記述を参照しながら授業の内容を振り返る。想定必要時間は各回1時間程度である。

4. 成績評価の方法及び基準

実習指導の授業への参加姿勢（評価の50%）

実習指導に関する提出物（評価の50%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

「事例を通して学びを深める 施設実習ガイド」 田中利則監修 加藤洋子・一瀬早百合・飯塚美穂子編著（ミネルヴァ書房）

「洗足こども短期大学 平成30年度実習の手引き」

その他、授業内で実習冊子、その他プリントを配布する。

参考文献については随時紹介する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

<履修の条件>

保育実習指導Ⅰ（保育所）および保育所実習Ⅰの単位を取得していること。

<クラス分けの方法>

3回～7回の授業は、実習先施設種別・実習時期によるクラス別に指導を行う

<履修者への要望>

①実習先の施設に関する情報・資料を集め、実習に行く前に事前学習を十分にすること。

②実習後も学びの振り返りを十分にすること。

授業計画	
	【通年】
1	施設実習の概要、ねらいと内容
2	施設の役割と機能の実際
3	施設の概要の理解と実習目標の設定
4	児童・利用者の生活と援助の理解①児童・利用者と専門職の理解
5	児童・利用者の生活と援助の理解②事例検討
6	オリエンテーション 実習園において実習内容や実習までの準備について理解する
7	実習に向けての事前準備、心構え、諸手続き
8	支援計画と観察・記録及び省察と評価
9	施設実習の振り返りと自己評価
10	事後指導における実習の総括と課題の明確化
11	
12	
13	
14	
15	

科目名	情報機器の操作	授業コード	YE0386**	科目コード	YE0386
担当教員	相馬 健太・林 洋子				
授業形態	演習	配当学年	1	期間	半 期
単位数	2	科目分類	教養必修	幼稚園教諭	必修
				保育士資格	選択

1. 主題・到達目標

在学中に利用できる学内IT環境を理解し、Windows の基本操作や代表的なアプリケーション・ソフトウェアが利用できるようにする。情報倫理・モラルの基本を理解し、Web検索とビジネスメールの基本マナーを習得して、幼稚園・保育園で必要な文書等を作成できるようにする。

- ① Windows の基本操作を習得する
- ② Web検索とビジネスメール利用時の注意点を習得する
- ③ Microsoft Word/Excelを使用し社会人として必要な文書作成ができる
- ④ タッチタイピングの基本を習得する
- ⑤ 情報倫理・モラルの基本を理解する
- ⑥ Microsoft PowerPointでアニメーションを含むファイルを作成ができる

2. 授業概要

情報機器の操作をWindows のパソコンを利用して毎回実践する。

- ・ Windows の基本操作
- ・ Microsoft Word、Excel、PowerPoint の文書作成・編集
- ・ 保育者に必要な情報倫理、モラルの理解
- ・ タッチタイピングの練習

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

授業内容を復習し、授業で行った操作を自分自身で行えるようにすること。

課題については、授業時間外での対応が必要である。

TypeQuickは、14回目までに Lesson 6 Part C まで終了すること。

4. 成績評価の方法及び基準

TypeQuickの進捗と正解率（評価の10%）

授業への参加姿勢（評価の30%）

授業で作成するファイルの完成度（評価の30%）

課題の完成度（評価の30%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

必要に応じてプリントを配布する。

オフィスソフトの操作に苦手意識を持っている学生や自習により更に理解度を深めたい学生など、自身で必要だと思う場合は下記の参考文献を購入すると良い。

『保育者のためのパソコン講座 Windows10/8.1/7 Office2010/2013/2016対応版』

阿部正平・阿部和子・二宮祐子著（萌文書林）

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

SENZOKUポータル のパスワードを持ってくること。

必ず自分で操作すること。

欠席した授業のプリントは申し出て手に入れること。

欠席により遅れてしまった部分は、次回の授業までに各自で補填しておくこと。

授業計画	
	【前期】
1	ガイダンス 幼稚園・保育所でのメディア活用 SENZOKUメールについて
2	WindowsとMicrosoftOfficeについての導入 情報倫理
3	Microsoft PowerPointの導入
4	Microsoft PowerPointの基本操作① ポスターを作成
5	Microsoft PowerPointの基本操作② ポスターを作成
6	Microsoft Wordの基本操作① 保護者への文書の作成
7	Microsoft Wordの基本操作② 表や画像を組み込んだ文書の作成
8	Microsoft Wordの試験と解説
9	Microsoft Excelの基本操作① スケジュール表の作成
10	Microsoft Excelの基本操作② クラス名簿の作成／関数の利用とデータベース管理
11	Microsoft Excelの基本操作③ グラフの作成
12	Microsoft Excelの試験と解説
13	Microsoft PowerPointの基本操作③ アニメーションを使用したプレゼンテーション資料の作成
14	学期末課題実施
15	学期末課題実施／総括

科目名	英語(外国語コミュニケーション)	授業コード	YE2121**	科目コード	YE2121
担当教員	山口 律子・伊藤 満里				
授業形態	演習	配当学年	1	期間	通 年
単位数	2	科目分類	教養必修	幼稚園教諭	必修
				保育士資格	選択

1. 主題・到達目標

今日、日本では幼児期からの英語教育が盛んになってきている。また幼稚園や保育園には、外国人の子どもも在園しているため、外国人の子どもやその保護者との英語のコミュニケーションが保育者にとって、大切な日常業務の一つになってきている。
本授業では、そうした保育の場で特に必要と思われる内容を中心に「使える英語」を実践的に学び、英語が使える保育者育成を目指す。

2. 授業概要

保育者に必要な英語表現を身に付けるため、テキストに基づいたことばの4技能（読む、書く、聞く、話す）をトレーニングする。また保育者にふさわしい教養とスキルを身に付けるため、適宜保育に関連した課題に取り組む。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

【予習】単語、熟語は、予め辞書で意味とその具体的な用法について調べ、テキストの内容に関しても不明な点を明らかにしたうえで授業に臨むこと。

【復習】適宜授業内で実施される小テスト等に備え、テキストの復習をしっかりと行うこと。

（予習、復習のために、それぞれ1時間程度の授業時間外学習を行うこと。）

4. 成績評価の方法及び基準

筆記試験・課題等＜小テスト、確認テスト、レポート、課題発表等＞（評価の70%）

授業への参加姿勢（評価の30%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

『保育の英会話』 赤松直子・久富陽子著（萌文書林）

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

- ・辞書または電子辞書を毎回必ず持参すること。
- ・履修者の積極的な授業参加を期待する。

授業計画	
	【前期】
1	○ 一年間の授業の進め方についての説明 Unit 1 : First step to Childcare English ①<保育の英会話への第一歩> “What’s your name?” (お名前を教えてください。) ・保育の英会話を学ぶファーストステップとして、自己紹介や簡単な質問と答えを練習する。 (予習、復習のために、それぞれ1時間程度の授業時間外学習を行うこと。)
2	Unit 1 : First step to Childcare English ② <保育の英会話への第一歩> “Nursery School” (保育園) ・保育園で働く人々の職業名や保育園の様々な場所を示す語句を学ぶ。 (予習、復習のために、それぞれ1時間程度の授業時間外学習を行うこと。)
3	Unit 2 : Welcome to Minato Nursery School ① <みなと保育園にようこそ！> “It’s nice to meet you.” (お会いできて嬉しいです。) ・初対面の人と出会ったときのあいさつを学ぶ。 (予習、復習のために、それぞれ1時間程度の授業時間外学習を行うこと。)
4	Unit 2 : Welcome to Minato Nursery School ② <みなと保育園にようこそ！> “Mari-Sensei’s 5-year-olds’ classroom” (真理先生の担当する5歳児の保育室) ・家庭調査票や保育室の中にある様々な物に関する語句を学ぶ。 (予習、復習のために、それぞれ1時間程度の授業時間外学習を行うこと。)
5	Unit 3 : Time and Numbers ① <時間と数> “Please come to school at 8:00.” (保育園に8時に来て下さい。) ・時間や数を表す表現を学ぶ。 (予習、復習のために、それぞれ1時間程度の授業時間外学習を行うこと。)
6	Unit 3 : Time and Numbers ② <時間と数> “For tomorrow, could you bring a pair of indoor shoes?” (明日上履きを一足持ってきて頂けますか。) ・保育園に入園するときに保護者に用意してもらった所持品に関する語句を学ぶ。 (予習、復習のために、それぞれ1時間程度の授業時間外学習を行うこと。)
7	Unit 4 : Directions ①<地図と道案内> “Places around Minato Nursery School” (みなと保育園の周辺の場所) ・様々な場所の名称や方向を示す語句を学ぶ。 (予習、復習のために、それぞれ1時間程度の授業時間外学習を行うこと。)
8	Unit 4 : Directions ② <地図と道案内> “Is there a shoe store nearby?” (近くに靴屋さんはありますか？) ・前置詞を使って場所や道順を説明する表現を学ぶ。
9	Unit 5 : Davy Meets His classmate Takashi ①<クラスメイトとの出会い> “Let’s play with blocks.” (一緒に積み木で遊ぼう。) ・他者を紹介するときの表現を学ぶ。(予習、復習のために、それぞれ1時間程度の授業時間外学習を行うこと。)
10	Unit 5 : Davy Meets His classmate Takashi ②<クラスメイトとの出会い> “Playground” (園庭) ・子どもの遊びや園庭の遊具を表す語句を学ぶ。 (予習、復習のために、それぞれ1時間程度の授業時間外学習を行うこと。)
11	Unit 6 : Dropping Davy off and Picking him up ①<デイヴィーの登園と降園> “It’s sunny today.” (よいお天気ですね。) ・登園時の先生と保護者の会話から天候を表す表現を学ぶ。(予習、復習のために、それぞれ1時間程度の授業時間外学習を行うこと。)
12	Unit 6 : Dropping Davy off and Picking him up ②<デイヴィーの登園と降園> “How was Davy today?” (デイヴィーの今日の様子はどうか。) ・子どもの感情や状態を表す表現を学ぶ。 (予習、復習のために、それぞれ1時間程度の授業時間外学習を行うこと。)
13	Unit 7 : Jobs at Nursery School ①<保育者の仕事> “Mari-Sensei’s daily schedule” (真理先生の日) ・真理先生の保育者としての仕事を、ある一日を例にとり学ぶ。 (予習、復習のために、それぞれ1時間程度の授業時間外学習を行うこと。)
14	Unit 7 : Jobs at Nursery School ②<保育者の仕事> “What does Yoshio-Sensei do in the toddler’s class?” (よしお先生の乳児クラスの仕事) ・1歳児担当のよしお先生の仕事を例に、年齢による保育者の仕事の違いを比べる。 (予習、復習のために、それぞれ1時間程度の授業時間外学習を行うこと。)
15	前期のまとめ(確認テストおよび解説)

授業計画	
	【後期】
1	Unit 8 : Lunchtime ①<昼食> “Wash your hands, please.” (手を洗いましょう。) ・ 保育園での昼食風景を見る。 (予習、復習のために、それぞれ1時間程度の授業時間外学習を行うこと。)
2	Unit 8 : Lunchtime ② <昼食> “Lunch menu” (昼食の献立) ・ 食品や野菜の名前、分量や好き嫌いを表す表現を学ぶ。 (予習、復習のために、それぞれ1時間程度の授業時間外学習を行うこと。)
3	Unit 9 : Toilet Dialog ① <排泄に関する会話> “Does anyone need to go potty?” (トイレに行きたい人はいませんか。) ・ 子どもが言う排泄に関する表現を学ぶ。 (予習、復習のために、それぞれ1時間程度の授業時間外学習を行うこと。)
4	Unit 9 : Toilet Dialog ②<排泄に関する会話> “The Parent-Teacher communication notebook” (連絡帳) ・ 連絡帳のやりとりを学ぶ。 (予習、復習のために、それぞれ1時間程度の授業時間外学習を行うこと。)
5	Unit 10 : Fighting ①<けんか> “Takashi hit my head.” (たかしがぼくの頭をたたいたよ。) ・ けんかや物の取り合いをしている子どもたちへの保育者の言葉かけの表現を学ぶ。 (予習、復習のために、それぞれ1時間程度の授業時間外学習を行うこと。)
6	Unit 10 : Fighting ②<けんか> “My face and body” (顔と身体) ・ 身体の部位に関する単語や文房具に関する単語を学ぶ。 (予習、復習のために、それぞれ1時間程度の授業時間外学習を行うこと。)
7	Unit 11 : Injuries and Illnesses ①<けがと病気> “What's the matter?” (どうしたの?) ・ デイヴィーが保育園でけがや病気になったことを母親に伝える場面を例に表現を学ぶ。 (予習、復習のために、それぞれ1時間程度の授業時間外学習を行うこと。)
8	Unit 11 : Injuries and Illnesses ②<けがと病気> “Common childhood injuries, illnesses and symptoms” (一般的な子どものけがや病気) ・ けがや病気に関する表現を学ぶ。 (予習、復習のために、それぞれ1時間程度の授業時間外学習を行うこと。)
9	Unit 12 : Telephone Calls ①<電話での対応> “Hello. This is Minato Nursery School.” (もしもし、こちら「みなと保育園」です。) ・ 電話での対応の表現を学ぶ。 (予習、復習のために、それぞれ1時間程度の授業時間外学習を行うこと。)
10	Unit 12 : Telephone Calls ②<電話での対応> “Telephone messages” (電話の伝言) ・ 電話で受けた連絡をメッセージに書いて伝える表現を学ぶ。 (予習、復習のために、それぞれ1時間程度の授業時間外学習を行うこと。)
11	Unit 14 : Baby Care ①<赤ちゃんのケア> “This must be Davy's baby sister.” (この赤ちゃんはデイヴィーの妹ね。) ・ 赤ちゃんへの言葉かけや育児用品の語句を学ぶ。 (予習、復習のために、それぞれ1時間程度の授業時間外学習を行うこと。)
12	Unit 14 : Baby Care ②<赤ちゃんのケア> “What do babies do ? How do children grow?” (赤ちゃんはどのように成長するの?) ・ 赤ちゃんの成長・発達を表す表現を学ぶ。 (予習、復習のために、それぞれ1時間程度の授業時間外学習を行うこと。)
13	Unit 15 : Graduation Day ①<卒園> “Davy, congratulations!” (デイヴィー卒園おめでとう。) ・ 卒園に際しての祝福や感謝の表現を学ぶ。 (予習、復習のために、それぞれ1時間程度の授業時間外学習を行うこと。)
14	Unit 15 : Graduation Day ②<卒園> “National holidays and celebrations” (祝日や記念日) ・ 祝日や記念日、家族関係を表す表現を学ぶ。 (予習、復習のために、それぞれ1時間程度の授業時間外学習を行うこと。)
15	後期のまとめ (確認テストおよび解説)

科目名	健康・スポーツ	授業コード	YJ3123**	科目コード	YJ3123
担当教員	体育実技：吉田 千秋 ジャズダンス：林七重 バレエ：小林洋壺・草間華奈 ストリートダンス：山口裕紀・ERIKA				
授業形態	実技	配当学年	2	期間	通年
単位数	2	科目分類	教養必修	幼稚園教諭	必修
				保育士資格	必修

1. 主題・到達目標

保育者自らが健康とスポーツに興味を持ち、知識と理解を深め、自分自身の体力向上に努める。また保育の現場において、からだを動かす楽しさを子どもたちに伝えることが出来るよう、指導法についても習得することを目標とする。
ダンスにおける肉体の正しい使い方を学び、子どもの口見本として動けるようになる。
バランス感覚とリズム感覚を養い、保育者としての表現力の幅を広げる。

2. 授業概要

<体育実技>・保育者自身が自分の体力を把握するために体力測定をし、自分に何が不足しているかを理解し体力向上を目指す。・保育現場で運動遊びを指導するために、自らルールを理解し実践してみる。・球技運動を通して、能力のスキルアップや仲間とのコミュニケーションをはかる。
<ダンス>身体を動かして表現することの充実感を味わい、ダンスを通じ豊かな人間関係を構築する。リズム運動の基礎となる基本のステップ、リズムを学び、幼児の指導に必要な身体表現方法を学ぶ。●ボディーワークを基礎としたエクササイズ、ストレッチ。ステップ、コンビネーション、●身体の部位を意識したアイソレーションにてダンスの基礎となる身体の使い方●身体知覚、空間の知覚、時間の知覚。●音楽に合わせて振付を表現しムーブメントを学ぶ●コミュニケーションと心の考え方。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

日常生活において、習慣的に階段を用いたり長い距離を歩く、ストレッチを行なう等、身体をこまめに動かすことが望ましい。規則正しい生活習慣を身につけ、日頃から健康管理に留意すること。

4. 成績評価の方法及び基準

<体育実技>授業への参加姿勢（評価の40%）、実技試験<授業内試験>（評価の60%）
<ダンス>授業への参加姿勢等の平常点（評価の100%）、基礎リズム理解度、表現力、授業態度等を総合的に評価する。

第1回目の授業時に説明するルールを厳守して受講すること。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

適時資料を配付する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

半期（前期・後期のいずれでも）授業時数の3分の2以上出席しなければ、単位が認定されない。
但し、半期（前期・後期のいずれでも）4回以上欠席した場合は補講を受けなければならない。

<ダンス>動きやすい服装で、室内履きのシューズを着用すること。
（ジャズダンスシューズやバレエシューズを用意するのが望ましい。）
汗をかくのでタオル、水分補給が出来る様に飲物を持参。授業開始時刻には着替えを済ませて入室する様に。

授業計画	
	【前期】＜体育実技＞A・C・E・G組 ＜ダンス＞B・D・F・H組
1	＜体育実技＞オリエンテーション：授業を受けるにあたっての注意事項ならびに授業内容の説明（要更衣） ＜ジャズダンス＞骨格のアライメントの理解に基づく動き方を学ぶ。
2	＜体育実技＞集団行動・体力測定① ＜ジャズダンス＞コントラクション、リリース、スパイラルの動き。
3	＜体育実技＞集団行動・体力測定② ＜ジャズダンス＞身体各部位の重さ、床との接触面への意識を高める。
4	＜体育実技＞運動あそびの実践①（様々なボールを使った基本遊び） ＜ジャズダンス＞ダンスのムーブメント、ステップを習得し振付を覚える。
5	＜体育実技＞運動あそびの実践②（アルティメットゲーム①スローイン、キャッチの基本技術の習得およびルールの理解） ＜ジャズダンス＞ジャズダンス発表、まとめ
6	＜体育実技＞運動あそびの実践③（アルティメットゲーム②ゲームおよびスキルテスト） ＜バレエ＞ストレッチ、筋力トレーニング
7	＜体育実技＞球技運動①（バレーボール①パス、サーブ、トス、スパイクの基本技術の習得およびルールの理解） ＜バレエ＞ストレッチ、バーレッスン
8	＜体育実技＞球技運動②（バレーボール②ゲームおよびスキルテスト） ＜バレエ＞ストレッチ、バーレッスン基礎、フロアーレッスン
9	＜体育実技＞球技運動③（ラグビー①走る、投げる、取るの基本技術の習得およびルールの理解） ＜バレエ＞バーレッスン基礎、センターレッスン
10	＜体育実技＞球技運動④（ラグビー②ゲームおよびスキルテスト） ＜バレエ＞仕上げレッスンおよび発表、まとめ
11	＜体育実技＞球技運動⑤（バスケットボール①パス、ドリブル、ショットの基本技術の習得およびルールの理解） ＜ストリートダンス＞ウォームアップ、ストレッチ、筋トレ
12	＜体育実技＞球技運動⑥（バスケットボール②ゲームおよびスキルテスト） ＜ストリートダンス＞柔軟性とアイソレーションの意識
13	＜体育実技＞球技運動⑦（バドミントン①サーブ、ストロークの基本技術の習得およびルールの理解） ＜ストリートダンス＞基礎ステップ（ハウス）
14	＜体育実技＞球技運動⑧（バドミントン②ダブルスゲームおよびスキルテスト） ＜ストリートダンス＞ステップとコンビネーション
15	＜体育実技＞まとめ ＜ストリートダンス＞ストリートダンス発表、まとめ

授業計画	
	【後期】＜体育実技＞B・D・F・H組 ＜ダンス＞A・C・E・G組
1	＜体育実技＞オリエンテーション：授業を受けるにあたっての注意事項ならびに授業内容の説明（要更衣） ＜ジャズダンス＞骨格のアライメントの理解に基づく動き方を学ぶ。
2	＜体育実技＞集団行動・体力測定① ＜ジャズダンス＞コントラクション、リリース、スパイラルの動き。
3	＜体育実技＞集団行動・体力測定② ＜ジャズダンス＞身体各部位の重さ、床との接触面への意識を高める。
4	＜体育実技＞運動あそびの実践①（様々なボールを使った基本遊び） ＜ジャズダンス＞ダンスのムーブメント、ステップを習得し振付を覚える。
5	＜体育実技＞運動あそびの実践②（アルティメットゲーム①スローイン、キャッチの基本技術の習得およびルールの理解） ＜ジャズダンス＞ジャズダンス発表、まとめ
6	＜体育実技＞運動あそびの実践③（アルティメットゲーム②ゲームおよびスキルテスト） ＜バレエ＞ストレッチ、筋力トレーニング
7	＜体育実技＞球技運動①（バレーボール①パス、サーブ、トス、スパイクの基本技術の習得およびルールの理解） ＜バレエ＞ストレッチ、バーレッスン
8	＜体育実技＞球技運動②（バレーボール②ゲームおよびスキルテスト） ＜バレエ＞ストレッチ、バーレッスン基礎、フロアーレッスン
9	＜体育実技＞球技運動③（ラグビー①走る、投げる、取るの基本技術の習得およびルールの理解） ＜バレエ＞バーレッスン基礎、センターレッスン
10	＜体育実技＞球技運動④（ラグビー②ゲームおよびスキルテスト） ＜バレエ＞仕上げレッスンおよび発表、まとめ
11	＜体育実技＞球技運動⑤（バスケットボール①パス、ドリブル、シュートの基本技術の習得およびルールの理解） ＜ストリートダンス＞ウォームアップ、ストレッチ、筋トレ
12	＜体育実技＞球技運動⑥（バスケットボール②ゲームおよびスキルテスト） ＜ストリートダンス＞柔軟性とアイソレーションの意識
13	＜体育実技＞球技運動⑦（バドミントン①サーブ、ストロークの基本技術の習得およびルールの理解） ＜ストリートダンス＞基礎ステップ（ハウス）
14	＜体育実技＞球技運動⑧（バドミントン②ダブルスゲームおよびスキルテスト） ＜ストリートダンス＞ステップとコンビネーション
15	＜体育実技＞まとめ ＜ストリートダンス＞ストリートダンス発表、まとめ

科目名	保健体育	授業コード	YK3125**	科目コード	YK3125
担当教員	堀 純子・石濱 加奈子・福田 佳奈子・青木 楓				
授業形態	講義	配当学年	2	期間	半 期
単位数	2	科目分類	教養必修	幼稚園教諭	必 修
				保育士資格	必 修

1. 主題・到達目標

主題：現代の豊かな日本社会において若い時には健康の重要性に気づきにくい。社会人になるにあたり、今後の人生の目的を果たす手段として健康について改めて振り返り、自らの健康を維持増進する必要性を認識する。

到達目標：授業で学んだ知識を生かして日常生活で実践できるようになる。

- ・自分の心身の現状について健康の観点から客観的に評価できる。
- ・現状の問題と改善点を把握し、自分の日常で実践する方法を見つけて実践できる。
- ・今後の人生において年齢と共に心身が変化することを知り、現状からできる備えや注意点がわかる。
- ・妊娠や出産についての心身の状態を知り、現状からできる備えや注意点がわかる。

2. 授業概要

予防医学の観点から病気になる生活習慣を築くために必要な知識を得る。現在の自分自身の心身の状態や生活習慣を確認するために調査や計測などを行い、その結果から問題点を見つけ改善策を考えて日常生活で実践する。また妊娠や出産に関する内容について具体的に学び、今後の自らの人生に役立てるとともに保育者として活用できるようにする。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

- ・授業内容について、毎回、テキスト該当箇所をよく読んで復習し、宿題・課題は期日までに必ず取り組む（必要想定時間は復習30分、宿題・課題60分程度）。
- ・配布プリントについては、空欄のないように各自で完成させる（提出あり）。
- ・日常生活のなかでの調査や課題に取り組む（提出あり）。
- ・授業で学んだ知識を日常生活で実践して望ましい生活習慣を身につけ、心身の健康を得る。

4. 成績評価の方法及び基準

授業内レポートおよび課題による内容の理解度（評価の50%）

平常点（評価の25%）

授業への参加姿勢（評価の25%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

テキスト：『母子手帳から始める若い女性の健康学』 井上栄 著（大修館書店）

参考文献：

- 『病気になるらない本-予防医学へのいざない-』 江藤敏治 著（大学教育出版）
- 『健康寿命を延ばす運動の科学-筋肉をきたえて健やかに生きる』 宮下充正 著（明和出版）
- 『健康・医療の情報を読み解く 健康情報学への招待』 中山健夫 著（丸善出版）
- 『症状別みんなのストレッチ』 宮地元彦 著（小学館）
- 『サルコペニア肥満解消ダイエット』 久野譜也 著（朝日新聞出版） 他、授業時にも紹介する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

- ・テキストと前回までの配布プリントを毎回持参する。
- ・配布プリントと課題は各自で管理し、期限厳守で提出する。
- ・調査や計測は正確に行う（なるべく婦人体温計を準備）。
- ・動きやすい服装（靴）とする。
- ・グループワークに積極的に参加する。

授業計画	
	【後期】
1	ガイダンス・ヒトについて (これまでの保健体育で学んだ内容を振り返り、ヒトと健康について確認する) * 基礎体温 (課題) の説明
2	予防医学と健康 * 計測 (健康に影響を及ぼす要因を知り、自分のヘルスプロモーションを考える)
3	生活習慣病と肥満 (貧血などの症状の原因と対処法、主な生活習慣病と肥満のリスクを知る)
4	健康と運動 (運動不足病やロコモティブシンドロームとは何か、運動の必要性を知り、自分の現状と課題を考える)
5	運動の実践とその方法・効果 (効果や注意点を踏まえた上で、個々の生活や志向に合った効果的な運動を考えよう)
6	栄養と食生活 (健康や運動に必要な栄養について理解し、自分の食生活の現状と課題を確認し、改善点を考える)
7	休養と心の健康 (休養の重要性を学んだ上で自分の睡眠の改善点をや積極的休養について考え、心の健康とストレスマネジメントを学ぶ)
8	グループワーク (グループごとに煙草・飲酒・薬物他からテーマを決めて後半の授業内での発表準備を行う)
9	男女の違い・特徴と女性特有の病気・症状 (生物学的・社会的な男女の違いや特徴を確認し、子宮頸癌と乳癌を中心に女性特有の病気について予防と検診の重要性を理解する) * 乳癌自己検診を実践
10	性感染症の予防 (STDの種類と予防法、注意点を知る)
11	妊娠 (妊娠週数・妊娠月について知り、妊娠中の注意事項と妊婦健診について理解する)
12	出産 (様々な出産の実際について知る)
13	避妊と人工妊娠中絶 (排卵と月経について理解し、避妊の方法と人工妊娠中絶について考える)
14	少子化と不妊 * 計測 (妊娠・出産の生物学的な適齢期を理解し、不妊の現状と今後について知る)
15	授業内レポートとまとめ (今後の課題と実践について考える)

科目名	法学（日本国憲法）			授業コード	YK0216**	科目コード	YK0216
担当教員	小堀 裕子・上岡 敦・西山 智之・外塚 果林						
授業形態	講義	配当学年	1	期間	半 期		
単位数	2	科目分類	教養選択	幼稚園教諭	必修	保育士資格	選択

1. 主題・到達目標

- ①将来、社会生活を送る上で知っておくべき法学および日本国憲法に関する基本的なレベルの教養を身につける。
 ②日本国憲法の構造を体系的に把握して、人権の意義や統治機構の役割を理解する。

2. 授業概要

法は普段なかなか目に見えないが、私たちの家族や職場などの日常生活に様々なかわりを持っている。
 身近な具体例や社会問題を通して、社会における法の果たす役割を理解してほしい。
 日本国憲法に関しては、国民主権の原理や統治機構、憲法9条と自衛隊、人権の意義を勉強する。
 また、児童や教育をめぐる法律上・憲法上のテーマにも触れたい。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

教科書やプリントを用いて、予習および復習、ノートの整理をすることが望ましい。

4. 成績評価の方法及び基準

筆記試験による内容の理解度（評価の70%）
 授業への参加姿勢および平常点＜小テストやレポート課題等＞（評価の30%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

『憲法学事始＜第2版＞』 野畑健太郎・東裕 編 （一学舎）

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

すべての講義に出席することを前提とするため、無断欠席をしない。
 講義中の私語や携帯・スマートフォンの操作を禁止する。
 他学生への迷惑となる行為を行った者は、教室から退出してもらう（欠席扱いとする）。

授業計画	
	【前期】
1	ガイダンス（授業の進め方、採点方法などの説明）
2	法学① 社会における法・法と道徳
3	法学② 法の種類と日本の法体系
4	法学③ 法と裁判-日本の裁判制度と民事・刑事
5	国民主権・天皇の地位と権能・平和主義
6	人権の歴史と意義-人権総論（人権の種類、主体、限界）
7	基本的人権① 幸福追求権・法の下での平等
8	基本的人権② 精神的自由
9	基本的人権③ 経済的自由
10	基本的人権④ 社会権・参政権・人身の自由
11	統治機構① 国会
12	統治機構② 内閣
13	統治機構③ 裁判所
14	財政・地方自治・憲法改正
15	全授業内容のまとめ・解説

2019-04-01版									
科目名	ビジネス講座(秘書検定対策)				授業コード	YK026700		科目コード	YK0267
担当教員	稲又 可奈								
授業形態	講 義			配当学年	2			期間	半 期
単位数	2	科目分類	教養選択		幼稚園教諭	—		保育士資格	—

1. 主題・到達目標

・秘書検定の内容を使い、日常生活や実社会で必要とされるマナーや一般知識を学ぶ。
 ・慶弔、交際業務などの改まった場面で使うマナーだけではなく、話し方や聞き方、電話のかけ方など“実学としてのマナー”も学ぶ。
 ・「分かる」から「出来る」ようになることを最重点の到達目標とする。
 「秘書検定2級」(試験は6月・11月・2月の3回)の受験対策も行います。
 希望者は準1級(筆記試験合格後に面接試験あり)に挑戦することもできます。
 この資格はビジネスマナーを学んだという客観的証明にもなり、就職活動やインターンシップ、実習の現場だけにとどまらず、自信を持って社会に出るための手助けとなります。

2. 授業概要

この講座のベースとなる秘書検定の内容は、ビジネスの場で求められる「あり方」を学ぶことからスタートし、職場における「こんなときどうする」のスタンダードを学ぶことができます。
 また、“秘書を目指す”ことだけにとられず、社会人として必要なマナーを実践的なロールプレイングにより習得していきます。
 実践では出来栄だけでなく、アドバイスを前向きに受け止めて積極的にチャレンジする姿勢を重視します。
 すぐに使える内容が中心で、コミュニケーション能力を高めるのに大変効果的なプログラムです。
 検定対策では試験問題の演習を重点的にを行い、最短距離での合格にアプローチしていきます。
 試験問題に向き合い、取り組むことでさらに深い学習効果を実感できます。

3. 授業時間外の学習(予習復習について)

検定受験者は実問題や授業内で配布する検定対策プリントを繰り返し取り組む必要があります。
 マナーを「出来る」レベルに到達させるには日常の行動マネジメントが重要です。授業での気付きや今後どう活かすかをコメントペーパーで教員とやりとりしながら、意識的にマナーを取り入れた日常生活を目指してもらいます。

4. 成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢・態度(平常点): 評価50%
 コメントペーパー・グループワークへの取り組み: 評価30%
 学期末試験: 評価20%(検定受験者はその結果も考慮する)

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

「ハローキティと秘書検定2・3級テキスト&問題集」(新星出版社)※授業開始日には必ず持参すること
 「秘書検定2級実問題集」「秘書検定準1級実問題集」(早稲田教育出版 2019年度版)※秘書検定受験希望者

6. 履修の条件・クラス分けの方法(履修者への要望等)

自分のマナーや立ち居振る舞いに自信を持ちたい、日常のコミュニケーションに前向きな変化を起こしたい学生を歓迎します。

講座中はビジネスの場面に対応できるレベルでの態度・行動を求めます。
 遅刻や欠席の扱いを含め、具体的注意事項は初回講義のオリエンテーションで説明します。
 履修希望者が多い場合は人数制限をする場合があります。
 初回講義は必ず出席すること。

授業計画	
	【前期】
1	オリエンテーション ・身近なマナー活用術 ・職場におけるあなたのタイプを診断 ・秘書検定問題で現在のレベルをチェック
2	仕事に取り組む基本姿勢や職業人としての自覚・心構えを学ぶ 秘書検定の概要説明 実践すぐに使えるビジネスマナー ・第一印象アップトレーニング
3	求められる人柄と身だしなみ 実践すぐに使えるビジネスマナー ・一歩リードできる自己紹介
4	実践すぐに使えるビジネスマナー ・自己紹介の復習 ・メールの基本を知る ・電話対応①基本
5	実践すぐに使えるビジネスマナー ・ビジネスや目上の人とのメール実践知識 ・電話対応②応用
6	間違いやすい敬語・接遇用語 実践すぐに使えるビジネスマナー ・座り姿勢と立ち姿勢 ・美しいおじぎの仕方
7	来客接遇 受付・席次・湯茶の入れ方・見送りの基本 実践すぐに使えるビジネスマナー ・アイコンタクトの必要性 ・立ち居振る舞い
8	お祝いやお悔みのマナー 実践すぐに使えるビジネスマナー ・好印象のあいさつとは ・状況に応じた対応
9	贈り物のマナー 実践すぐに使えるビジネスマナー ・接遇用語の「とっさのひとこと」
10	総合ロールプレイング① ～あいさつ・立ち居振る舞い～
11	総合ロールプレイング② ～接客・ビジネスの場面を想定する～
12	総合ロールプレイング③ ～状況に応じた対応を身に付ける～
13	総合ロールプレイング④まとめ ～日常生活で活かすために～
14	筆記試験① 総まとめ
15	筆記試験② 今後の展望と総まとめ

科目名	ウィンド・バンド1		授業コード	YE041000	科目コード	YE0410
担当教員	古田 賢司・石井 喜久子					
授業形態	演習	配当学年	1	期間	通 年	
単位数	2	科目分類	教養選択	幼稚園教諭	-	保育士資格 選択

1. 主題・到達目標

ウィンド・バンドとは、管楽器を主体に合奏をする吹奏楽（注）の講座（演習）である。
 楽器を演奏あるいは合奏する事により音楽の楽しさに親しみ、
 また演奏団体としての発表を通じて表現（パフォーマンス）し、楽しさを伝えられる事、また音楽する力の向上と合奏技術の学習を大きな目標とする。
 （注）
 具体的には木管楽器（フルート オーボエ クラリネット サクソフォン ファゴット）
 金管楽器（トランペット ホルン トロンボーン ユーフォニアム テューバ）
 打楽器によって構成される合奏形態である

2. 授業概要

授業の主体は合奏練習になり、音楽をする力の向上と、合奏技術の学習を目標とする。
 主に ①合奏の為の基本練習、②セクション練習、③曲の合奏 を組み合わせて行なう。
 また授業ではあるが合奏の団体として成立する事を目的に、運営にも学生が関わり進める。
 2012年度、2016年度、2018年度にはベルギーの作曲家、ベルト・アッペルモント氏、2015年度、2017年度はヤン・ヴァンデルロースト氏を招いてFUYUONでの演奏会に出演した。
 また2014度は8月にサントリーホールにおける学園90周年記念コンサートに出演。
 本年度は8月にオープンキャンパスの体験授業、12月にヤン・ヴァンデルロースト氏を招いてFUYUONへの出演、1月にはYOUKONへの出演が予定されている。
 年間を通して演奏だけでなく音楽の楽しさを表現し伝える事を目標にして活動する。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

授業内には個人の為の練習時間は基本的に設定していない。
 各自で練習時間を作り技術向上に努め、授業での合奏に臨むこと。

4. 成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の100%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

各演奏会に適した選曲を行い、オリジナル曲やクラシックのアレンジ曲からポップスまで演奏する。
 楽譜に関してはその都度こちらから配布する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

吹奏楽あるいは管楽器の経験者を対象とする。
 また基本的に楽器を各自で用意できる事、ウィンド・バンドのメンバーとして自覚と責任を持ち、授業及び臨時練習、年間を通しての演奏会に参加、出演する事を条件とする。

授業計画

	【前期】
1	ガイダンス
2	基礎合奏①
3	基礎合奏②
4	基礎合奏③
5	オープンキャンパスの練習①
6	オープンキャンパスの練習②
7	1年生だけの合奏①
8	1年生だけの合奏②
9	1年生だけの合奏③
10	オープンキャンパスの練習③
11	オープンキャンパスの練習④
12	オープンキャンパスの練習⑤
13	ワークショップの練習①
14	ワークショップの練習②
15	ワークショップの練習③

授業計画

【後期】

1 FUYUON の練習①

2 FUYUON の練習②

3 FUYUON の練習③

4 FUYUON の練習④

5 FUYUON の練習⑤

6 FUYUON の練習⑥

7 FUYUON の練習⑦

8 FUYUON の練習⑧

9 YOUKON の練習①

10 YOUKON の練習②

11 YOUKON の練習③

12 YOUKON の練習④

13 YOUKON の練習⑤

14 YOUKON の練習⑥

15 YOUKON の練習⑦

科目名	ウィンド・バンド2	授業コード	YE041100	科目コード	YE0411
担当教員	古田 賢司・石井 喜久子				
授業形態	演習	配当学年	2	期間	通 年
単位数	2	科目分類	教養選択	幼稚園教諭	-
				保育士資格	選択

1. 主題・到達目標

ウィンド・バンドとは、管楽器を主体に合奏をする吹奏楽（注）の講座（演習）である。
 楽器を演奏あるいは合奏する事により音楽の楽しさに親しみ、
 また演奏団体としての発表を通じて表現（パフォーマンス）し、楽しさを伝えられる事、また音楽する力の向上と合奏技術の学習を大きな目標とする。
 （注）
 具体的には木管楽器（フルート オーボエ クラリネット サクソフォン ファゴット）
 金管楽器（トランペット ホルン トロンボーン ユーフォニアム テューバ）
 打楽器によって構成される合奏形態である

2. 授業概要

授業の主体は合奏練習になり、音楽をする力の向上と、合奏技術の学習を目標とする。
 主に ①合奏の為の基本練習、②セクション練習、③曲の合奏 を組み合わせて行なう。
 また授業ではあるが合奏の団体として成立する事を目的に、運営にも学生が関わり進める。
 2012年度、2016年度、2018年度にはベルギーの作曲家、ベルト・アッペルモント氏、2015年度、2017年度はヤン・ヴァンデルロースト氏を招いてFUYUONでの演奏会に出演した。また2014度は8月にサントリーホールにおける学園90周年記念コンサートに出演。
 本年度は8月にオープンキャンパスの体験授業、12月にヤン・ヴァンデルロースト氏を招いてFUYUONへの出演、1月にはYOUKONへの出演が予定されている。
 年間を通して演奏だけでなく音楽の楽しさを表現し伝える事を目標にして活動する。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

授業内には個人の為の練習時間は基本的に設定していない。
 各自で練習時間を作り技術向上に努め、授業での合奏に臨むこと。

4. 成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の100%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

各演奏会に適した選曲を行い、オリジナル曲やクラシックのアレンジ曲からポップスまで演奏する。
 楽譜に関してはその都度こちらから配布する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

吹奏楽あるいは管楽器の経験者を対象とする。
 また基本的に楽器を各自で用意できる事、ウィンド・バンドのメンバーとして自覚と責任を持ち、授業及び臨時練習、年間を通しての演奏会に参加、出演する事を条件とする。

授業計画

	【前期】
1	ガイダンス
2	基礎合奏①
3	基礎合奏②
4	基礎合奏③
5	オープンキャンパスの練習①
6	オープンキャンパスの練習②
7	1年生だけの合奏①
8	1年生だけの合奏②
9	1年生だけの合奏③
10	オープンキャンパスの練習③
11	オープンキャンパスの練習④
12	オープンキャンパスの練習⑤
13	ワークショップの練習①
14	ワークショップの練習②
15	ワークショップの練習③

授業計画	
	【後期】
1	FUYUON の練習①
2	FUYUON の練習②
3	FUYUON の練習③
4	FUYUON の練習④
5	FUYUON の練習⑤
6	FUYUON の練習⑥
7	FUYUON の練習⑦
8	FUYUON の練習⑧
9	YOUKON の練習①
10	YOUKON の練習②
11	YOUKON の練習③
12	YOUKON の練習④
13	YOUKON の練習⑤
14	YOUKON の練習⑥
15	YOUKON の練習⑦

科目名	ミュージカル	授業コード	YE041200	科目コード	YE0412
担当教員	篠原 真・黒須 和清・横山 仁一・大倉 マヤ・瀧本 瞳・クリス チャベス・星野 苗緒				
授業形態	演習	配当学年	2	期間	半 期
単位数	2	科目分類	教養選択	幼稚園教諭	-
				保育士資格	選択

1. 主題・到達目標

ミュージカルは演技・ダンス・歌を融合させた総合芸術である。
 一つの作品を作りあげていくというプロセスは、キャスト、アートスタッフはじめ仲間同士の円滑なコミュニケーション能力が不可欠であり、それはまた個々のスキルアップにつながる。
 ミュージカルを通じて創造性・協調性・独自性を持った人材の育成を目標とする。
 なお、公演日は8月18日(日)、会場は前田ホールを予定している。

2. 授業概要

授業計画に沿って、ミュージカル実習を行う。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

キャストは、メロディや歌詞、台詞、ダンス振り付けなどを確認・練習し、次回の授業までに習得しておくこと。
 アートスタッフは、大道具、小道具、衣装などのアイデアを考えておくこと。

4. 成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢（評価の70%）
 平常点（評価の30%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

その都度、配付する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

水曜Ⅰ～Ⅳ限「演技実習（前）」の授業を履修すること。

授業計画	
	【前期】
1	ガイダンス DVD 鑑賞
2	キャスト、アートスタッフ希望者確定。音楽稽古、台本本読み、ダンス振り付け。
3	キャスト希望者/音楽稽古、台本本読み、ダンス振り付け。 アートスタッフ希望者/アートプランについてのガイダンス。
4	キャストオーディションの実施。
5	キャスト・アートスタッフ発表。 キャスト/音楽稽古、台本本読み、ダンス振り付け。 アートスタッフ/アートプランミーティング。
6	キャスト/第1場～3場セリフ稽古、音楽稽古、ダンス振り付け。#1 アートスタッフ/大・小道具、衣装作成作業。#1
7	キャスト/第1場～3場セリフ稽古、音楽稽古、ダンス振り付け。#2 アートスタッフ/大・小道具、衣装作成作業。#2
8	キャスト/第4場～6場セリフ稽古、音楽稽古、ダンス振り付け。#1 アートスタッフ/大・小道具、衣装作成作業。#3
9	キャスト/第4場～6場セリフ稽古、音楽稽古、ダンス振り付け。#2 アートスタッフ/大・小道具、衣装作成作業。#4
10	キャスト/第7場～10場セリフ稽古、音楽稽古、ダンス振り付け。#1 アートスタッフ/大・小道具、衣装作成作業。#5
11	キャスト/第7場～10場セリフ稽古、音楽稽古、ダンス振り付け。#1 アートスタッフ/大・小道具、衣装作成作業。#6
12	キャスト/通し稽古、及びフィードバック。#1 アートスタッフ/衣装完成、及び衣装合わせ。
13	キャスト/通し稽古、及びフィードバック。#2 アートスタッフ/大・小道具作成作業。衣装直し。
14	キャスト/通し稽古、及びフィードバック。#3 アートスタッフ/大・小道具完成。衣装直し。
15	キャスト、アートスタッフ全員でリハーサル、及び最終チェック。

2019-04-01版

科目名	特別研究（ゼミ） 黒須			授業コード	YE0413M1	科目コード	YE0413	
担当教員	黒須 和清							
授業形態	演習		配当学年	2		期間	通年	
単位数	2	科目分類	教養選択		幼稚園教諭	—	保育士資格	—

1. 主題・到達目標

一年時に習った造形表現1の「おもちゃ作り」「簡単工作による演じ物作り」のノウハウを踏まえ、それを継続演習していく事で現場で自在に造形表現を展開していける応用力を身に付けることができる。実際に現場で使える完成度にするため数回にわたる製作も可とし、少人数ならではの個別対応で一人一人の造形力表現力を高めていく。

2. 授業概要

1年次に学んだ手作りおもちゃのレベルアップ、応用展開したおもちゃ、また身の回りの物を使って作る演じ物も季節に合わせていくつも提案。レパートリーを増やしていく。完成を急かさず時間をかけていい物を作り上げる事で造形を楽しむ気持ちを育て、現場での造形活動への自信に繋げていく。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

演し物などはゼミ中だけでなく、その後何度も自主トレすることが自分の得意ネタとして身につけ将来に活用できる。

4. 成績評価の方法及び基準

製作物の出来不出来ではなく、製作体験を積むことと造形を楽しむ気持ちを育てることが何より重要。出席率を成績評価の第一基準とする。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

特になし

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

工作道具は一年時に指定した物を毎回持参することが望ましい。

授業計画

	【前期】 学生たちの要望に対応しながらプログラムを決め、また新しく考えた工作や演目も随時入れていく。
1	ぎざぎざつの宇宙人（ひもと針金で作る演目）
2	はじめまして（紙皿で作る自己紹介用の演目）①
3	はじめまして（紙皿で作る自己紹介用の演目）②
4	万華鏡（ポリ製品だけで作る伝承おもちゃ）
5	花玉（ペーパークラフトの季節のくす玉）①
6	花玉（ペーパークラフトの季節のくす玉）②
7	花玉（ペーパークラフトの季節のくす玉）③
8	魔法のステッキ（アルミホイルやセロハンテープで飾るステージ用）①
9	魔法のステッキ（アルミホイルやセロハンテープで飾るステージ用）②
10	魔法のステッキ（アルミホイルやセロハンテープで飾るステージ用）③
11	まおちゃん（磁石を使ったおもちゃ）
12	たのしいおたんじょうび（紙コップで作る誕生会用の演目）①
13	たのしいおたんじょうび（紙コップで作る誕生会用の演目）②
14	リカちゃんハウス（とびだすカード式で収納するおままごと）①
15	リカちゃんハウス（とびだすカード式で収納するおままごと）②

授業計画	
	【後期】
1	リカちゃんハウス（とびだすカード式で収納するおままごと）③
2	もぐらのおじさん（フリース生地で作るいもほり遠足用演目）①
3	もぐらのおじさん（フリース生地で作るいもほり遠足用演目）②
4	もぐらのおじさん（フリース生地で作るいもほり遠足用演目）③
5	あざらしのたまちゃん（布袋を使って演じるマジック演目）①
6	あざらしのたまちゃん（布袋を使って演じるマジック演目）②
7	あざらしのたまちゃん（布袋を使って演じるマジック演目）③
8	毛糸玉あやつり（毛糸玉で作るあやつり人形）
9	パクパク人形（スポンジで作る口を開く人形）①
10	パクパク人形（スポンジで作る口を開く人形）②
11	ふわ坊（針金と綿で作る演目）①
12	ふわ坊（針金と綿で作る演目）②
13	どっかん花火（ジャバラ式に開く伝承おもちゃ）①
14	どっかん花火（ジャバラ式に開く伝承おもちゃ）②
15	1年間のまとめ、発表会

科目名	特別研究（ゼミ） クリス	授業コード	YE0413M2	科目コード	YE0413
担当教員	クリス チャベス				
授業形態	演習	配当学年	2	期間	通年
単位数	2	科目分類	教養選択	幼稚園教諭	—
				保育士資格	—

1. 主題・到達目標

主題：“Let's Dance!!”（クリスと一緒に踊りましょう！！）

到達目標：基本的なジャズダンスのテクニックを学び、完成されたパフォーマンスを発表会等で披露すること。

2. 授業概要

基本的なジャズダンスのウォーミング・アップ、ステップ、ターンなどのテクニックを習得する。
特にミュージカルを意識しながら、ヒップホップやチアなどの様々なスタイルの振り付けを習得する。
学生のオリジナルの振り付けによるダンスを創作・披露する。
ゼミ発表会の開催はもちろん、そのほかに、短大オープンキャンパスやYOUKONに出演し、日頃の成果を披露する。

<2018年度の成果披露の実績>

○YOUKON！：2019年1月20日（於・前田ホール）

○成果発表会：2019年1月25日（於・キッズスクウェア 1 階ロビー）

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

自主練習（ストレッチ、体の動きの復習、イメージトレーニング）を行なうことは当然です。
ダンスの映像や音楽を日頃から視聴し、ダンスに親しみましょう。
振り付けも考案しましょう。

4. 成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢等の平常点（評価の50%）

ダンスの振り付け・表現力のパフォーマンス（評価の50%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

テキストは使用しない。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

最後の授業まで出席できる学生を希望します。

履修者多数の場合は履修制限をすることがあります。

踊りやすい服装、ダンスシューズ（またはスニーカー）を着用すること。休み時間中に着替えを済ませ、授業開始時には、踊れる体勢を整えてください。

授業計画	
1	ガイダンス 1年間のゼミの内容説明 ウォーミングアップ
2	・呼吸法からストレッチ ・自分の姿勢を認識・修正 ・姿勢づくりのトレーニング ・クロスフロア（ジャズダンスの基本的なステップ）
3	・ストレッチからクロスフロア ・筋力トレーニング ・クロスフロアなどで基本的なステップを使い、音と体をなじませる
4	・ストレッチからクロスフロア ・簡単なダンスのステップ（キックや上半身のダイナミックな動き） ・オープンキャンパスの準備
5	・ストレッチからクロスフロア ・音楽に合わせた振付を覚える。またそれを通して多様な体づかいの認識 ・オープンキャンパスの準備
6	・ウォームアップ、ストレッチからクロスフロア ・振付に加えフォーメーションを作り舞台上での感覚を養う
7	・ウォームアップ、ストレッチからクロスフロア ・オープンキャンパスの準備
8	・オープンキャンパスでのパフォーマンスの映像の視聴とそれについてのディスカッション ・ストレッチ、クロスフロアのさらなる継続
9	・ストレッチ、クロスフロアのさらなる継続 ・オープンキャンパスでのパフォーマンスの試演
10	・ストレッチ、クロスフロアのさらなる継続
11	・発表会等でのパフォーマンスをさらに高めるためのクロスフロア
12	・ウォームアップ、ストレッチからクロスフロア
13	・ウォームアップ、ストレッチからクロスフロア ・後期の発表用パフォーマンスの準備①（ディスカッション）
14	・ウォームアップ、ストレッチからクロスフロア ・後期の発表用パフォーマンスの準備②（ステップ確認、選曲）
15	・前期のステップの復習、パフォーマンスのおさらい

授業計画

1	・前期のステップの復習、確認 ・ステップのグレードアップ
2	・後期パフォーマンス発表（GAKUSAI、YOUKON、ゼミ発表会）のための選曲 ・ステップ練習
3	・後期パフォーマンス発表（SENOZKU GAKUEN FEATUVAL）のための練習①
4	・後期パフォーマンス発表（SENOZKU GAKUEN FEATUVAL）のための練習②
5	・後期パフォーマンス発表（YOUKON、ゼミ発表会）のための練習①
6	・後期パフォーマンス発表（YOUKON、ゼミ発表会）のための練習②
7	・後期パフォーマンス発表（YOUKON、ゼミ発表会）のための練習③
8	・後期パフォーマンス発表（YOUKON、ゼミ発表会）のための練習④
9	・発表用パフォーマンスの総仕上げ①
10	・発表用パフォーマンスの総仕上げ②
11	・発表用パフォーマンスの総仕上げ③ ・映像のチェック、ステップ等のパフォーマンスの修正①
12	・発表用パフォーマンスの修正②
13	・発表会パフォーマンスの最終チェック
14	・後期パフォーマンスの映像視聴 ・反省会および評価ディスカッション
15	・最終パフォーマンス（総仕上げおよび踊り納め） ・ゼミの総まとめ

科目名	特別研究（ゼミ） 谷上		授業コード	YE0413T1	科目コード	YE0413
担当教員	谷上 公子					
授業形態		配当学年	2	期間		
単位数	2	科目分類		幼稚園教諭		保育士資格

1. 主題・到達目標

リトミック

2. 授業概要

- ①保育現場で使えるリトミック活動の紹介と実習をします。
こどもの音楽的発達を知り、こどもたちを惹きつけるレパートリーを持ちましょう。
- ②ダルクローズ・リトミックで音楽を幅広く楽しく学びます。
保育士として必要な音楽基礎力とこどもに伝わる表現力を身に付けましょう。
- ③トーンチャイム合奏、連弾などアンサンブル演奏を体験します。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

- ①日常のなかにあるリズムやメロディにアンテナをはってください。
- ②実習先のこどもたちの声の高さ、強さ、しゃべる速さ、動きをしっかりと観察してください。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点（出席・参加姿勢）50% 課題実習・試験 50%

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

授業にて毎回配布。

参考文献例

- ・リトミックベストコレクション～0才からはじめられるこどもの成長を考えたリトミック～
（自由現代社）
- ・年齢別行事言葉かけハンドブック（世界文化社）
- ・ピアノスタディ（ヤマハ）
- ・大人の音楽ワーク・テキスト（ヤマハ）
- ・保育士試験実技対策（成美堂出版 音楽表現：谷上著）

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

出来る出来ないではなく音楽が好きな人。
こども達に音楽的な保育を取り入れたい人。
最後まできちんと出席できる人。

授業計画	
	年齢別リトミック
1	ガイダンス リトミック体験
2	保育リトミック① 「3才児 発達と音楽の関連」 (資料配布 実技と講義) 3才児用レパートリーと指導ポイント (レパートリー紹介と実習)
3	保育リトミック② 「4才児 発達と音楽の関連」 (資料配布 実技と講義) 4才児用レパートリーと指導ポイント (レパートリー紹介と実習)
4	保育リトミック③ 「5才児 発達と音楽の関連」 (資料配布 実技と講義) 5才児用レパートリーと指導ポイント (レパートリー紹介と実習)
5	保育リトミック④ 「楽器遊び(3、4才児)」 ～楽器を与えるまえに体験するたいせつなこと～
6	保育リトミック⑤ 「合奏(3,4,5才児)」 ～適切な選曲・テンポ・リズムパターン～
7	リトミックⅠ ～ダルクローズ・リトミックでリズム感を磨こう～
8	リトミックⅡ ～ダルクローズ・ソルフェージュで音感を磨こう～
9	アンサンブル トーンチャイム合奏
10	乳幼児リトミック① 0.1.2才児 発達と音楽の関連part1 資料配布(0才児の音楽の聴こえ方) レパートリー紹介と実習
11	乳幼児リトミック② 0.1.2才児 part2 1才児(聴こえ方と音楽反応) 歩ける前のレパートリー
12	乳幼児リトミック③ 0.1.2才児 part3 資料配布 2才児(様々な音楽反応と表現) レパートリー紹介と指導ポイント
13	リトミックⅢ ～ダルクローズ・リトミック(即興)～ 苦手な人も得意な人もピアノで遊ぼう 保育で使えるピアノ奏法
14	前期まとめ①・レパートリー楽譜と指導プランの整理
15	前期まとめ② 試験(記述と実技)

授業計画	
	季節のリトミック活動
1	9月テーマ「お月見」 part 1 年齢別行事のお話し・あそびうた・絵本 など。 指導法①：模唱・模倣指導の仕方
2	「お月見」 part 2 part 1 の発展 アンサンブル♪連弾（導入）
3	10月テーマ「ハロウィン」 part 1 年齢別お話し・うた・絵本 アンサンブル♪連弾①
4	「ハロウィン」 part 2 part 1 発展 指導法②：リズム指導の導入と基礎
5	リトミックⅣ ～現場に出る前に、保育士として身に付けておきたい音楽基礎part 1～ R 合奏指導のための♪ビート・きざみ・リズム sol 歌唱指導のための♪ピッチ・音程・音階
6	11月テーマ「おしごと」 part 1 年齢別お話し・うた・絵本 アンサンブル♪連弾②
7	「おしごと」 part 2 part 1 の発展 音楽遊び用教具：かんたんペープサート作り
8	テーマ「乳幼児リトミック」 オノマトペ絵本の使い方 アンサンブル♪連弾③
9	12月テーマ「クリスマス」 part 1 行事のおはなし・絵本・うた 指導法③：歌唱指導（リトミック的導入の仕方）
10	リトミックⅤ ～身に付けておきたい音楽基礎part 2～ R ビートの種類 リズムパターン sol 和音
11	アンサンブル 連弾と合奏
12	1月テーマ「お正月」 part 1 年齢別お話し・うた・絵本
13	リトミックⅥ ダルクローズ・リトミック総合
14	後期まとめ①・レパートリー楽譜と指導プランの整理
15	後期まとめ② 試験（記述と実技）

科目名	特別研究（ゼミ） 井上		授業コード	YE0413T2	科目コード	YE0413
担当教員	井上 眞理子					
授業形態		配当学年	2	期間		
単位数	2	科目分類		幼稚園教諭		保育士資格

1. 主題・到達目標

子どもの主体性を育む保育の実践を幼稚園、保育所に参加し、体感する。保育者としての資質や専門性、環境のデザイン、協同性のもとに実践する保育を観察し、現場の保育者、管理職とのディスカッションを通して、現場で活躍するための自己の課題を明確にする。

2. 授業概要

専門科目や実習を通して捉えた子どもの主体性についてディスカッションを通して理解を深める。子どもの主体性を尊重した保育を実践している幼稚園や保育所を見学し、その実際を理解する。子どもの生活や遊びが発展するための環境デザインについて、理論を学ぶとともに、幼稚園や保育所の見学でその実際を理解する。保育者や管理職と共に、保育の実際についてディスカッションする。気づいたことや学んだことを整理し、プレゼンテーションすることを通して、他者に伝える力を養う。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

授業で取り上げたテーマについて、文献や資料を検索し理解を深め、次の授業での話し合いの内容を整理する。想定時間は各授業につき、120分程度である。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点60%、レポート40%とする。

平常点は、授業におけるグループディスカッションへ貢献度、現場体験での観察姿勢を評価する。

レポートは、与えられたテーマについて、講義や現場体験の内容を踏まえ、適宜、参考文献等を活用して自己の見解を深めることができているかを評価する。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

授業中に、適宜、資料を配布する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

子どもの主体的な育ちを支える保育に関心を持ち、学生自身もまた主体的に保育実践をより深く理解したいと授業に参加できる積極性のある姿勢を求めます。

テキストや講義内容と共に、実際の保育実践や保育者の語りに触れ、自己の保育観や保育者像を見つめ、参加者同士による語り合いや見解の共有から多面的に保育を捉えようとする態度で参加してください。

授業計画

1	オリエンテーション：子どもの主体的な育ちの捉え方の共有
2	自分が目指す保育実践とは①テーマの探索と研究
3	自分が目指す保育実践とは②プレゼンテーションとディスカッション
4	海外の保育実践の実際①アメリカの保育実践
5	主体的な保育の実際を体験する
6	主体的な保育実践を保育者の語りから学ぶ
7	主体的な保育実践の探求と研究
8	主体的な保育実践のプレゼンテーションとディスカッション
9	海外の保育実践の実際②レッジョ・エミリアアプローチ
10	多様なコミュニケーションの力を培う保育
11	多様なコミュニケーションの力を培う保育を体験する
12	多様なコミュニケーションの力を培う保育を保育者の語りから学ぶ
13	多様なコミュニケーションの力を培う保育の探求と研究
14	多様なコミュニケーションの力を培う保育のプレゼンテーションとディスカッション
15	子どもの主体性を育む保育とは（まとめ）

授業計画

1	自分が目指す保育実践とは③保育所実習の振り返りから
2	レッジョエミリアアプローチから保育環境を考える
3	園外保育の実際と計画
4	園外保育における自然と触れ合いを体験する
5	園外保育における自然素材との出会いを体験する
6	自然素材を活用した遊びの展開
7	自分が目指す保育実践とは④就職に向けて
8	保育環境デザインの理論
9	保育環境設計の実際
10	季節や行事を楽しむ保育の計画
11	季節や行事を楽しむ保育実践を体験する
12	組織としての保育現場の探求と研究
13	組織としての保育現場のプレゼンテーションとディスカッション
14	組織論の基礎と保育者の専門性
15	保育者としての自らの成長と展望

科目名	特別研究（ゼミ） 和気	授業コード	YE0413W1	科目コード	YE0413
担当教員	和気瑞江				
授業形態	演習	配当学年	2	期間	通年
単位数	2	科目分類		幼稚園教諭	
				保育士資格	

1. 主題・到達目標

児童文化は子どもの健やかな心の成長に大きく寄与するばかりでなく、生きた言葉を聞き、話すことができるようになるための表現活動としての役割を担っている。保育者としての感性を豊かにし、パネルシアターや人形劇などの児童文化教材を活用できるための知識や技術を身に付け、保育の現場で生かすことが出来る作品作りを目標とする。

2. 授業概要

児童文化教材～パネルシアター・エプロンシアター・人形劇など～の作品製作と演技を学ぶ。教育実習を目標に個々の作品作りをするほか、全員で人形劇に取り組み、上演を行う。保育の現場で生かすことのできる作品を作る。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

幼児のための絵本や童話・歌などにたくさん触れ、表現活動の幅を広げるようにする。制作した作品は教育実習など、実際に幼児と触れ合う機会に実践ができるよう、確実に身に付けていくように心がける。

4. 成績評価の方法及び基準

平常の授業態度、熱意、作品の内容などで評価する。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

1年の基礎表現で使用した『保育者のための言語表現の技術—子どもとひらく児童文化財をもちいた保育実践—』（萌文書林）は児童文化の参考書として活用することができる。
参考文献は必要に応じて紹介する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

保育の現場で幼児とコミュニケーションをとる手段として、児童文化教材を使った表現活動が果たす役割は大きい。演劇的な表現が苦手な場合でも、より優れた表現者を目指すよう努力すること。

授業計画	
	前期 教育実習に向けての作品製作と実演、人形劇鑑賞会(枠外)、FUYUONに向けて人形劇の作品作り開始。パネルシアターでもエプロンシアターでも、作りたい作品は自分で考えること。作品についてのアドバイスはどんなことでもします。
1	オリエンテーション
2	実習に向けての作品作り①製作する作品を各自考えて作業を開始する
3	実習に向けての作品作り②作品製作
4	実習に向けての作品作り③作品を仕上げる
5	実習に向けての作品作り④仕上げた作品の演技方を考える
6	実習に向けての作品作り⑥演技を実践し固めていく
7	実習に向けての作品作り⑦試演
8	人形劇舞台鑑賞会
9	FUYUONでの上演作品の検討(人形劇の予定)
10	(人形劇の場合)人形製作～人形の構造とデザイン
11	人形製作①カシラ製作
12	人形製作②カシラ製作～仕上げ
13	人形製作③カシラ仕上げ～胴体・手足製作
14	人形製作④胴体仕上げ～組立て
15	小道具・大道具の作成～道具のピックアップとデザイン

授業計画	
	後期 発表に向けての仕上げと卒業に向けて、保育の現場で使うことのできる作品をできるだけたくさん作っておく。出張ボランティア公演(枠外)で幼児に向けて上演する機会も期待できる。
1	道具作り～小道具製作
2	道具作り～小道具仕上げ
3	道具作り・公演プログラムの確認
4	脚本読み合わせ～立ち稽古
5	立ち稽古～部分稽古
6	人形劇通し稽古～他の作品の確認
7	全ての作品の稽古と確認
8	リハーサル
9	上演を振り返ってミーティング
10	卒業に向けて作品作り①作りたい作品を個々に検討
11	卒業に向けて作品作り②作品をデザインする～製作
12	卒業に向けて作品作り③演技を考えながら制作
13	卒業に向けて作品作り④仕上げ
14	卒業に向けて作品作り⑤演技の確認
15	卒業に向けて作品作り⑥試演と総括

科目名	特別研究（ゼミ） 古田	授業コード	YE0413W2	科目コード	YE0413
担当教員	古田 賢司				
授業形態	演習	配当学年	2	期間	通年
単位数	2	科目分類	教養選択	幼稚園教諭	—
				保育士資格	—

1. 主題・到達目標

保育園、幼稚園で管楽器、打楽器などでコンサートを行う事を目標とし、コンサートの企画、楽曲の選択、編曲、合奏練習を行う。
また、アンサンブルを通じて深く合奏を学ぶ。

2. 授業概要

保育園、幼稚園におけるコンサートの場合、ゼミを履修した学生の楽器編成、または選曲において、既成の出版譜を使用出来ることは少なく、自分たちでピアノ譜等をベースに編曲する必要がある。そこにこのゼミのもう一つの目標があり、どのような編成、人数でも、子供たちが喜ぶ楽曲、パフォーマンスを出来るようにする。
ゼミの卒業生の意見を聞くと、この体験が現場で少なからず役立っているそうである。

YOUKONにおいては、子ども向けに限らず、アンサンブルを学んだ集大成となるレベルの選曲をし、演奏をする。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

特にありませんが、本番前には各自最低限の練習を行い、技術を保つこと。

4. 成績評価の方法及び基準

授業への参加姿勢、出席による。

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

特にありません。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

管打楽器を用いての合奏経験があり、アンサンブルを出来る技術があること。
また基本的に各自、楽器を所有していること。
大型楽器など、短大の備品にある楽器は借用することが出来る。

授業計画

	簡単な楽典などの基礎知識の勉強を行い、アンサンブルに役立てる。
1	ガイダンス
2	楽典(基本) 楽器を用いてのスケール練習
3	楽典(コードネーム) 楽器を用いてアルペジオ(分散和音)練習
4	楽典 各楽器の調性、特性について
5	展開 簡単なピアノ曲を楽器を使って実践する。
6	編曲 リズムのパターンを定める。
7	編曲 和音の構成を考える。
8	編曲 ベースラインの作成、創作。
9	幼稚園、保育園でのコンサートをイメージし選曲を考える。
10	楽曲の素材集めを行う。
11	楽曲の和音、リズムの方向性を考える。
12	依頼演奏に向けてのプログラミング。
13	プログラムの構成を精査する。
14	MCや手遊びなど演奏以外の要素を確定。
15	本番通りにランスルーを行い、その後意見交換を行う。

授業計画

	訪問演奏が10, 11月にある予定なので、そちらに向けての練習、準備を行う。
1	訪問演奏に向けてのプログラミング。
2	幼児のための楽曲から数曲ピックアップし選曲をする。
3	選曲した楽曲のリズム、和音の確定。
4	ポップス、その時に流行っている楽曲からピックアップする。
5	編曲の方向性の確定。
6	アンサンブルのクオリティを上げるための練習。
7	MCの確定。
8	ランスルー、リハーサルを行い、録画などをして客観的にパフォーマンスを確認する。
9	訪問演奏の実務のための準備。
10	訪問演奏の実践。
11	訪問演奏の反省、および意見交換。
12	YOUKON!のための選曲。
13	YOUKON!のためのリハーサル。
14	YOUKON!のステージリハおよび本番。
15	1年間のまとめ、総括。

科目名	特別研究（ゼミ） 秋山	授業コード	YE0413F1	科目コード	YE0413
担当教員	秋山 徹				
授業形態	演習	配当学年	2	期間	通年
単位数	2	科目分類	教養選択	幼稚園教諭	—
				保育士資格	—

1. 主題・到達目標

美しく魅力ある「声」を研究しよう！”声を磨き、音楽技能や音楽表現力を高めるゼミ”

保育者にとって、美しい声で話すことや歌うことは大切な要素です。
 美しい声と言っても、どのような声が良いと言われる声なのか。
 どのようにしたら魅力ある声を出すことが出来るのかを、
 色々な分野のソロ、デュエット、アンサンブル曲などを演習しながら研究を重ねます。
 歌唱技術を向上させて、自身の声を充分活かした理想的な声が出せるようになること。
 そして、声と歌唱に自信を持ち、歌がますます好きになることが目標です。

2. 授業概要

2018年度活動内容

通年 個人ならびにグループによる希望者レッスン（金曜日Ⅱ限・Ⅲ限・Ⅳ限）

- ・10月 乳幼児向けコンサートの企画ならびに出張演奏実習（保育園）
- ・11月 乳幼児向けコンサートの企画ならびに出張演奏実習（保育園）
- ・11月 FUYUON 音楽劇「プリンセスの冒険」の企画、演奏実習
- ・1月 YOUKONIにおけるソロやアンサンブルの演奏実習

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

積極的に実習作品の演習や作品研究に取り組んでください。
 想定必要時間は2時間程度となります。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）、演習・作品研究（評価の50%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

研究作品の楽譜・資料を用意してください。
 参考文献については適宜紹介します。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

特にありません。

授業計画	
	指導も行いながら、個人やグループによる下記の計画を進めます。
1	ガイダンス
2	前期実習計画案作成
3	アンサンブル演習 (1)
4	アンサンブル演習 (2)
5	アンサンブル演習 (3)
6	演習曲試演会 (1)
7	アンサンブル演習 (4)
8	アンサンブル演習 (5)
9	アンサンブル演習 (6)
10	演習曲試演会 (2)
11	ソロ・デュエット演習 (1)
12	ソロ・デュエット演習 (2)
13	ソロ・デュエット演習 (3)
14	演習曲試演会 (3)
15	前期演習曲まとめ

授業計画	
	指導も行いながら、個人やグループによる下記の計画を進めます。
1	後期実習計画案作成
2	演奏実習作品研究（1）
3	演奏実習作品研究（2）
4	演奏実習作品研究（3）
5	演奏実習作品試演会
6	演奏実習事後研究
7	音楽劇作品研究（1）
8	音楽劇作品研究（2）
9	音楽劇作品研究（3）
10	音楽劇作品試演会
11	音楽劇作品事後研究
12	演習・作品研究まとめ（1）
13	演習・作品研究まとめ（2）
14	演習・作品研究まとめ（3）
15	総括

科目名	パイプオルガン1		授業コード	YE0414**	科目コード	YE0414
担当教員	荻野 由美子・川越 聡子					
授業形態	演習	配当学年	1	期間	通 年	
単位数	2	科目分類	教養選択	幼稚園教諭	-	保育士資格 選択

1. 主題・到達目標

パイプオルガンはピアノと同じ鍵盤楽器ですが、管楽器の集合体でもあります。そしてヨーロッパのキリスト教会で礼拝に用いられて発達した楽器なのです。また本学校歌の歌詞「互いに足を洗う」は、キリスト教の精神に基づくものです。本講座では宗教音楽に触れながら、パイプオルガンの演奏法を経験することを目標とします。

2. 授業概要

個人の希望に合わせて楽曲を選択しオルガン奏法について演習します。ピアノや電子オルガンなど、これまでに経験した鍵盤楽器とは全く異なる奏法や楽曲に触れることにより、新たな発見があるでしょう。
12月にクリスマスコンサートを開催するほか、オーディションで選抜された学生は1月のYOUKONで前田ホールのオルガンを演奏することができます。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

与えられた課題を練習してから臨むこと。
授業後は指摘された点を復習し、次の授業までに改善できるよう、また更なる上達を目指して練習すること。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点（評価の50%）
授業時の演習姿勢と内容（評価の50%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

讃美歌（きよしこのよる、もろびとこぞりて等）その他、バッヘルベル、バッハなどのオルガン楽曲。
個人の希望とレベルに合わせて選曲する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ピアノ「グレードⅣ」以上
また、J. S. バッハ「インヴェンション」を勉強した経験があること。（1回目の授業で、「インヴェンション」より任意の1曲を演奏する。）
5人のグループレッスンの形態を取りますが、各自日々の練習を大切にしてレッスンに臨むこと。

授業計画	
	【前期】
1	ガイダンス、オルガンの歴史と構造
2	奏法の基礎1（タッチ）
3	奏法の基礎2（ペダル奏法）
4	奏法の基礎3（レジストレーション）
5	讃美歌、聖歌の伴奏法
6	手鍵盤のみの楽曲1
7	手鍵盤のみの楽曲2
8	手鍵盤のみの楽曲3
9	手鍵盤のみの楽曲4
10	手鍵盤のみの楽曲5
11	足鍵盤付きの楽曲1
12	足鍵盤付きの楽曲2
13	足鍵盤付きの楽曲3
14	足鍵盤付きの楽曲4
15	前期のまとめ

授業計画	
	【後期】
1	ツイボリの楽曲 1
2	ツイボリの楽曲 2
3	スタンリーの楽曲 1
4	スタンリーの楽曲 2
5	フィッシャーの楽曲 1
6	フィッシャーの楽曲 2
7	パッヘルベルの楽曲 1
8	パッヘルベルの楽曲 2
9	J. S. バッハの楽曲 1
10	J. S. バッハの楽曲 2
11	クリスマスコンサートの準備 1
12	クリスマスコンサートの準備 2
13	フランクの楽曲 1
14	フランクの楽曲 2
15	後期のまとめ

科目名	パイプオルガン2	授業コード	YE0415**	科目コード	YE0415
担当教員	荻野 由美子・川越 聡子				
授業形態	演習	配当学年	2	期間	通年
単位数	2	科目分類	教養選択	幼稚園教諭	-
				保育士資格	選択

1. 主題・到達目標

パイプオルガンはピアノと同じ鍵盤楽器ですが、管楽器の集合体でもあります。そしてヨーロッパのキリスト教会で礼拝に用いられて発達した楽器なのです。また本学校歌の歌詞「互いに足を洗う」は、キリスト教の精神に基づくものです。本講座では宗教音楽に触れながら、パイプオルガンの演奏法を経験することを目標とします。

2. 授業概要

さらなる技術の向上を目指し、個人の希望に合わせて楽曲を選択しオルガン奏法について演習します。ピアノや電子オルガンなど、これまでに経験した鍵盤楽器とは全く異なる奏法や楽曲に触れることにより、新たな発見があるでしょう。オーディションで選抜された学生は1月のYOUKONで前田ホールのオルガンを演奏することができます。

3. 授業時間外の学習（予習復習について）

与えられた課題を練習してから臨むこと。
授業後は指摘された点を復習し、次の授業までに改善できるよう、また更なる上達を目指して練習すること。

4. 成績評価の方法及び基準

平常点（練習での目標到達度合い）（評価の50%）
授業時の演習姿勢と内容（評価の50%）

5. 授業で使用するテキスト・参考文献

讃美歌（きよしこのよる、もろびとこぞりて等）その他、バッヘルベル、バッハなどのオルガン楽曲を含む課題集を、授業内で配布する。個人の希望とレベルに合わせて選曲する。

6. 履修の条件・クラス分けの方法（履修者への要望等）

ピアノ「グレードⅣ」以上
また、J. S. バッハ「インヴェンション」を勉強した経験があること。（1回目の授業で、バッハのクラヴィーア作品より任意の1曲を演奏する。）
5人のグループレッスンの形態を取りますが、各自日々の練習を大切にしてレッスンに臨むこと。

授業計画	
	【前期】
1	ガイダンス、オルガンの歴史と構造
2	奏法の基礎1（タッチ）
3	奏法の基礎2（ペダル奏法）
4	奏法の基礎3（レジストレーション）
5	讃美歌、聖歌の伴奏法
6	手鍵盤のみの楽曲(1)時代背景、形式を中心に
7	手鍵盤のみの楽曲(2)和声と奏法を中心に
8	手鍵盤のみの楽曲(3)レジストレーションと表現法を中心に
9	手鍵盤のみの楽曲(4)表現法の掘り下げ
10	手鍵盤のみの楽曲(5)仕上げとまとめ
11	足鍵盤付きの楽曲(1)時代背景、形式を中心に
12	足鍵盤付きの楽曲(2)和声と奏法を中心に
13	足鍵盤付きの楽曲(3)レジストレーションと表現法を中心に
14	足鍵盤付きの楽曲(4)表現法の掘り下げ
15	足鍵盤付きの楽曲(5)仕上げとまとめ *上記に加え、必要に応じて適宜楽曲を学ぶ。 *各回の授業内容は、進度により変更することがある。

授業計画	
	【後期】
1	J. S. バッハの楽曲 (1) 時代背景、様式を中心に
2	J. S. バッハの楽曲 (2) 形式、和声を中心に
3	J. S. バッハの楽曲 (3) 奏法を中心に
4	J. S. バッハの楽曲 (4) レジストレーション、表現法を中心に
5	J. S. バッハの楽曲 (5) 表現の掘り下げ
6	J. S. バッハの楽曲 (6) 仕上げとまとめ
7	課題曲を学ぶ (1) 時代背景、様式を中心に
8	課題曲を学ぶ (2) 形式、和声を中心に
9	課題曲を学ぶ (3) 奏法を中心に
10	課題曲を学ぶ (4) レジストレーション、表現法を中心に
11	課題曲を学ぶ (5) 表現法の掘り下げ
12	課題曲を学ぶ (6) 仕上げとまとめ
13	演奏会の準備、プログラミング
14	演奏会の総練習
15	演奏会とまとめ *上記に加え、必要に応じて適宜楽曲を学ぶ。 *各回の授業内容は、進度により変更することがある。